

**かかりつけ薬剤師・薬局及び薬薬連携推進に向けた
薬剤師の需給動向等調査報告書**

令和2年3月

静岡県

目次

第1章 調査背景、目的、実施方法等.....	1
1. 背景.....	1
2. 目的.....	1
3. 実施方法.....	1
第2章 調査結果.....	2
1. 静岡県内の薬剤師の状況（厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」）.....	2
2. 薬局における業務状況（東海北陸厚生局管内の施設基準の届出受理状況）.....	3
3. 薬局及び病院における薬剤師の実態把握（アンケート調査結果）.....	4
第3章 薬剤師需給予測.....	18
1. 推計期間、推計方法.....	18
2. 薬剤師需給予測の結果.....	19
第4章 薬学部生との意見交換会.....	25
第5章 まとめ.....	26
別添（第2章、第3章補足資料）	
I 薬局アンケート調査.....	27
II 病院アンケート調査.....	67
III 薬剤師需給予測.....	93
参考 静岡県2次保健医療圏域図.....	109

第1章 調査背景、目的、実施方法等

1. 背景

地域包括ケアシステムの構築が進められる中、薬局薬剤師には、地域の実情に応じて多職種等と連携し、高齢化や在宅医療、高度な薬学的管理が必要な薬物療法の増加等に対応し、患者の服薬状況等を一元的・継続的に把握し、最適な薬学的管理やそれに基づく指導を行うこと等が求められている。また、病院薬剤師には、病棟での持参薬管理や服薬管理のほか、医師に対する薬物療法の提案、外来診療において医師の診察前に服薬状況等を薬学的な観点から確認を行うこと等、薬剤師の専門性を活かして医師の負担軽減に寄与することが期待されている。

しかし、薬局、病院の薬剤師の需給動向等については、全国的な薬剤師の需給動向の予測がされてきているが、地域ごとの状況は示されていない。

2. 目的

薬剤師の業務実態や充足感、今後の業務の方向性等を把握し、県内各二次保健医療圏における薬剤師需給の将来動向を推計し、薬局機能強化や病院を含む薬薬連携対策に必要な事項や県内薬剤師の需要動向等を検討する。

3. 実施方法

厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」、保険薬局の施設基準の届出受理状況（東海北陸厚生局公表）、及び県内の全病院、全薬局を対象としたアンケート調査¹により、薬剤師の業務実態や過不足、今後の業務の方向性を把握した。

また、県内各地域の医療状況、人口動態等を踏まえ、全県及び二次保健医療圏ごとに薬剤師の将来需給動向の推計を行った。推計においては、長谷川班研究²の方法を基本としつつ、平成30年度医師・歯科医師・薬剤師調査結果、アンケート調査の結果等から明らかになった薬局及び病院の今後の業務の方向性等を加味した。

アンケート調査結果及び薬剤師需給将来動向推計結果は、公益社団法人静岡県薬剤師会及び静岡県病院薬剤師会代表者による検討会、県薬事審議会により内容を検討した。

さらに、静岡県立大学薬学部生との意見交換会の開催により、就職における薬学生のニーズ等を確認した。

¹ 令和元年7月～8月、郵送及びメールにより実施（みずほ情報総研株式会社委託）

² 平成30年度厚生労働行政推進調査事業費補助金 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業 かかりつけ薬剤師・薬局の多機関・多職種との連携に関する調査研究分担研究 「薬剤師の需給動向の予測および薬剤師の専門性確保に必要な研修内容等に関する研究」（研究分担者 長谷川洋一 名城大学薬学部教授）

第2章 調査結果

1. 静岡県内の薬剤師の状況（厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」）

(1) 薬剤師数の推移(2006年～2018年)

2018年末における本県の薬剤師数(薬局及び医療施設従事者)は6,504人で、2006年末と比べて1,646人増加しているが、2006年末からの増減率をみると、全国が1.38であるのに対して、静岡県が1.34と全国を下回っている。

図表1 薬剤師数(薬局及び医療施設従事者)の推移

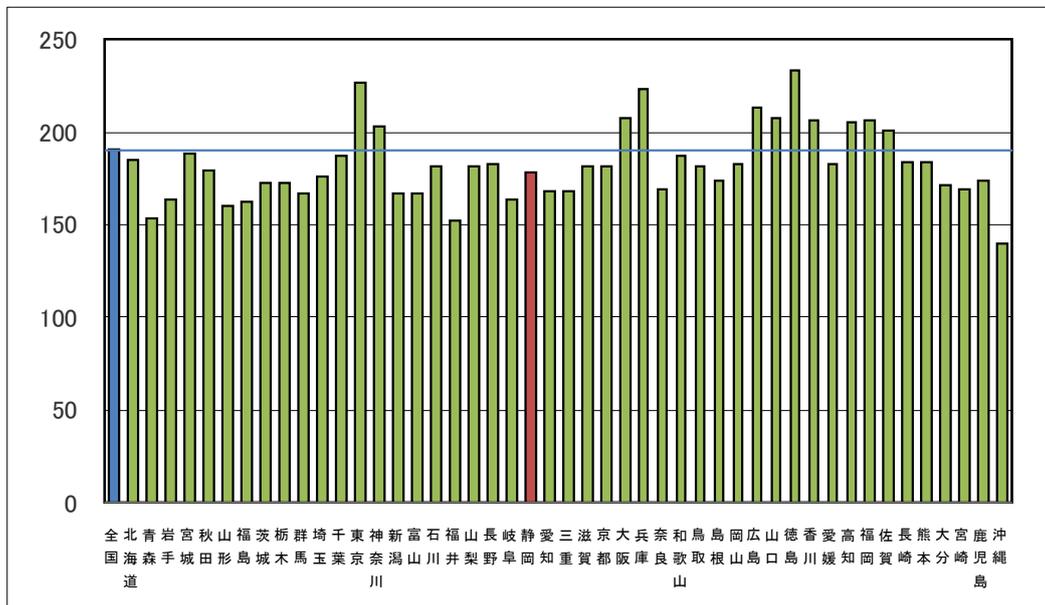
		2006	2008	2010	2012	2014	2016	2018
人数	全国	174,218	186,052	197,616	205,716	216,077	230,186	240,371
	静岡県	4,858	5,194	5,409	5,611	5,883	6,231	6,504
増減率 (対2006年)	全国	1.00	1.07	1.13	1.18	1.24	1.32	1.38
	静岡県	1.00	1.07	1.11	1.16	1.21	1.28	1.34

出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」

(2) 人口10万人当たり薬剤師数の状況(2018年)

本県の人口10万人当たり薬剤師数(薬局及び医療施設従事者)は177.8人と全国の190.1人と比較すると12.3人下回っており、全国27位の水準である。

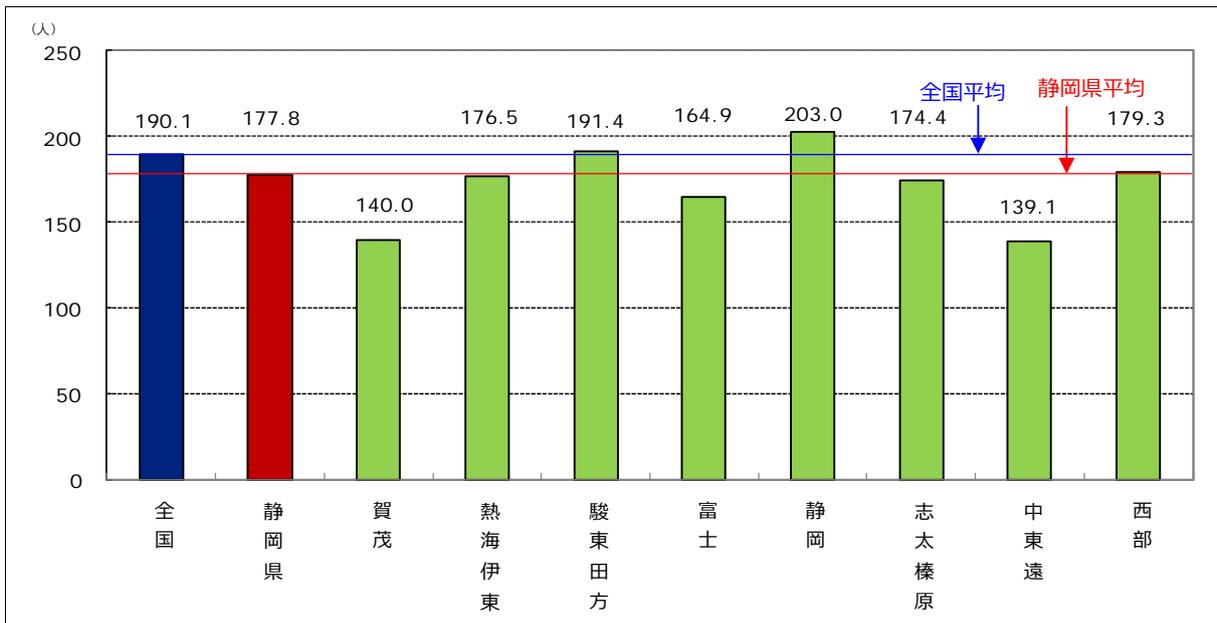
図表2 人口10万人当たり薬剤師数(薬局及び医療施設従事者)の状況



出典：厚生労働省「平成30年医師・歯科医師・薬剤師調査」

また、人口10万人当たり薬剤師数(薬局及び医療施設従事者)を県内の各二次保健医療圏別にみると、静岡、駿東田方は全国平均を上回っているが、他の二次保健医療圏では全国平均を下回る水準である。

図表3 人口10万人当たり薬剤師数（薬局及び医療施設従事者）の状況；二次保健医療圏別



厚生労働省「平成30年医師・歯科医師・薬剤師調査」、統計センター静岡「静岡県人口推計」（H30.10.1）より作成

2. 薬局における業務状況（東海北陸厚生局管内の施設基準の届出受理状況）

県内薬局の業務状況を把握するため、県内保険薬局の調剤基本料等に係る施設基準届出状況を調査した。結果、平成30（2018）年7月から令和元（2019）年7月の1年間では、「かかりつけ薬剤師指導料及びかかりつけ薬剤師包括管理料」届出数は若干減少していたが、「在宅管理訪問薬剤管理指導料」「地域支援体制加算」「無菌製剤処理加算」は増加しており、薬局における在宅業務の拡充傾向が見られた。

図表4 東海北陸厚生局管内の施設基準の届出受理状況（届出件数）

届出の種類	2018年7月		2019年7月		増減
調剤基本料	1,761		1,777		+16
	1	1,488(84.5%)	1	1,521(85.6%)	+33(+1.1%)
	2	70(4.0%)	2	65(3.7%)	-5(-0.3%)
	3イ	71(4.0%)	3イ	65(3.7%)	-6(-0.3%)
	3ロ	132(7.5%)	3ロ	126(7.1%)	-6(-0.4%)
かかりつけ薬剤師指導料及びかかりつけ薬剤師包括管理料	1,026(58.3%)		1,024(57.6%)		-2(-0.1%)
在宅患者訪問薬剤管理指導料	1,657(94.1%)		1,677(94.4%)		+20(+1.1%)
地域支援体制加算	470(26.7%)		520(29.3%)		+50(+2.8%)
無菌製剤処理加算	51(2.9%)		55(3.1%)		+4(+0.2%)

() 内は調剤基本料の届出をしている薬局数（調剤基本料1～3イロの合計）に対する割合

3. 薬局及び病院における薬剤師の実態把握（アンケート調査結果）

(1) 薬局アンケート回収状況

図表 5 薬局アンケート回収状況

	全体	二次保健医療圏								
		賀茂	熱海伊東	駿東田方	富士	静岡	志太榛原	中東遠	西部	不明
発送数	1,810	32	56	307	178	396	264	203	374	-
回収数	1,287	23	38	216	129	286	201	151	239	4
回収率	71.1%	71.9%	67.9%	70.4%	72.5%	72.2%	76.1%	74.4%	63.9%	-

(2) 病院アンケート回収状況

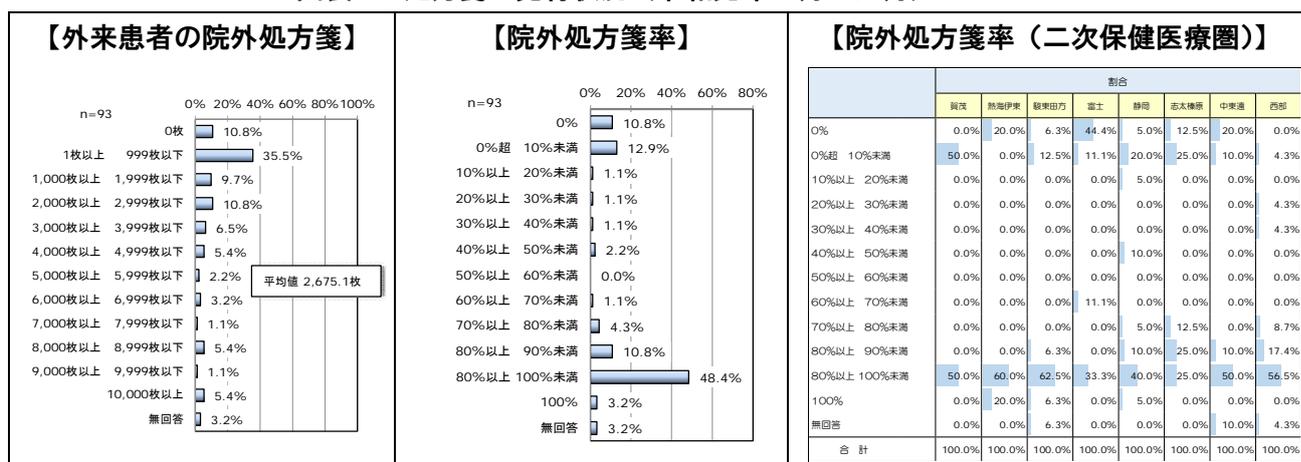
図表 6 病院アンケート回収状況

	全体	二次保健医療圏								
		賀茂	熱海伊東	駿東田方	富士	静岡	志太榛原	中東遠	西部	
発送数	175	8	7	47	17	29	13	19	35	
回収数	93	2	5	16	9	20	8	10	23	
回収率	53.1%	25.0%	71.4%	34.0%	52.9%	69.0%	61.5%	52.6%	65.7%	

(3) 処方箋の状況

県内病院における令和元年6月1か月間の外来患者の院外処方箋枚数は1病院当たり平均2,675.1枚であり「1枚以上999枚以下」35.5%が最も多い階級であった。院外処方箋率は「80%以上100%未満」48.4%が最も多い階級であり、二次保健医療圏別でも富士以外は最も多い階級であった。

図表 7 処方箋の発行状況（令和元年6月1か月）



県内薬局における処方箋の応需状況を二次保健医療圏別にみると、「主に近隣にある特定の診療所の処方箋を応需している薬局」が最も多く、次いで「様々な保険

医療機関から処方箋を応需している薬局」が多かった。「主に近隣にある特定の診療所の処方箋を応需している薬局」については、二次保健医療圏別で「富士」61.2%が最も高く、最も低い「熱海伊東」とは27.0%の差となり、処方箋の発行状況及び薬局における応需状況では二次保健医療圏ごとに差がある結果となった。「その他」は「近隣ではない特定の診療所の処方箋を応需している薬局」等であった。

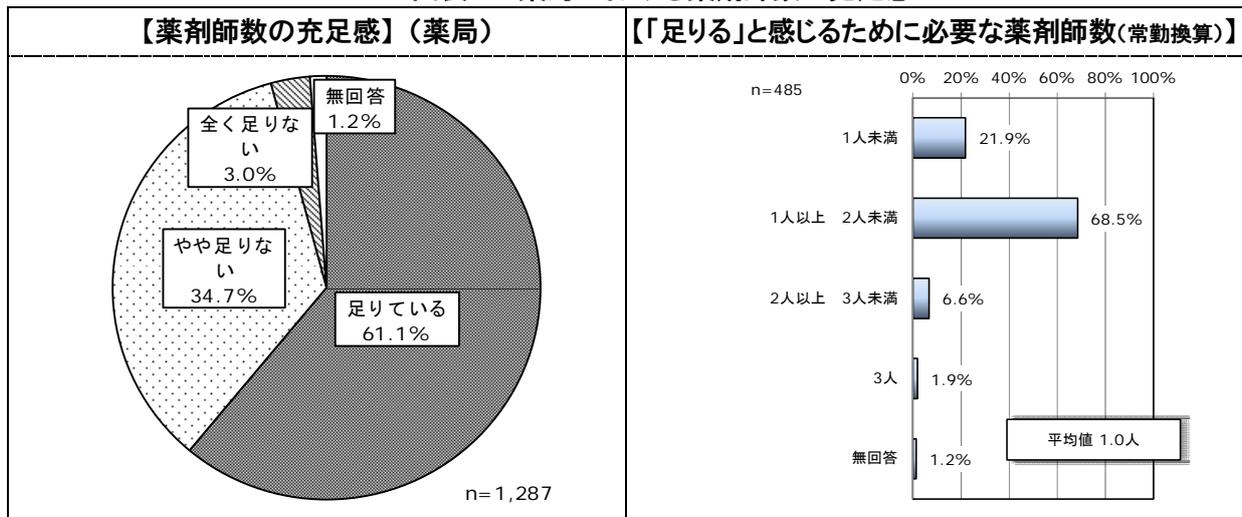
図表 8 処方箋の応需状況

処方箋の応需状況	賀茂	熱海伊東	駿東田方	富士	静岡	志太榛原	中東遠	西部
主に近隣にある特定の病院の処方箋を応需している薬局	8.7%	15.8%	13.9%	17.1%	12.9%	11.9%	10.6%	15.1%
主に近隣にある特定の診療所の処方箋を応需している薬局	52.2%	34.2%	55.6%	61.2%	45.1%	48.8%	56.3%	45.2%
主に複数の特定の保険医療機関（医療モールやビル診療所など）の処方箋を応需している薬局	0.0%	0.0%	2.8%	1.6%	2.4%	1.0%	6.0%	3.8%
様々な保険医療機関からの処方箋を応需している薬局	30.4%	42.1%	23.6%	14.7%	33.2%	31.8%	21.9%	28.5%
同一敷地内にある病院の処方箋を応需している薬局	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
同一敷地内にある診療所の処方箋を応需している薬局	0.0%	2.6%	1.4%	0.0%	0.3%	0.5%	0.7%	0.8%
その他	0.0%	0.0%	0.5%	0.8%	0.3%	0.5%	0.7%	0.0%
無回答	8.7%	5.3%	2.3%	4.7%	5.6%	5.5%	4.0%	6.7%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(4) 薬剤師の充足感

県内薬局における薬剤師数の充足感では、「足りている」61.1%、「やや足りない」34.7%、「全く足りない」3.0%であった。また、「やや足りない」又は「全く足りない」と回答した薬局に対して、「足りる」と感じるために必要な薬剤師数を尋ねたところ、平均 1.0 人であり、「1人以上2人未満」68.5%が最も多い階級であった。検討会では、薬局薬剤師から「業務が多忙で足りない印象がある」との意見があった。

図表 9 薬局における薬剤師数の充足感



県内薬局における薬剤師の充足感を二次保健医療圏別にみると、「やや足りない」又は「全く足りない」の合計は「熱海伊東」において50%を超え、他の二次保健医

療圏と比較して高い結果となった。

図表 10 薬局における薬剤師数の充足感；二次保健医療圏別

薬剤師数の充足感	賀茂	熱海伊東	駿東田方	富士	静岡	志太榛原	中東遠	西部
足りている	65.2%	47.4%	69.0%	58.9%	57.7%	64.2%	57.0%	60.7%
やや足りない	26.1%	50.0%	25.9%	36.4%	38.5%	33.8%	35.1%	36.4%
全く足りない	8.7%	2.6%	3.7%	3.9%	2.1%	1.5%	5.3%	2.1%
無回答	0.0%	0.0%	1.4%	0.8%	1.7%	0.5%	2.6%	0.8%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

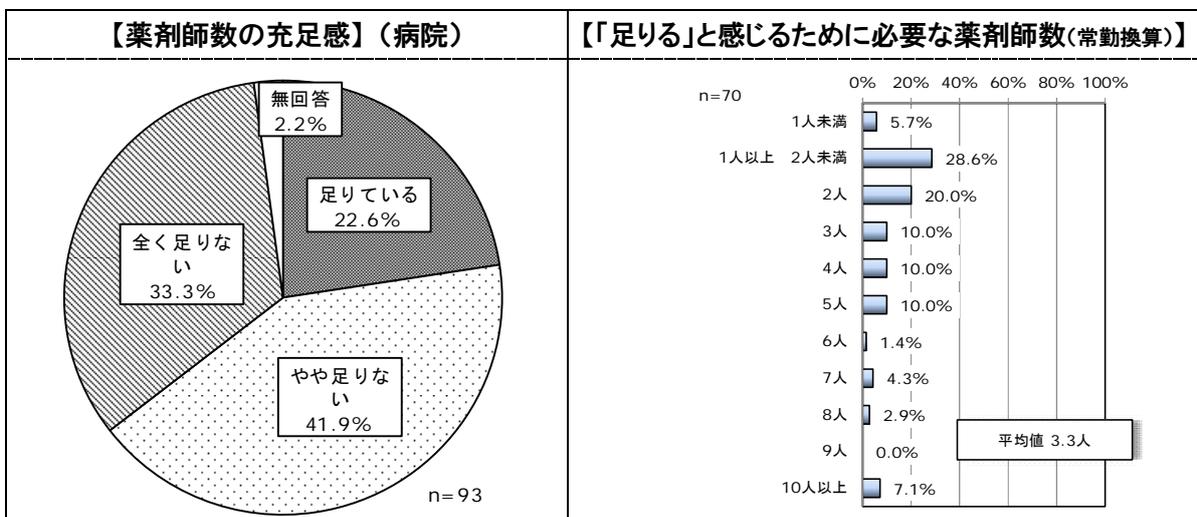
さらに、同一チェーン等の県内店舗数規模別にみると、「100店舗以上」の薬局において「やや足りない」又は「全く足りない」と回答した割合は52.6%と半数を超え他の階級に比べて高くなっていた。

図表 11 薬局における薬剤師数の充足感；県内店舗数規模別

薬剤師数の充足感	1店舗	2店舗以上 4店舗以下	5店舗以上 9店舗以下	10店舗以上 49店舗以下	50店舗以上 99店舗以下	100店舗以上
足りている	68.3%	54.2%	62.2%	61.5%	62.6%	46.4%
やや足りない	27.5%	37.4%	34.6%	37.7%	34.3%	46.4%
全く足りない	3.8%	4.6%	2.1%	0.8%	1.0%	6.4%
無回答	0.4%	3.8%	1.1%	0.0%	2.0%	0.8%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

県内病院における薬剤師数の充足感では、「足りている」22.6%、「やや足りない」41.9%、「全く足りない」33.3%であった。また、「やや足りない」又は「全く足りない」と回答した病院に対して、「足りる」と感じるために必要な薬剤師数を尋ねたところ、平均3.3人であり、「1人以上2人未満」28.6%が最も多い階級であった。全体的に病院の方が薬局より薬剤師数が「足りない」と感じており、「足りる」と感じるために必要な薬剤師数の平均も病院が薬局を2.3人上回る結果となった。

図表 12 病院における薬剤師数の充足感



県内病院における薬剤師数の充足感を二次保健医療圏別にみると、「やや足りない」又は「全く足りない」の合計はいずれも60%を超え、特に「賀茂」「静岡」「志太榛原」「中東遠」では80%を超える結果となった。

図表 13 病院における薬剤師数の充足感；二次保健医療圏別

薬剤師数の充足感	賀茂	熱海伊東	駿東田方	富士	静岡	志太榛原	中東遠	西部
足りている	0.0%	40.0%	25.0%	33.3%	20.0%	12.5%	20.0%	21.7%
やや足りない	50.0%	20.0%	43.8%	55.6%	35.0%	37.5%	40.0%	47.8%
全く足りない	50.0%	40.0%	31.3%	11.1%	45.0%	50.0%	40.0%	21.7%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.7%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

県内病院における薬剤師数の充足感を病床数規模別にみると、病床数の規模が大きくなるにつれ「足りている」と回答した割合は減り、「400床以上」の病院では「やや足りない」又は「全く足りない」が合計91.0%と、他の階級に比べて高くなっていった。薬事審議会では、病院薬剤師の委員より、100床以下の中小規模の病院においても、薬剤師が不足している現状があるとの発言があった。

図表 14 病院における薬剤師数の充足感；病床数規模別

薬剤師数の充足感	99床以下	100床以上 199床以下	200床以上 399床以下	400床以上
足りている	50.0%	18.8%	17.6%	9.1%
やや足りない	37.5%	43.8%	41.2%	45.5%
全く足りない	6.3%	37.5%	35.3%	45.5%
無回答	6.3%	0.0%	5.9%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

薬剤師数の充足感を薬局と病院で二次保健医療圏別に比較すると、地域によって薬局と病院では薬剤師数の充足感に差が見られた。

図表 15 薬剤師数の充足感；二次保健医療圏別（薬局、病院比較）

薬剤師数の充足感	賀茂	熱海伊東	駿東田方	富士	静岡	志太榛原	中東遠	西部
【薬局】 やや足りない+全く足りない	⑦34.8%	①52.6%	⑧29.6%	④40.3%	②40.6%	⑥35.3%	③40.4%	⑤38.5%
【病院】 やや足りない+全く足りない	①100.0%	⑧60.0%	⑤75.0%	⑦66.7%	③80.0%	②87.5%	③80.0%	⑥69.6%

○数字は「やや足りない」「全く足りない」の合計値の順位

(5) 薬剤師の採用状況

2014年から2018年までの採用薬剤師の出身地・出身大学の状況についてみると、薬局・病院ともに「静岡県出身で県外の大学薬学部を卒業」の割合が最も多く、次いで「静岡県外出身で県外の大学薬学部を卒業」が多かった。

二次保健医療圏別にみると、「静岡県出身で静岡県立大学薬学部を卒業」が薬局では「志太榛原」が、病院では「静岡」が他の二次保健医療圏に比べて高い割合となっていた。また、「賀茂」では「静岡県外出身で県外の大学薬学部を卒業」の割合が

他の二次保健医療圏に比べて高い割合となった。

採用者薬剤師数に占める新卒の割合は、薬局が28.5%、病院が65.1%と差があり、20%を下回ったのは薬局では「駿東田方」「静岡」「中東遠」の3圏域であったが、病院では「富士」のみであった。検討会では中小の薬局には新卒者が入職しない印象がある旨の発言があった。

図表16 薬局採用薬剤師の出身地・出身大学の状況(2014年度～2018年度の総数)

二次保健医療圏別

出身地・出身大学の区分		賀茂	熱海伊東	駿東田方	富士	静岡	志太榛原	中東遠	西部	合計
人数	静岡県出身で静岡県立大学薬学部を卒業	17	1	29	8	59	82	32	36	264
	(うち)新卒採用者	8	0	2	2	11	18	1	17	59
	静岡県外出身で静岡県立大学薬学部を卒業	12	0	10	4	18	25	1	26	96
	(うち)新卒採用者	9	0	2	0	9	11	0	13	44
	静岡県出身で県外の大学薬学部を卒業	30	16	166	117	109	73	97	157	765
	(うち)新卒採用者	17	6	18	29	10	28	5	52	165
割合	静岡県出身で静岡県立大学薬学部を卒業	8.7%	2.7%	8.2%	5.3%	19.3%	25.9%	15.5%	11.6%	14.1%
	(うち)新卒採用者	4.1%	0.0%	0.6%	1.3%	3.6%	5.7%	0.5%	5.5%	3.1%
	静岡県外出身で静岡県立大学薬学部を卒業	6.1%	0.0%	2.8%	2.6%	5.9%	7.9%	0.5%	8.4%	5.1%
	(うち)新卒採用者	4.6%	0.0%	0.6%	0.0%	3.0%	3.5%	0.0%	4.2%	2.3%
	静岡県出身で県外の大学薬学部を卒業	15.3%	43.2%	46.9%	77.5%	35.7%	23.0%	47.1%	50.6%	40.8%
	(うち)新卒採用者	8.7%	16.2%	5.1%	19.2%	3.3%	8.8%	2.4%	16.8%	8.8%
静岡県外出身で県外の大学薬学部を卒業	69.9%	54.1%	42.1%	14.6%	39.0%	43.2%	36.9%	29.4%	40.0%	
(うち)新卒採用者	33.7%	35.1%	9.9%	2.0%	8.2%	25.9%	7.3%	9.0%	14.2%	
採用薬剤師数合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
(うち)新卒採用者合計	51.0%	51.4%	16.1%	22.5%	18.0%	43.8%	10.2%	35.5%	28.5%	
回答法人(個店含む)数		7	16	66	27	81	49	46	69	361

図表17 病院採用薬剤師の出身地・出身大学の状況(2014年度～2018年度の総数)

二次保健医療圏別

出身地・出身大学の区分		賀茂	熱海伊東	駿東田方	富士	静岡	志太榛原	中東遠	西部	合計
人数	静岡県出身で静岡県立大学薬学部を卒業	0	0	4	5	34	7	5	24	79
	(うち)新卒採用者	0	0	0	1	23	6	4	21	55
	静岡県外出身で静岡県立大学薬学部を卒業	0	0	2	0	8	2	1	4	17
	(うち)新卒採用者	0	0	1	0	7	1	0	4	13
	静岡県出身で県外の大学薬学部を卒業	1	5	26	19	52	23	25	82	233
	(うち)新卒採用者	1	3	15	4	31	16	22	70	162
割合	静岡県出身で静岡県立大学薬学部を卒業	0.0%	0.0%	6.3%	14.7%	27.4%	18.9%	13.2%	13.8%	16.3%
	(うち)新卒採用者	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	18.5%	16.2%	10.5%	12.1%	11.4%
	静岡県外出身で静岡県立大学薬学部を卒業	0.0%	0.0%	3.2%	0.0%	6.5%	5.4%	2.6%	2.3%	3.5%
	(うち)新卒採用者	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%	5.6%	2.7%	0.0%	2.3%	2.7%
	静岡県出身で県外の大学薬学部を卒業	33.3%	45.5%	41.3%	55.9%	41.9%	62.2%	65.8%	47.1%	48.1%
	(うち)新卒採用者	33.3%	27.3%	23.8%	11.8%	25.0%	43.2%	57.9%	40.2%	33.5%
静岡県外出身で県外の大学薬学部を卒業	66.7%	54.5%	49.2%	29.4%	24.2%	13.5%	18.4%	36.8%	32.0%	
(うち)新卒採用者	0.0%	36.4%	28.6%	2.9%	14.5%	0.0%	7.9%	23.6%	17.6%	
採用薬剤師数合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
(うち)新卒採用者合計	33.3%	63.6%	54.0%	17.6%	63.7%	62.2%	76.3%	78.2%	65.1%	
回答施設数		2	5	15	9	19	8	10	20	88

(6) 今後の方針

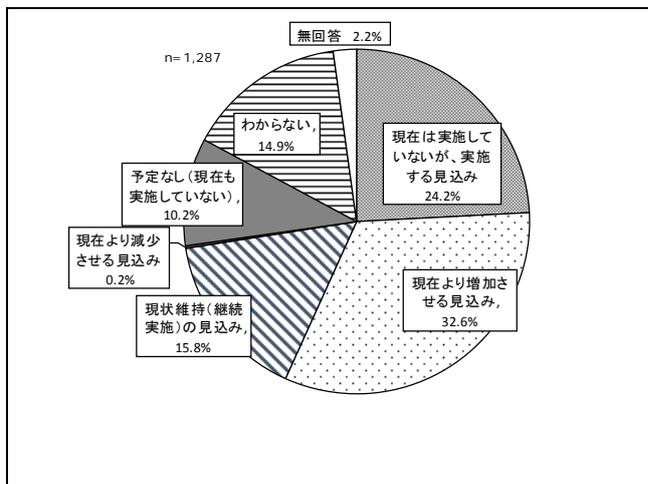
ア 薬局における在宅業務、高度薬学管理、健康サポート薬局の届出の今後の方針について

薬局薬剤師の需要の増加要因となり得る在宅業務及び高度薬学管理について、今後5年後の対応意向を聞いたところ、在宅業務については「現在より増加させる見込み」32.6%が最も多く、次いで「現在は実施していないが、実施する

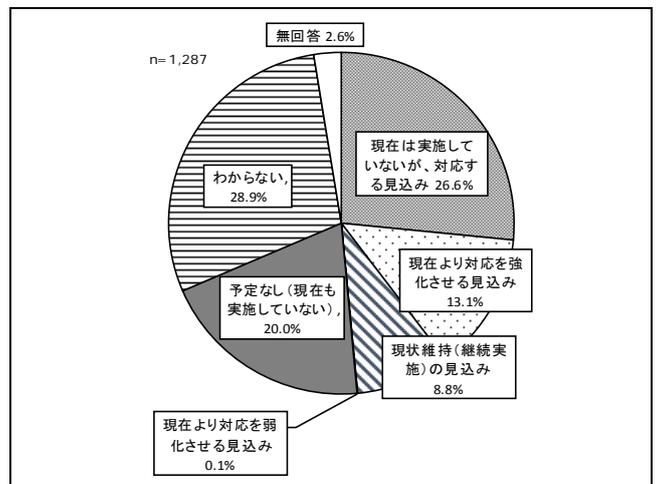
見込み」24.2%であり、1店舗当たり薬剤師数規模別にみると、規模の大きい店舗ほど「現在より増加させる見込み」との回答割合が概ね多い傾向にあった。高度薬学管理については、「わからない」28.9%が最も多く、次いで「現在は実施していないが、対応する見込み」26.6%であり、1店舗当たり薬剤師数規模別にみると、薬剤師数規模の大きい店舗ほど「現在は実施していないが対応する見込み」との回答割合が多い傾向にあった。

また、健康サポート薬局の届出状況を聞いたところ、「はい（届出済み）」が2.4%、「いいえ（未届）」（今後、届出予定あり）が37.5%、「いいえ（未届）」（今後、届出予定なし）が56.2%であった。

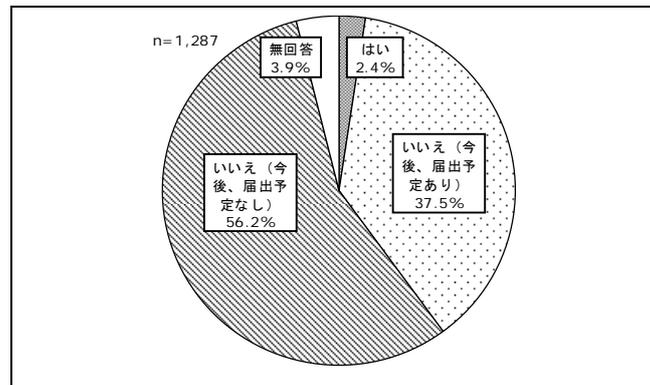
図表 18 在宅業務の今後5年後の対応意向



図表 19 高度薬学管理への今後5年後の対応意向



図表 20 健康サポート薬局の届出状況

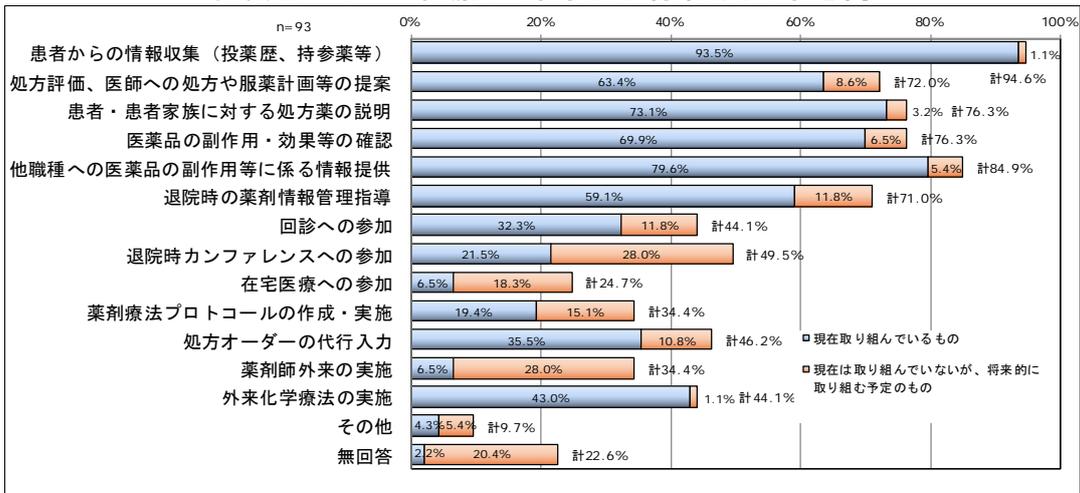


イ 病院におけるチーム医療の取組状況、将来的な取組意向

病院薬剤師の需要の増加要因となり得るチーム医療の取組状況についてみると、現在の取組としては「患者からの情報収集（投薬歴、持参薬等）」が最も多く、「現在は取り組んでいないが、将来的には取り組む予定のもの」を合わせると94.1%であった。

また、「現在は取り組んでいないが、将来的には取り組む予定のもの」が最も多かったものは「退院時カンファレンスの実施」「薬剤師外来の実施」であった。

図表 21 チーム医療の取組状況、将来的な取組意向



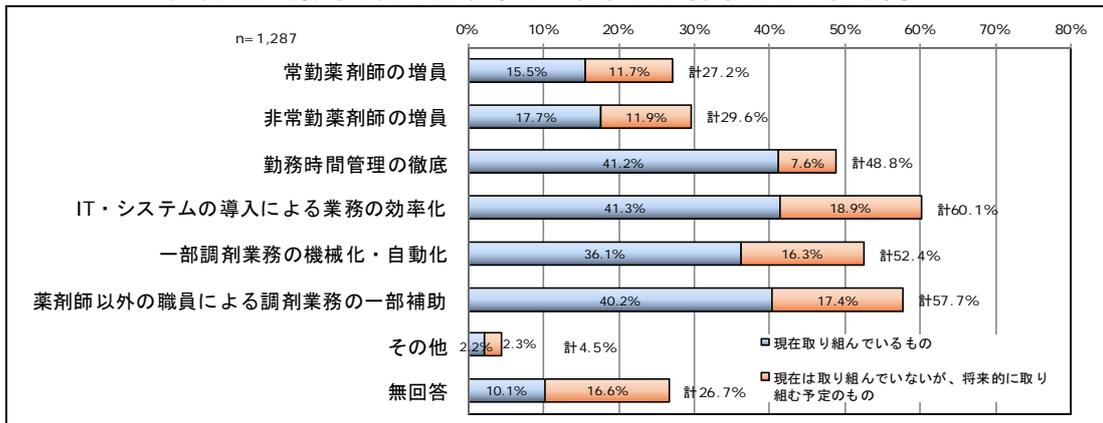
<その他として回答のあった内容（抜粋）>

現在取り組んでいるもの	現在に取り組んでいないが、将来的に取り組む予定のもの
<ul style="list-style-type: none"> 院外薬局への薬剤サマリー提供 入院予定の外来患者に対する介入 入院化学療法、治験、薬剤採用 	<ul style="list-style-type: none"> PBPMによる検査オーダー入力 トレーシングレポート導入 周術期管理

ウ 働き方改革の取組状況、将来的な取組意向

働き方改革に対する現在の取組として、薬局では「IT・システムの導入による業務の効率化」が、病院では「常勤薬剤師の増員」が最も多かった。「常勤薬剤師の増員」については、「現在取り組んでいるもの」又は「現在は取り組んでいないが、将来的に取り組む予定のもの」を合わせると薬局 27.2%に対し、病院は 53.8%と差があり、病院が積極的に常勤薬剤師の増員を図ろうとしていることが伺えた。

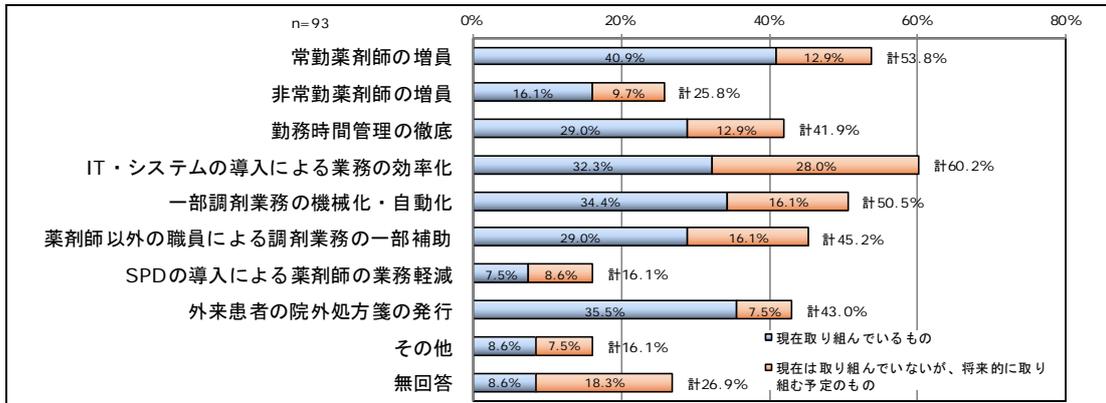
図表 22 薬局の働き方改革の取組状況、将来的な取組意向



<その他として回答のあった内容（抜粋）>

現在取り組んでいるもの	現在に取り組んでいないが、将来的に取り組む予定のもの
<ul style="list-style-type: none"> 介護休暇への援助 子育て世代への支援 	<ul style="list-style-type: none"> 産休休暇への援助 調剤外注

図表 23 病院の働き方改革の取組状況、将来的な取組意向



<その他として回答のあった内容（抜粋）>

現在取り組んでいるもの	現在に取り組んでいないが、将来的に取り組む予定のもの
<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパス形成 ・有給休暇の取得推進 ・週休2日制導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパス形成 ・日直体制の勤務化（振替休日制） ・2交代制の導入

エ 薬剤師の増減意向

薬局における今後5年後の薬剤師の増減意向を二次保健医療圏別にみると、「熱海伊東」において「増加させる見込み」との回答割合が他の二次保健医療圏よりも高く、「(4) 薬剤師の充足感」に即した回答となった。他の二次保健医療圏では「現状維持の見込み」が「増加させる見込み」を上回った。

また、県内店舗数規模別にみると、「100店舗以上」の薬局において1店舗当たりの薬剤師数を「増加させる見込み」との回答が84.8%となっており、他の階級よりも高くなっていた。これについては、検討会において、大手チェーンドラッグストアが在宅業務等を展開していくため、薬剤師を増やそうとしているのではないかと意見があった。

また、無回答の回答が一定数あるのは、経営者の年齢等により、今後薬局に求められる事項や経営環境を踏まえて経営の維持を検討したり、これまでと同様に保険制度にその都度対応していく意向であるためではないかとの意見があった。合わせて、診療所医師の高齢化による閉院により薬局も閉局に至る可能性等、薬局特有の事情や地域医療の維持を危惧する意見も出された。

図表 24 薬局における今後5年後の薬剤師の増減意向；二次保健医療圏別

増減意向		賀茂	熱海伊東	駿東田方	富士	静岡	志太榛原	中東遠	西部
件数	増加させる見込み	5	14	54	27	66	60	37	39
	現状維持の見込み	6	7	82	40	69	64	40	64
	減少させる見込み	0	0	5	1	0	2	3	5
	わからない	3	10	25	18	71	28	31	59
	無回答	9	7	50	43	80	47	40	72
	合計	23	38	216	129	286	201	151	239
割合	増加させる見込み	21.7%	36.8%	25.0%	20.9%	23.1%	29.9%	24.5%	16.3%
	現状維持の見込み	26.1%	18.4%	38.0%	31.0%	24.1%	31.8%	26.5%	26.8%
	減少させる見込み	0.0%	0.0%	2.3%	0.8%	0.0%	1.0%	2.0%	2.1%
	わからない	13.0%	26.3%	11.6%	14.0%	24.8%	13.9%	20.5%	24.7%
	無回答	39.1%	18.4%	23.1%	33.3%	28.0%	23.4%	26.5%	30.1%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

図表 25 薬局における今後5年後の薬剤師の増減意向；県内店舗数規模別

増減意向		1店舗	2店舗以上 4店舗以下	5店舗以上 9店舗以下	10店舗以上 49店舗以下	50店舗以上 99店舗以下	100店舗以上
件数	増加させる見込み	53	60	31	47	2	106
	現状維持の見込み	112	85	57	71	6	3
	減少させる見込み	6	4	2	2	0	0
	わからない	61	49	30	34	36	5
	無回答	30	64	68	85	55	11
	合計	262	262	188	239	99	125
割合	増加させる見込み	20.2%	22.9%	16.5%	19.7%	2.0%	84.8%
	現状維持の見込み	42.7%	32.4%	30.3%	29.7%	6.1%	2.4%
	減少させる見込み	2.3%	1.5%	1.1%	0.8%	0.0%	0.0%
	わからない	23.3%	18.7%	16.0%	14.2%	36.4%	4.0%
	無回答	11.5%	24.4%	36.2%	35.6%	55.6%	8.8%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

病院における今後5年後の薬剤師の増減意向を二次保健医療圏別にみると、「志太榛原」において「増加させる見込み」との回答割合が他の二次保健医療圏よりも高かったが、「西部」を除き他の二次保健医療圏では「増加させる見込み」が「現状維持の見込み」を上回った。しかし、検討会では、働き方改革を進めているものの、薬剤師業務に係る診療報酬の改定がなければ雇用増加は厳しいとの意見があった。

図表 26 病院における今後5年後の薬剤師の増減意向；二次保健医療圏別

増減意向		熱海伊東	駿東田方	富士	静岡	志太榛原	中東遠	西部
件数	増加させる見込み	3	6	4	11	7	6	9
	現状維持の見込み	1	4	3	5	1	2	9
	減少させる見込み	0	0	0	0	0	0	0
	わからない	1	6	2	4	0	1	4
	無回答	0	0	0	0	0	1	1
	合計	5	16	9	20	8	10	23
割合	増加させる見込み	60.0%	37.5%	44.4%	55.0%	87.5%	60.0%	39.1%
	現状維持の見込み	20.0%	25.0%	33.3%	25.0%	12.5%	20.0%	39.1%
	減少させる見込み	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	わからない	20.0%	37.5%	22.2%	20.0%	0.0%	10.0%	17.4%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	4.3%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

病床数規模別にみると、「400床以上」の病院では「現在より増加させる見込み」との回答割合が86.4%と他の階級に比して多い傾向にあった。

図表 27 病院における今後5年後の薬剤師の増減意向；病床数規模別

薬剤師の増減意向		99床以下	100床以上 199床以下	200床以上 399床以下	400床以上
施設数	増加させる見込み	2	15	7	19
	現状維持の見込み	6	9	6	2
	減少させる見込み	0	0	0	0
	わからない	7	7	4	1
	無回答	1	1	0	0
	合計	16	32	17	22
割合	増加させる見込み	12.5%	46.9%	41.2%	86.4%
	現状維持の見込み	37.5%	28.1%	35.3%	9.1%
	減少させる見込み	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	わからない	43.8%	21.9%	23.5%	4.5%
	無回答	6.3%	3.1%	0.0%	0.0%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

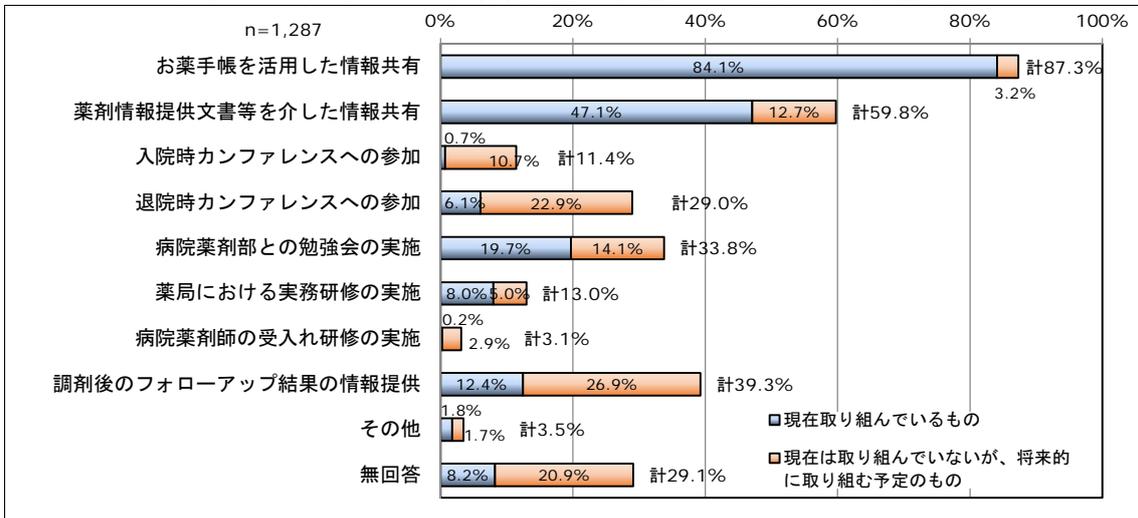
(7) 薬薬連携の取組状況、将来的な取組意向

薬局と病院（薬剤部）との連携（薬薬連携）に係る取り組み状況についてみると、現在の取組としては「お薬手帳を活用した情報共有」が最も多く、「現在は取り組んでいないが、将来的には取り組む予定のもの」を合わせると薬局87.3%、病院79.6%であった。

また、将来的な取組としては、薬局では「調剤後のフォローアップ結果の情報提供」、病院では「薬局との勉強会の実施」が最も多く、薬局においては、法改正を意識した回答となった。

薬事審議会においても、診療報酬改定に関する議論にて、今の医療ニーズから薬剤師による病棟業務や、病院と薬局の連携等の業務に関する評価が増えており、人員体制を確保していく必要がある旨の発言があった。

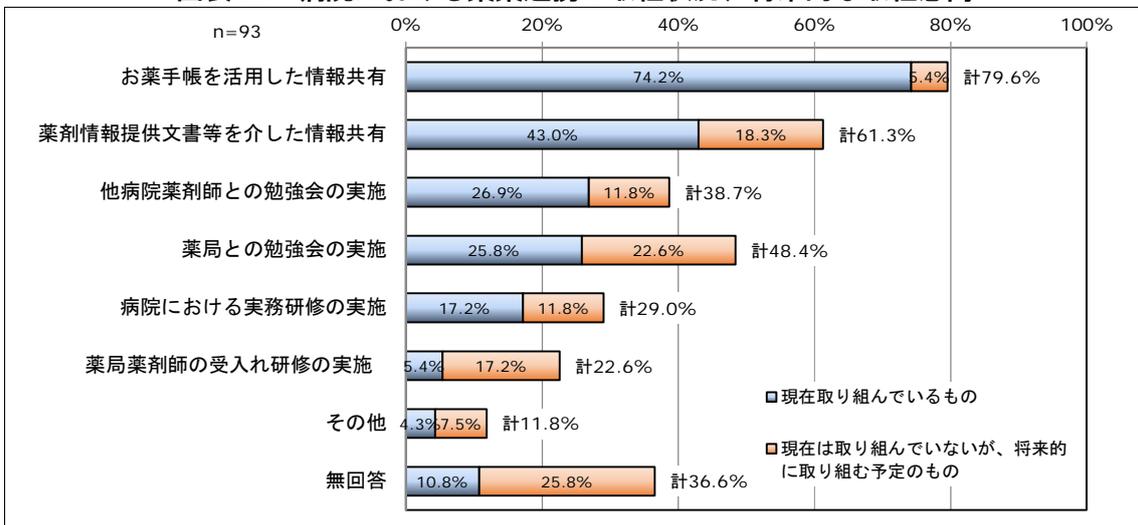
図表 28 薬局における薬業連携の取組状況、将来的な取組意向



<その他として回答のあった内容（抜粋）>

現在取り組んでいるもの	現在は取り組んでいないが、将来的に取り組む予定のもの
<ul style="list-style-type: none"> お薬手帳への CKD シール貼付 検査値フォロー 	<ul style="list-style-type: none"> 入院時情報提供書による情報共有 地域における在宅効率化の推進

図表 29 病院における薬業連携の取組状況、将来的な取組意向



<その他として回答のあった内容（抜粋）>

現在取り組んでいるもの	現在は取り組んでいないが、将来的に取り組む予定のもの
<ul style="list-style-type: none"> トレーシングレポート 退院時指導 	<ul style="list-style-type: none"> PBPM による疑義照会手続きの軽減 検査値の院外処方箋への表示等

(8) 薬局薬剤師に求められる業務や役割(自由記載抜粋)

- ・ 血液検査結果についての説明や今後の生活とその結果によって、どうすればよいかなどのアドバイスを求められることが多い。最近始まった大病院による処方箋に検査値の記載は画期的でとても参考になる。
- ・ 薬剤師として活躍していく上でも、健康サポート薬局としても、最近感じることだが、もう少し地域連携ができれば在宅の仕事も増えていくと思う。薬剤師の仕事をもっと多職種へ理解していただけたらもっと推進できると思う。
- ・ 地域に密着した薬局の一員として、公衆衛生の向上のために、各職種との連携がより一層求められ、今後も継続して取り組んでいくべきであると思われる。
- ・ 地域医療において、プライマリーケアの中心となって貢献できる様、ハード面、ソフト面をより充実させていくことが大切だと思う。又、患者と医師のかけ橋として、薬を通して病気の説明や生活指導などより良い保健医療に貢献する。
- ・ 医療現場では、対物業から対人業務へと変わり、患者様本位で考える薬剤師が求められる。服薬状況や服薬後の状況、副作用などの管理が必用となる。今以上に投薬・その後の患者様とのコミュニケーションが必用になる。
- ・ 今後は高齢化に伴い、複数の医療機関を受診する患者が増加することで、薬の重複投薬や相互作用の問題が多くなると思う。今まで以上に「かかりつけ薬剤師」として一人の患者に対しての薬について全て把握して、患者に頼りにされる薬剤師になれるよう努力を続けたい。また、在宅療養の患者さまの増加が見込まれるため、薬の提供以外の在宅に必要な知識の習得に対しても力を入れていきたい。
- ・ 在宅ニーズが高まる中で、それらへの対応を積極的に行うために、病院と多薬局の協力がより必要とされる時代が来たと思う。
- ・ 精神科の処方が多いため、病院への情報提供を通じて、ポリファーマシー、併用薬剤、相互作用など薬学的管理に取り組みたいと考えている。
- ・ 処方箋が電子化され、その内容に病名、臨床検査などの情報があれば、より薬剤師の活躍が見込め、高度な服薬指導、ダブルチェックも可能となると思う。また、近年服薬指導や薬歴の記載方法に厚生局の評価、指導も強化されているが、患者が気付かない早くて正確な調剤、用法、用量、禁忌、警告などの確認、医療機関への疑義紹介などの業務も、医薬分業の意義を含め、患者さんへの理解を、より深めていくことが必要だと感じる。
- ・ 地域に根差したかかりつけ薬局を目指し、調剤と OTC 薬販売を両立させ、相談できる薬局を心がけているが、何分、マンパワーが不足し、介護業務等にも限度がある。
- ・ これからの薬剤師には、薬の知識はもちろんのこと、医療人として、人としての倫理観が非常に重要になってくると考えています。また、単に薬剤師としての業務をこなすのではなく、運動や食生活、健康相談等の総合業務を通じて、

社会に貢献できればよいと考えている。

- ・ 医療用の薬に対する専門性の高い知識を有することも大切だが、スイッチ OTC も推進し、セルフメディケーションに貢献できる薬剤師が活躍できるようになればよいと思っている。
- ・ 国として地域医療を支える人口の少ないエリアの個人薬局を保護し、事業継承の付加価値を与えていくことをしなければ、人口の少ないところでの、地域医療が崩壊していくと思う。静岡県は広いので、全体的にみれば薬剤師は不足していると考え。地域医療の担い手としての個人薬局に対しての何らかの手立ては急務である。
- ・ 将来的に大量の定年を迎える方の補充もあるので、人員確保が急務である。その中で業務の機械化・自動化や薬剤師以外の者がほとんどの作業をこなすことも大事になってくる。その人員不足・業務の効率化を行ったあと、薬剤師や薬剤師にしかできない業務に専念しなければならない。
- ・ 薬を渡したら終わりではなく、その後のフォローアップや、他職種との連携により、より患者のためになるように情報共有をして対応してくことで、適切な医療を提供できるようにしていくことが大切だと思う。
- ・ 薬局薬剤師に求められる役割や業務の拡大にあたり、薬剤師の研鑽や教育が不十分なように感じます。調剤報酬のインセンティブだけを追いかける形になると、業務内容が空洞化してしまう。量的な評価だけでなく、質的な評価が必要ではないか。
- ・ 高齢社会において、高齢者への薬の適正使用の強化（ポリファーマシーの改善、腎機能等に応じた薬剤投与量のチェックなど）。重症化予防についての地域での啓発活動の必要性を感じている。しかし、田舎の個人薬局で薬剤師の雇用も難しく、どの程度対応できるか不安がある。
- ・ 調剤や服薬指導、OTC 医薬品の販売だけでなく、患者の健康相談への対応、健康づくりに関する情報提供など、地域住民全体の健康意識向上に繋がる活動を行うことも、薬局薬剤師に求められると考える。
- ・ AI や IT が進んでいく中で、対人とのコミュニケーションによる薬剤師の重要性が認知されていくことが必要だと思われる。
- ・ 地域の健康で総合的にサポートしていくことが重要になると考えられる。現実には対人業務以外の負担が大きく、健康サポート機能の充実に取り組むことができていない。今後は仕組みづくりをしていくことが求められる。

(9) 病院薬剤師に求められる業務や役割(自由記載抜粋)

- ・ 病院薬剤師の業務は、調剤業務だけではなく病棟業務等における新たな役割も増えてきた。しかしながら当院のように、薬剤師の数が少なく、十分な業務を行えていない施設もあると思う。医師の偏在と同様に薬剤師についても取り組んでいただきたい。
- ・ 薬学部を増設し、薬剤師は増加しているが、病院薬剤師が増えない原因を探求してほしい。
- ・ 小規模病院、療養型病院などで工夫されている事例など数多く教えていただきたい。
- ・ 医療の進展に伴い、病院薬剤師の役割がさらに大きくなっており、人員増（ヒト）でしか対応出来ない業務であるが診療報酬上の評価が必ずしも高くない為、全国の全病床の 69%を占める中小病院クラスでは経営上増員が出来ず負のスパイラルに陥っているのが現状であると考えます。
- ・ 病棟業務はある程度浸透してきている。あとは質を上げるためにも増員が必要。薬剤師による外来業務を視野に入れた増員計画をしていく。医師の負担軽減やタスクシフティングを考えた業務を検討している。
- ・ 病棟業務の更なる充実、各チーム医療への参画、薬剤師外来、周術期管理、手術室での業務、地域包括ケアの中での薬局薬剤師との連携、入退院管理室での業務、災害医療等、病院薬剤師が行う業務はいくらでもあるので、個人的には薬剤師を何名採用しても多すぎることはないと考えます。
- ・ 薬剤師とくに病院薬剤師は、医療の安全については今まで以上に関与していくべきであり、その為に人数を配置することは、しいては患者にとって有益となることにもなり、病院にとっても有益である。
- ・ 医薬品の適正使用、管理、適切な情報提供はもちろん、従来からの調剤・製剤業務だけでなく患者教育にも薬剤師が関与していくべきであると考えます。
- ・ 患者教育とは、単なる薬剤の指導でなく疾患に関与した教育であり薬剤の使用や管理は勿論、副作用回避、早期発見による重症化の回避も含めた指導に薬剤師が関与できるものと考えます。
- ・ 薬剤の使用場所には薬剤師がいて薬剤の安全で効率的な使用を推進でき、副作用の観察ができるような体制作りをしたい。

第3章 薬剤師需給予測

1. 推計期間、推計方法

(1) 推計期間

2019年度～2043年度

(2) 推計方法

供給予測は(①+②-③)×④により算出した。

- | |
|---|
| <p>① 2018年度における県内の年齢別薬剤師数の累計</p> <ul style="list-style-type: none">・1963年度以降の国家試験の合格者数、死亡率を基に推計した。 <p>② 2019年度以降の増加要因（国家試験合格者）※2パターン推計</p> <ul style="list-style-type: none">・今後の人口減少社会を考慮し、大学進学予定者数の将来推計を基に、将来の薬剤師国家試験合格者数が同程度の割合で減少すると仮定して推計した。・薬剤師国家試験合格者数（2016～2018年度平均）が今後も維持されると仮定して推計した。 <p>③ 2019年度以降の減少要因（70歳未満薬剤師の死亡、70歳超薬剤師数の離職・退職・死亡）</p> <p>④ 補正係数の設定</p> <ul style="list-style-type: none">・(①+②-③)による2018（平成30）年度の薬剤師数推計結果を、厚生労働省「平成30年医師・歯科医師・薬剤師調査」の結果と比較し設定した。 |
|---|

需要予測は就業場所別に推計し、積み上げて算出(①+②+③)した。

- | |
|--|
| <p>① 薬局の従事者</p> <p>処方箋枚数を薬剤師1人当たり処方箋枚数で除して推計した。</p> <ul style="list-style-type: none">・処方箋枚数は、各年度の推計投薬対象数に処方箋受取率を乗じて推計した。・処方箋受取率は、処方箋受取率の伸び率を考慮して推計した。なお、二次保健医療圏別においては、県薬事課調査による二次保健医療圏別の処方箋受取率を基に推計した。・薬剤師1人当たり処方箋枚数は、薬局に対して実施したアンケートで7割を超える薬局が在宅業務に取り組む意向であることや第8次静岡県保健医療計画（平成30年3月策定）における在宅医療等の訪問診療分の供給量推計に基づき、在宅業務の伸展により薬剤師の業務量が増えることにより2025年までに一定数減少し、その後は横ばいとなる場合と、在宅需要の伸びを考慮しない場合を推計した。 |
|--|

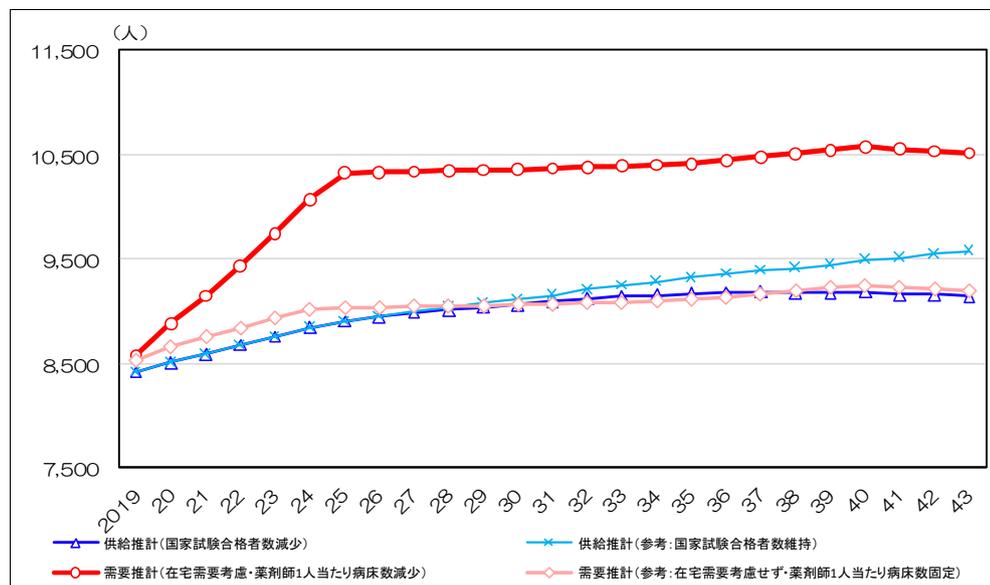
- ② 病院・診療所の従事者
 病床数を薬剤師1人当たり病床数で除して推計した。
- ・薬剤師1人当たり病床数は、静岡県地域医療構想（平成28（2016）年3月策定）で設定している将来の病床の必要量を基に推計した。
 - ・病院に対して実施したアンケートで今後薬剤師の増員意向が高い病院が一定数あることを踏まえ、薬剤師1人当たり病床数は2025年度までに薬剤師の配置水準が上昇し、その後は横ばいとなる場合と、病院薬剤師の配置水準の上昇を考慮しない場合を推計した。
- ③ その他の従事者
 大学、企業、公務員の従事者、無職等の者については、厚生労働省「平成30年医師・歯科医師・薬剤師調査」の人数で一定であるとした。

2. 薬剤師需給予測の結果

(1) 静岡県全体

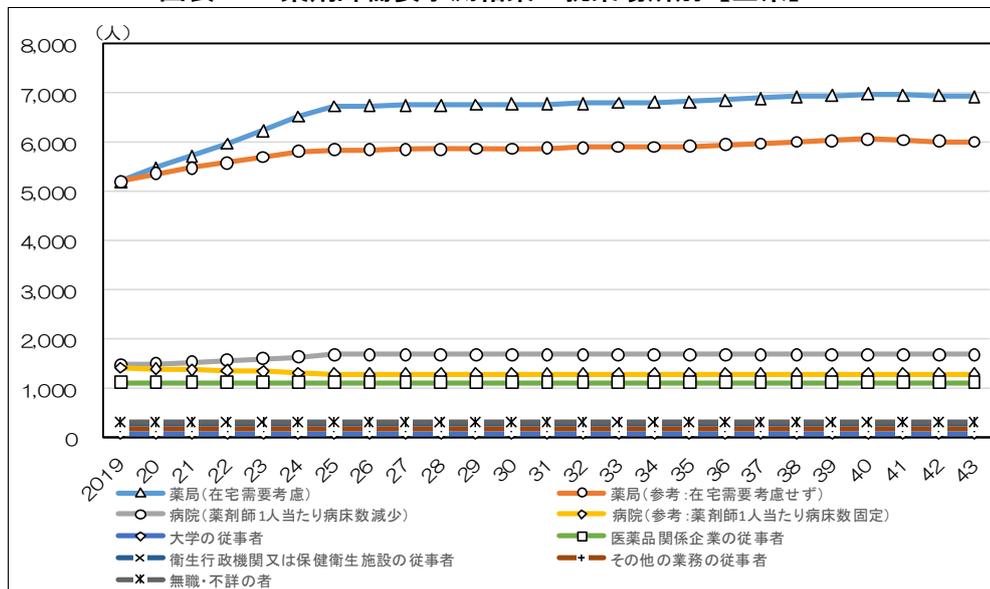
県全体では、推計期間を通じて、在宅需要の伸びや薬剤師1人当たり対応する病床数の減少を考慮した薬剤師の需要（○）が供給（△×）を上回った。

図表30 薬剤師需給予測結果【全県】



就業場所別に見ると、在宅需要を考慮した場合薬局の薬剤師は需要が増大した。病院は病院薬剤師の増員意向を考慮したことから微増する結果となった。

図表 31 薬剤師需要予測結果；就業場所別【全県】

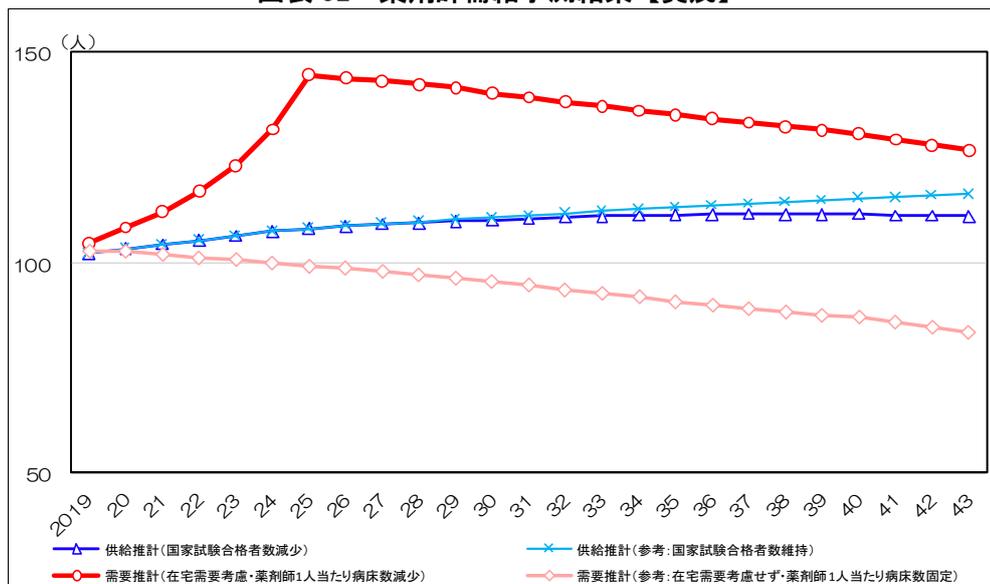


(2) 二次保健医療圏別

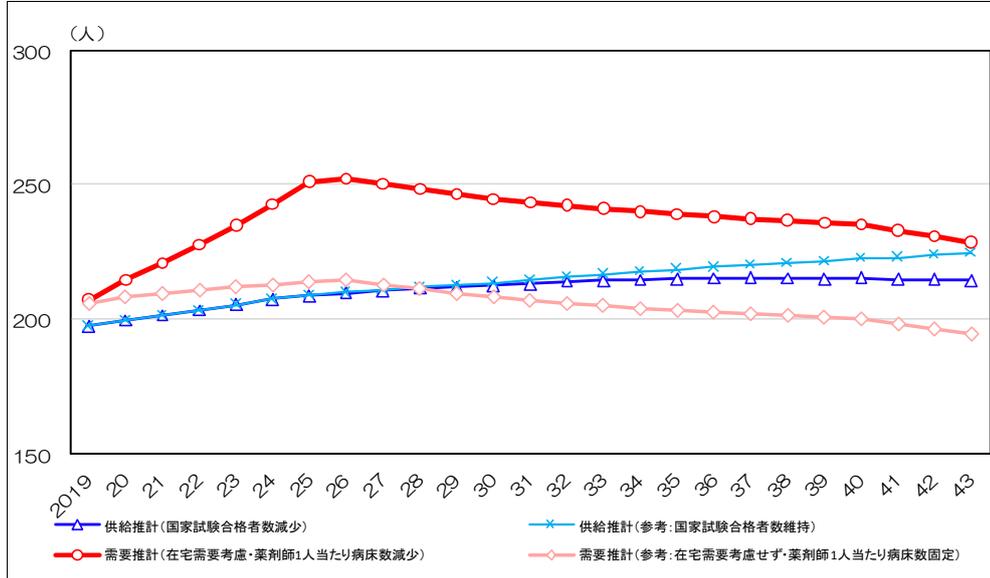
在宅需要等を考慮した場合、「静岡」は2020年以降、その他の地域は、推計期間を通して需要(○)が供給(△×)を上回った。

在宅需要等が現在の水準のまま推移するとした場合、「静岡」「志太榛原」では推計期間を通して、「賀茂」「駿東田方」「中東遠」「熱海伊東」では2028年までに、供給(△×)が需要(◇)を上回った。一方、「富士」「西部」では推計期間を通して需要(◇)が供給(△×)を上回った。

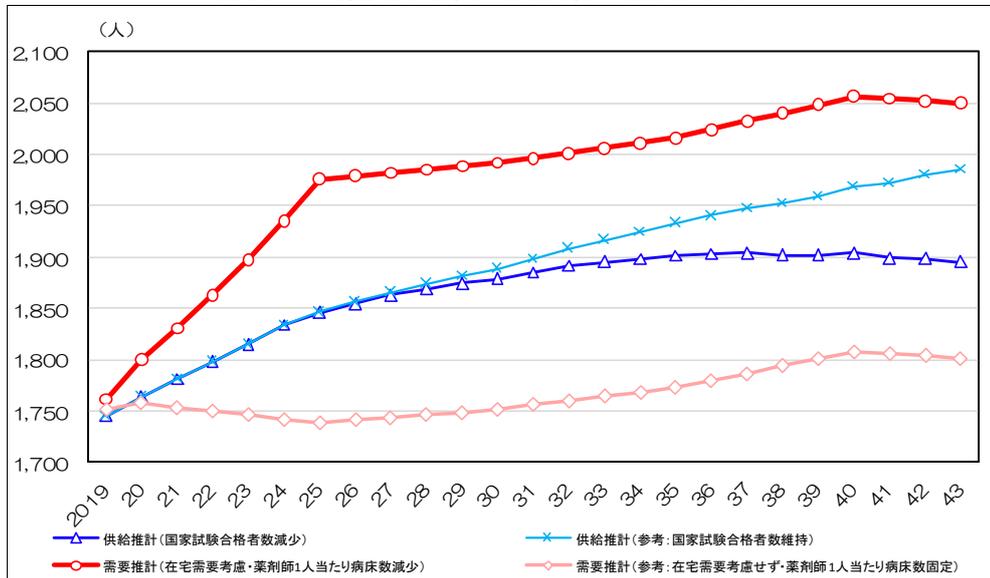
図表 32 薬剤師需給予測結果【賀茂】



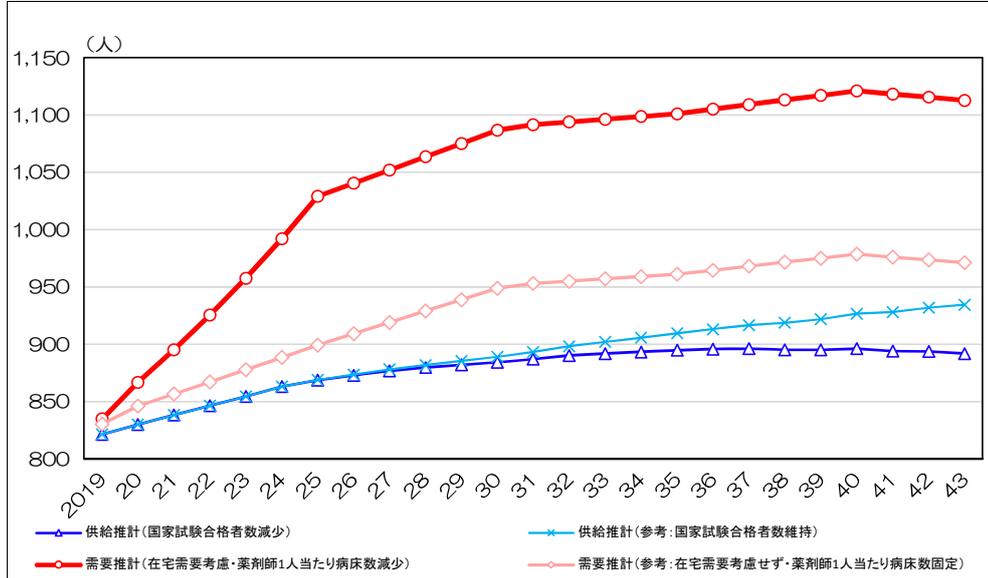
図表 33 薬剤師需給予測結果【熱海伊東】



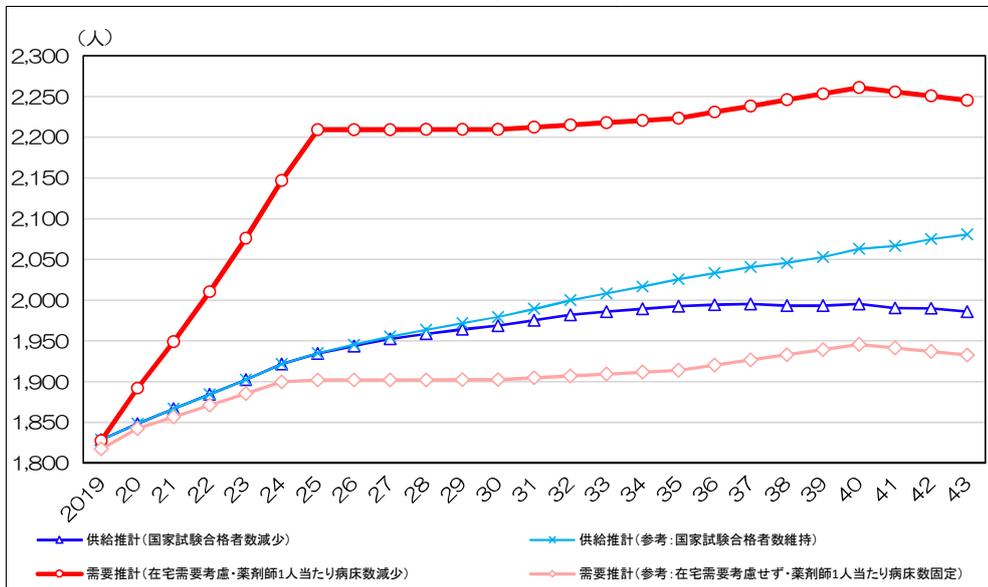
図表 34 薬剤師需給予測結果【駿東田方】



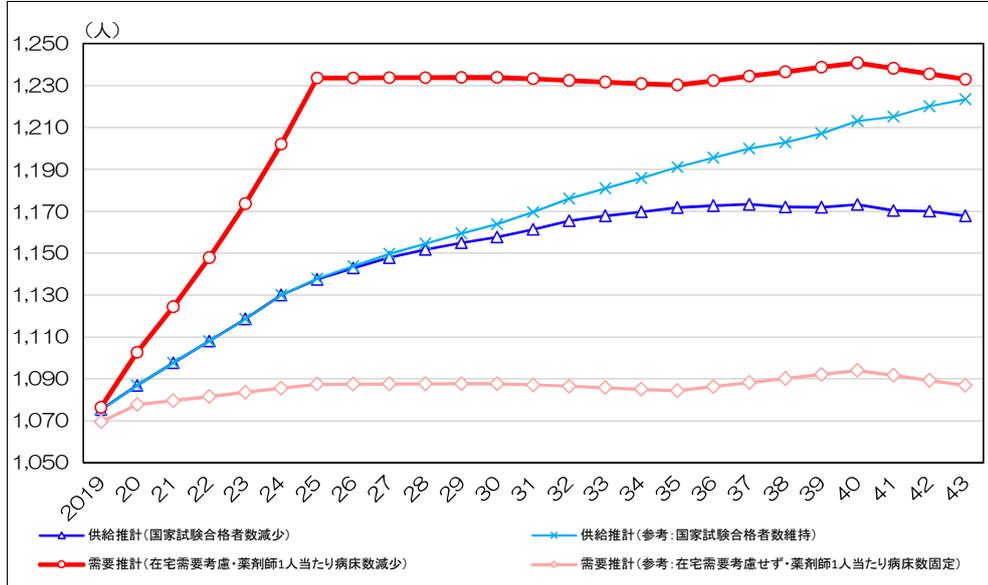
図表 35 薬剤師需給予測結果【富士】



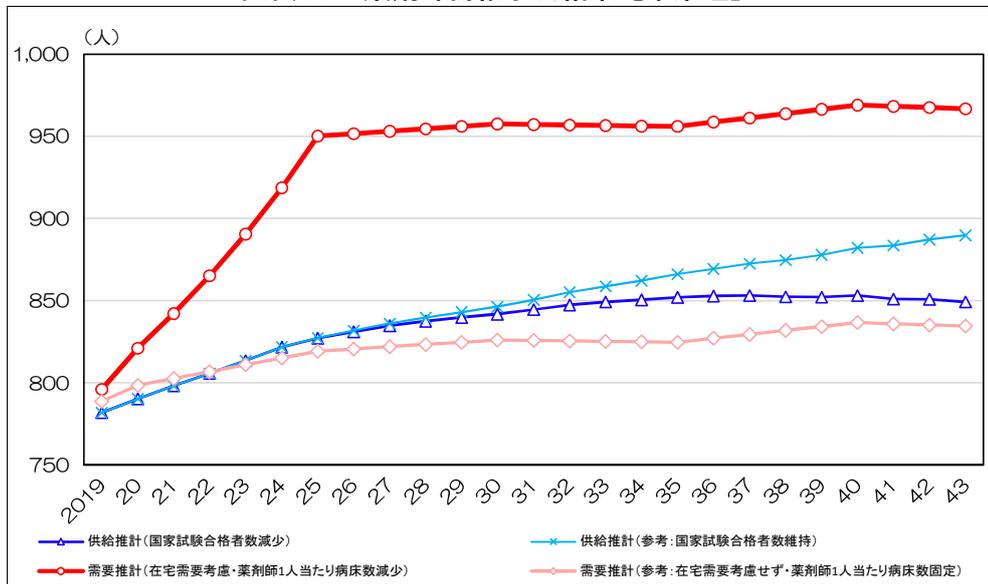
図表 36 薬剤師需給予測結果【静岡】



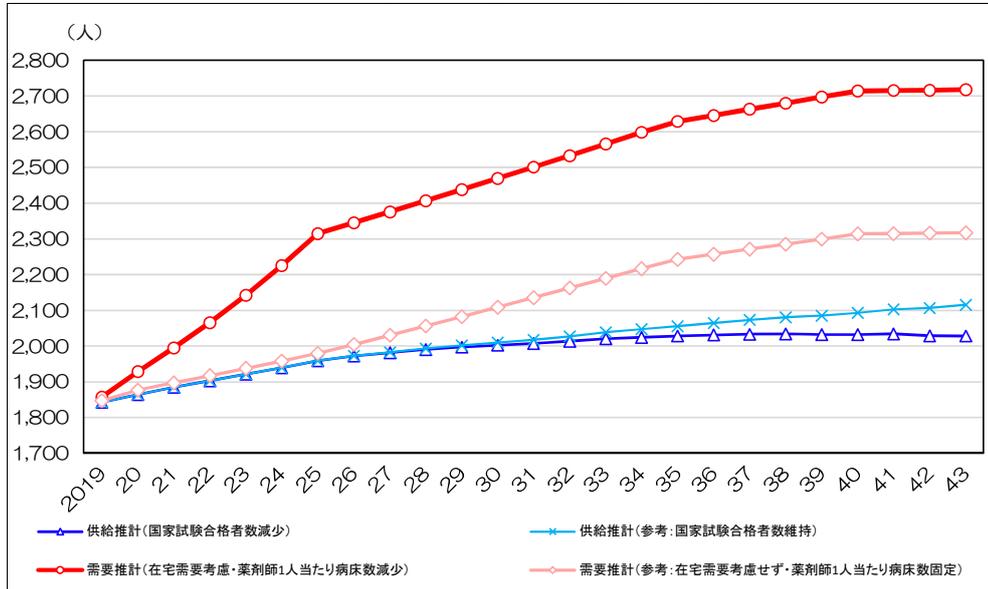
図表 37 薬剤師需給予測結果【志太榛原】



図表 38 薬剤師需給予測結果【中東遠】

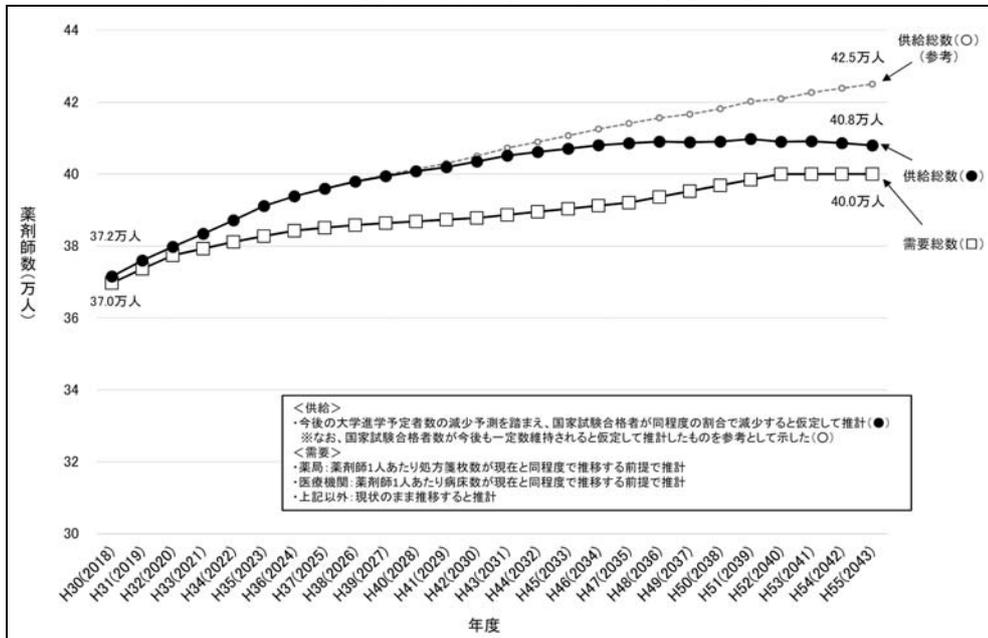


図表 39 薬剤師需給予測結果【西部】



(3) 全国(長谷川班報告)

図表 40 薬剤師需給予測結果【長谷川班研究】



第4章 薬学部生との意見交換会

薬学生とその就職先の候補である薬局及び病院の薬剤師との意見交換会を実施し、県内各地域への就職における学生ニーズ等を確認した。

1. 参加者

静岡県立大学薬学部生（5年生）8名

静岡県内で働く薬局薬剤師2名、病院薬剤師2名

2. 実施日

令和元年12月19日（木）

3. 内容

この時期の薬学部5年生は薬局・病院実習を終え、年度末から始まる就職活動を前に、自身に合った就職先の検討を開始している時期であった。既に就職先の業種を絞っている学生もいれば、様々な業種を検討中の学生もおり、先輩薬剤師との活発な意見交換を行った。以下は、学生の主な意見である。

○就職先を検討するにあたって重要視していること

- ・勤務エリア（地元選択）
- ・給料面、働き方
- ・就職先の将来性・継続性
- ・チャレンジ精神・刺激、発展性（研修制度、勉強会等）
- ・職場の人間関係

○働く地域について

- ・薬剤師が少ない地域はお年寄りが多い地域であり、そのような層に寄り添った事業展開、展望を持つ薬局に就職したい。
- ・IT、遠隔服薬指導等も活用し、薬剤師が足りない地域で開局したい。
- ・都市部でも薬剤師が足りている訳ではなく多忙。ニーズも多いということなので、そういった薬局で働き、在宅等を充実させた方が良い。
- ・自分のワークライフバランスを大事に選択したい。
- ・住み心地等の整備が必要だが、企業努力では難しいのではないかな。
- ・最近では東京等の都会から地方に薬剤師が流れてきている状況も聞いている。

○これまで薬局、病院に対して持っていたイメージと比較してどうか

- ・薬剤師の業務が、対物から対人へシフトしていることが感じ取れた。薬剤師として患者と触れ合えることを薬学部生は求めている。
- ・薬局・病院それぞれで働き方改革という視点があることを知った。経営規模も大事だが、就職後どのように働くのか、働き方にも着目して就職先を見極めたい。

第5章 まとめ

県内全薬局・全病院を対象としたアンケート調査等により、今後、薬局は在宅業務等に病院はチーム医療等に、積極的に取り組み、薬局・病院間の薬薬連携についても拡充していく意向があることが確認された。一方、これらの取組を推進していくために必要となる薬剤師について、人口 10 万人あたりの数は、県内 8 つの二次保健医療圏のうち 6 つで全国平均より低い実態があり、薬局よりも病院の方が薬剤師が「足りない」と感じていること、二次保健医療圏ごとに差があることが明らかとなった。

薬剤師の需給予測（2019-2043）においては、今後の在宅需要の増加や薬剤師の病棟業務の推進を考慮した場合、静岡地域では 2020 年から、他の地域及び県全体では推計期間を通して需要が供給を上回る結果となった。

患者のための薬局ビジョン（平成 27 年厚生労働省）、医薬品医療機器等法改正（令和元年 12 月公布）等により対人業務等の充実が求められている中、今後、県内全域でも高齢化の進展により医療需要が増加していくことから、薬薬連携を推進し、薬剤師が服薬をフォローアップし、退院時カンファレンスや在宅医療等に関わることにより高齢化にも対応した薬物療法の充実を進めていくことは、県民の健康寿命の延伸のためにも喫緊の課題である。

そのためには、薬剤師が対人業務を行うための時間を生み出す必要があり、働き方改革の取組としてあげられていた事項はその一助となると考えられる。行政としても IT・システムや調剤機器等が適切に導入されるよう支援していく。

また、薬学生は、就職先を検討する際に、「給料」「働き方」「将来性」「チャレンジ精神」等を重視しており、就職活動において、会社のビジョンや育成方法、働き方等を重要視するとしていた。勤務地域の選択においては「住みやすさ、交通の利便性を重視する」という意見の一方、「薬剤師少数地域において事業展望を持つところに就職したい」「IT等を活用して薬剤師少数地域で活躍したい」等の意見もあり、とりわけ薬剤師が不足している地域の薬局・病院はこのような点を踏まえた体制を整備し、県外大学や既卒薬剤師にも広く情報発信する必要性が感じられた。

薬局アンケート調査

1. 調査内容.....	29
2. 回答薬局の概要.....	30
3. 調剤基本料等の届出状況.....	33
4. 管理薬剤師の勤務年数、年齢.....	34
5. 処方箋の状況.....	36
6. 医薬品等の取扱状況.....	38
7. 調剤等の状況.....	42
8. 健康サポート薬局の届出状況.....	46
9. 従事者の状況.....	47
10. 今後の方針.....	55
薬局アンケート調査票.....	59

1. 調査内容

図表1 調査内容【薬局】

区分	調査項目
(1)薬局の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営主体、同一グループ等による薬局店舗数 ・ 店舗販売業の併設の有無 ・ 調剤基本料、地域支援体制加算の届出状況 ・ 管理薬剤師の勤続年数等 ・ 令和元年6月1か月間に応需した処方箋の受付回数、受付枚数、処方箋集中度 ・ 処方箋の応需状況
(2)薬局の現在の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和元年7月1日現在の医療用医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品の取り扱い品目数、一般用検査薬等の取り扱いの有無 ・ 無菌製剤処理を行うための施設基準に適合している旨の届出状況 ・ 平成30年1年間における医療用麻薬の調剤回数、在宅患者訪問薬剤管理指導料、居宅療養管理指導費の算定回数 ・ かかりつけ薬剤師指導料及びかかりつけ薬剤師包括管理料の届出状況 ・ 健康サポート薬局の届出状況 ・ 就業形態別及び職種別職員数、性・年齢階級別薬剤師数、回答店舗における勤続年数別薬剤師数 ・ 現在の薬剤師数の充足感等 ・ 令和元年6月1か月間における常勤薬剤師の平均勤務時間、平均法定超労働時間、開局日数 ・ 開局状況 ・ 24時間の相談対応・調剤対応体制の状況 ・ 2014年度～2018年度に静岡県で採用した薬剤師数、退職した薬剤師数、出身地・出身大学別人数
(3)今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5年後の在宅業務、地域貢献活動、薬剤師の増減意向 ・ 5年後の高度薬学管理への対応意向 ・ 5年後の事業継続の予定 ・ 現在及び将来の取組（働き方改革、病院薬剤部との連携） ・ 薬局薬剤師に求められる役割や業務

2. 回答薬局の概要

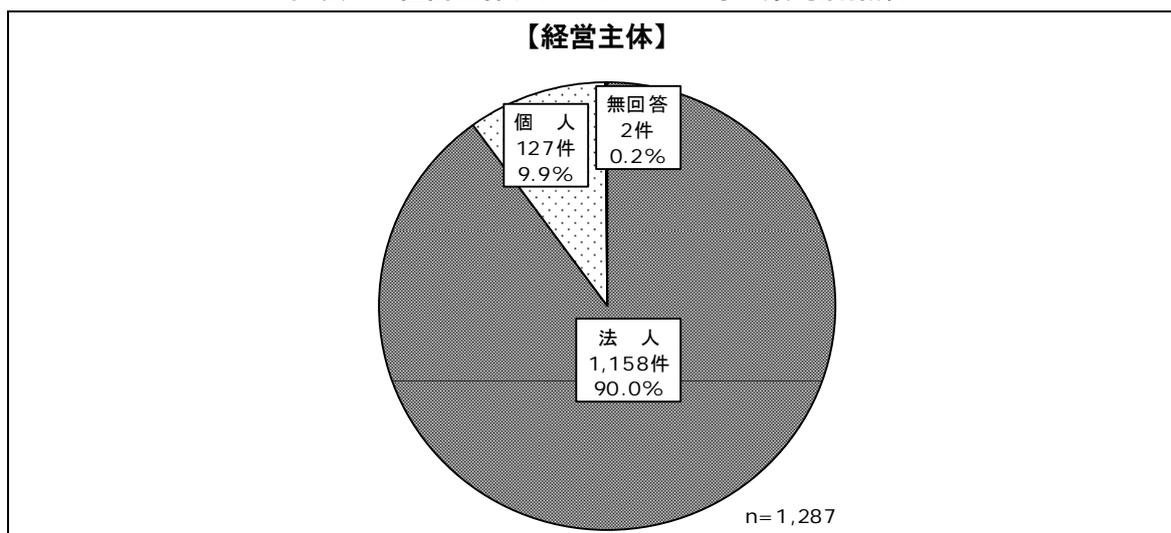
静岡県内の全薬局（1,810 店舗）を対象としたアンケート調査を実施し、1,287 店舗（回収率 71.1%）から回答を得た。

図表 2 回収状況

	全体	二次保健医療圏								
		賀茂	熱海伊東	駿東田方	富士	静岡	志太榛原	中東遠	西部	不明
発送数	1,810	32	56	307	178	396	264	203	374	-
回収数	1,287	23	38	216	129	286	201	151	239	4
回収率	71.1%	71.9%	67.9%	70.4%	72.5%	72.2%	76.1%	74.4%	63.9%	-

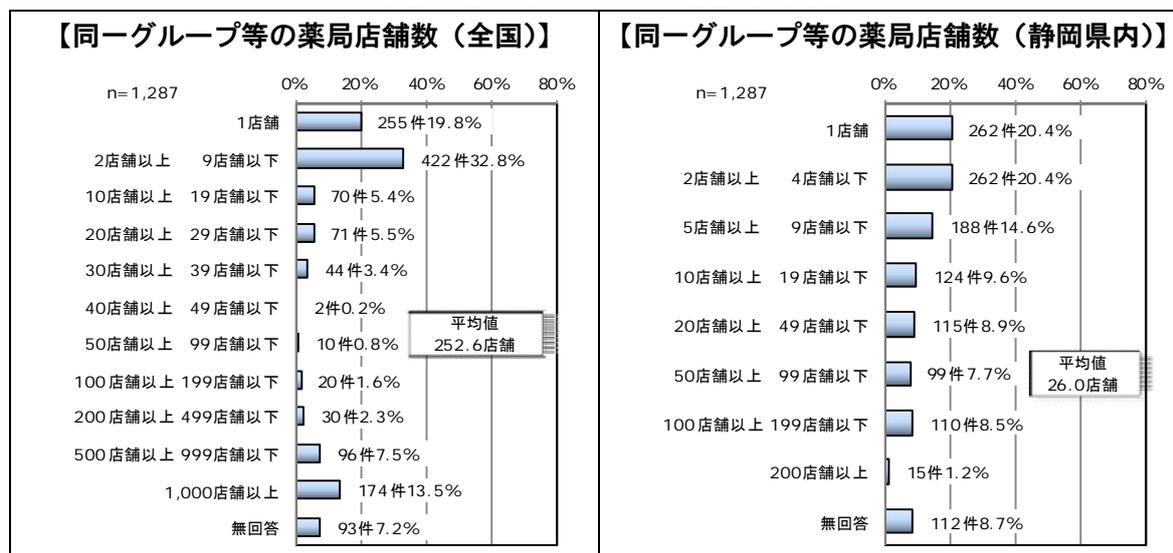
回答薬局の経営主体は「法人」90.0%（1,158 店舗）、「個人」9.9%（127 店舗）であった。

図表 3 経営主体、同一グループ等の薬局店舗数



また、同一グループ（財務上又は営業上若しくは事業上、緊密な関係にある範囲の薬局をいう）等の薬局店舗数をみると、全国ベースでは「2店舗以上9店舗以下」32.8%が最も多く、平均252.6店舗であった。県内ベースでも「2店舗以上9店舗以下」35.0%が最も多く、平均26.0店舗であった。

図表4 同一グループ等の薬局店舗数



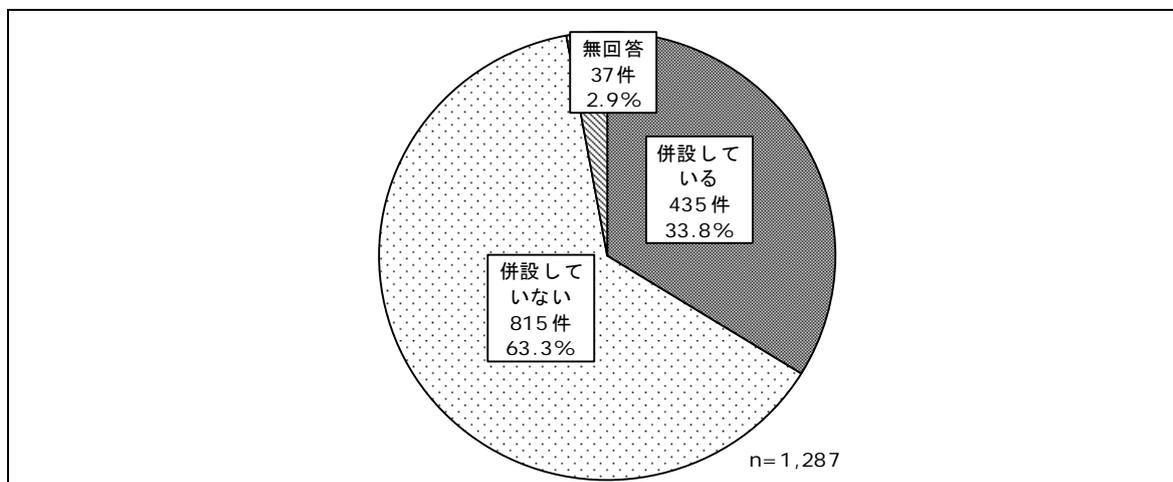
同一グループの薬局店舗数（県内ベース）を二次保健医療圏別にみると、「志太榛原」の平均31.4店舗が最も多く、次いで「静岡」29.2店舗となっていた。

図表5 同一グループ等の薬局店舗数（静岡県内）；二次保健医療圏別

薬局店舗数区分	賀茂	熱海伊東	駿東田方	富士	静岡	志太榛原	中東遠	西部
1店舗	21.7%	31.6%	15.7%	15.5%	21.0%	20.9%	17.9%	25.9%
2店舗以上 4店舗以下	34.8%	21.1%	24.5%	23.3%	22.4%	15.9%	28.5%	10.0%
5店舗以上 9店舗以下	0.0%	5.3%	9.7%	15.5%	21.3%	16.4%	15.2%	11.3%
10店舗以上 19店舗以下	26.1%	13.2%	7.9%	7.8%	2.8%	2.5%	15.9%	20.1%
20店舗以上 49店舗以下	4.3%	2.6%	14.4%	14.0%	4.9%	19.4%	4.0%	2.1%
50店舗以上 99店舗以下	0.0%	2.6%	8.3%	8.5%	3.8%	5.5%	4.0%	16.7%
100店舗以上 199店舗以下	8.7%	5.3%	9.3%	8.5%	12.9%	11.4%	6.6%	1.7%
200店舗以上	0.0%	2.6%	0.0%	0.8%	1.4%	2.0%	0.0%	2.1%
無回答	4.3%	15.8%	10.2%	6.2%	9.4%	6.0%	7.9%	10.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
平均店舗数	17.0	20.9	26.2	25.6	29.2	31.4	18.0	23.6

同一敷地内での店舗販売業の併設の有無については、「併設していない」63.3%、「併設している」33.8%であった。

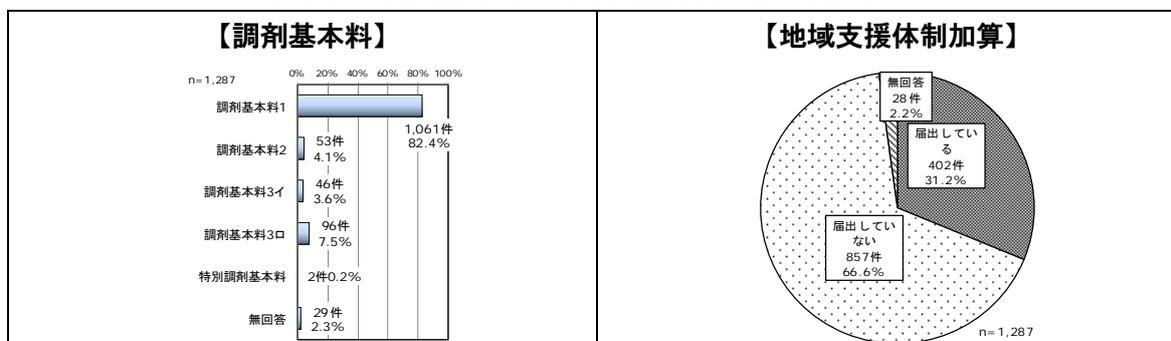
図表6 同一敷地内における店舗販売業の併設の有無



3. 調剤基本料等の届出状況

調剤基本料については、「調剤基本料1」82.4%が最も多かった。また、地域支援体制加算の届出をしている薬局は31.2%であった。

図表7 調剤基本料、地域支援体制加算の届出状況



地域支援体制加算の届出状況を二次保健医療圏別にみると、届出薬局の割合は「賀茂」56.5%が最も高く、「富士」20.9%が最も低かった。

また、地域支援体制加算の届出状況を同一チェーン等の県内店舗数規模別にみると、店舗数規模が5店舗以上では、規模が大きいほど届出割合が低くなっていた。

さらに、令和元年6月1か月間の処方箋受付枚数規模別にみると、届出薬局の割合は「2,500枚以上2,999枚以下」50.0%が最も高く、「499枚以下」10.6%が最も低かった。

図表8 地域支援体制加算の届出状況；二次保健医療圏別

届出状況	賀茂	熱海伊東	駿東田方	富士	静岡	志太榛原	中東遠	西部
届出している	56.5%	50.0%	25.0%	20.9%	29.7%	30.3%	39.7%	34.7%
届出していない	43.5%	47.4%	72.2%	78.3%	67.1%	68.2%	60.3%	61.9%
無回答	0.0%	2.6%	2.8%	0.8%	3.1%	1.5%	0.0%	3.3%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

図表9 地域支援体制加算の届出状況；県内店舗数規模別

届出状況	1店舗	2店舗以上 4店舗以下	5店舗以上 9店舗以下	10店舗以上 49店舗以下	50店舗以上 99店舗以下	100店舗以上
届出している	29.0%	31.3%	43.1%	36.4%	26.3%	14.4%
届出していない	65.6%	67.6%	56.9%	63.6%	69.7%	85.6%
無回答	5.3%	1.1%	0.0%	0.0%	4.0%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

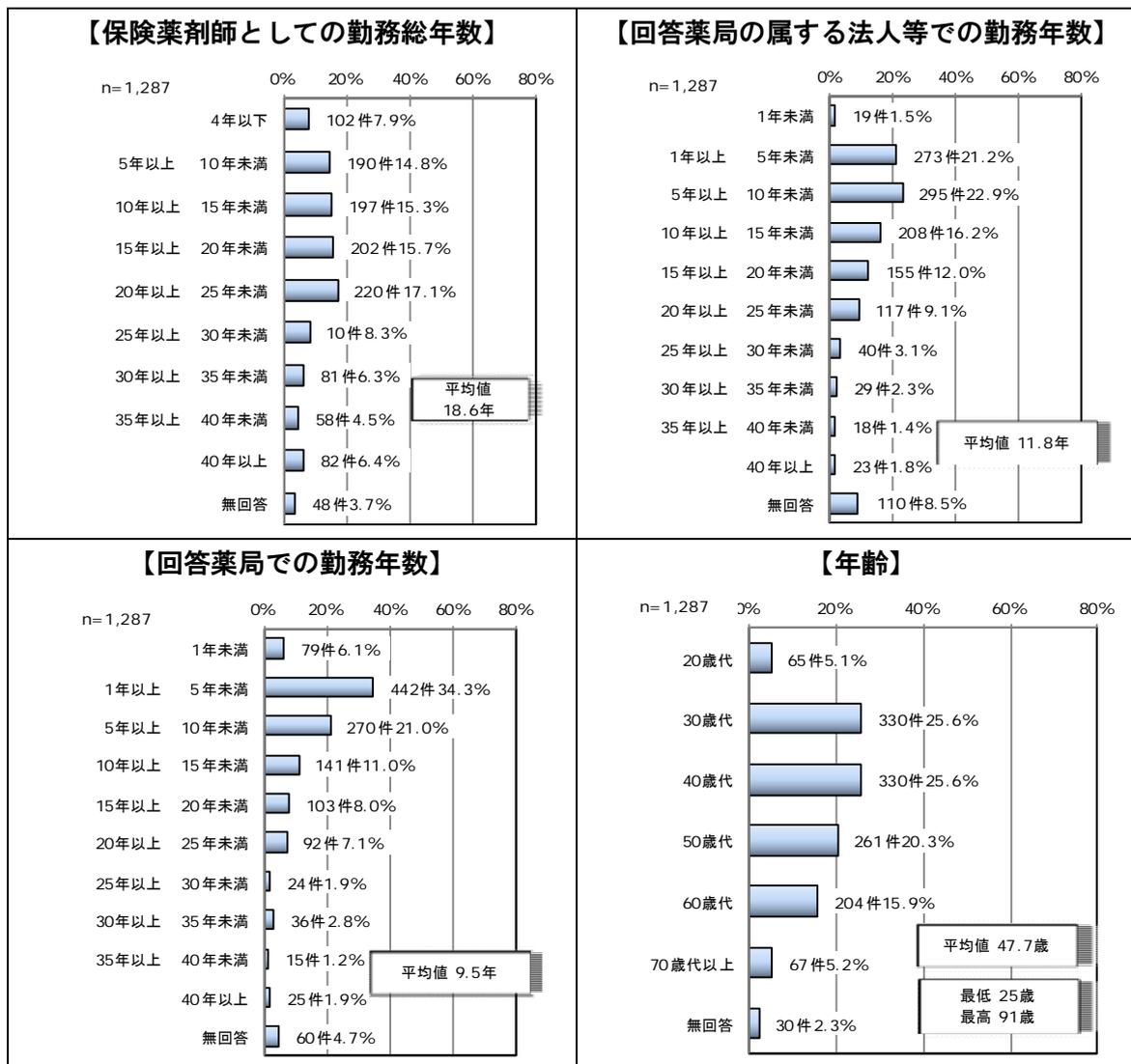
図表10 地域支援体制加算の届出状況；1か月間当たり処方箋受付枚数規模別

届出状況	499枚以下	500枚以上 999枚以下	1,000枚以上 1,499枚以下	1,500枚以上 1,999枚以下	2,000枚以上 2,499枚以下	2,500枚以上 2,999枚以下	3,000枚以上
届出している	10.6%	29.3%	39.1%	35.4%	47.2%	50.0%	43.2%
届出していない	88.9%	70.1%	60.6%	63.3%	52.8%	50.0%	56.8%
無回答	0.5%	0.6%	0.3%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

4. 管理薬剤師の勤務年数、年齢

管理薬剤師の勤務総年数は平均 18.6 年、回答薬局の属する法人等での勤務年数は平均 11.8 年、回答薬局での勤務年数は平均 9.5 年であった。また、平均年齢は 47.7 歳であった。

図表 11 管理薬剤師の勤務年数、年齢



また、管理薬剤師の回答薬局での勤務年数、年齢を県内店舗数規模別にみると、店舗数規模が大きいほど回答薬局での勤務年数は短く、年齢も若くなっていた。

図表 12 管理薬剤師の回答薬局での勤務年数；県内店舗数規模別

勤務年数区分	1店舗	2店舗以上 4店舗以下	5店舗以上 9店舗以下	10店舗以上 49店舗以下	50店舗以上 99店舗以下	100店舗以上
1年未満	0.4%	4.2%	5.3%	7.5%	13.1%	15.2%
1年以上 5年未満	12.6%	27.1%	33.5%	42.3%	64.6%	73.6%
5年以上 10年未満	12.2%	25.2%	32.4%	33.5%	12.1%	6.4%
10年以上 15年未満	13.7%	13.4%	13.3%	9.6%	5.1%	2.4%
15年以上 20年未満	14.5%	9.2%	9.0%	3.8%	3.0%	0.8%
20年以上 25年未満	14.5%	10.7%	3.7%	1.7%	0.0%	1.6%
25年以上 30年未満	3.1%	2.3%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%
30年以上 35年未満	9.5%	1.9%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%
35年以上 40年未満	3.4%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
40年以上	5.7%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	10.3%	3.4%	0.5%	1.7%	2.0%	0.0%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
平均勤務年数	17.9	10.4	7.5	5.4	3.2	2.5

図表 13 管理薬剤師の年齢；県内店舗数規模別

年齢区分	1店舗	2店舗以上 4店舗以下	5店舗以上 9店舗以下	10店舗以上 49店舗以下	50店舗以上 99店舗以下	100店舗以上
20歳代	0.0%	1.9%	2.1%	5.4%	13.1%	22.4%
30歳代	7.3%	17.6%	25.0%	38.1%	56.6%	47.2%
40歳代	19.8%	28.6%	34.0%	31.0%	23.2%	16.8%
50歳代	27.9%	26.7%	24.5%	14.2%	5.1%	8.8%
60歳代	27.1%	19.5%	13.3%	9.2%	2.0%	3.2%
70歳代以上	11.8%	4.6%	1.1%	0.8%	0.0%	0.8%
無回答	6.1%	1.1%	0.0%	1.3%	0.0%	0.8%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
平均年齢	56.4	50.4	46.7	42.9	36.7	36.9

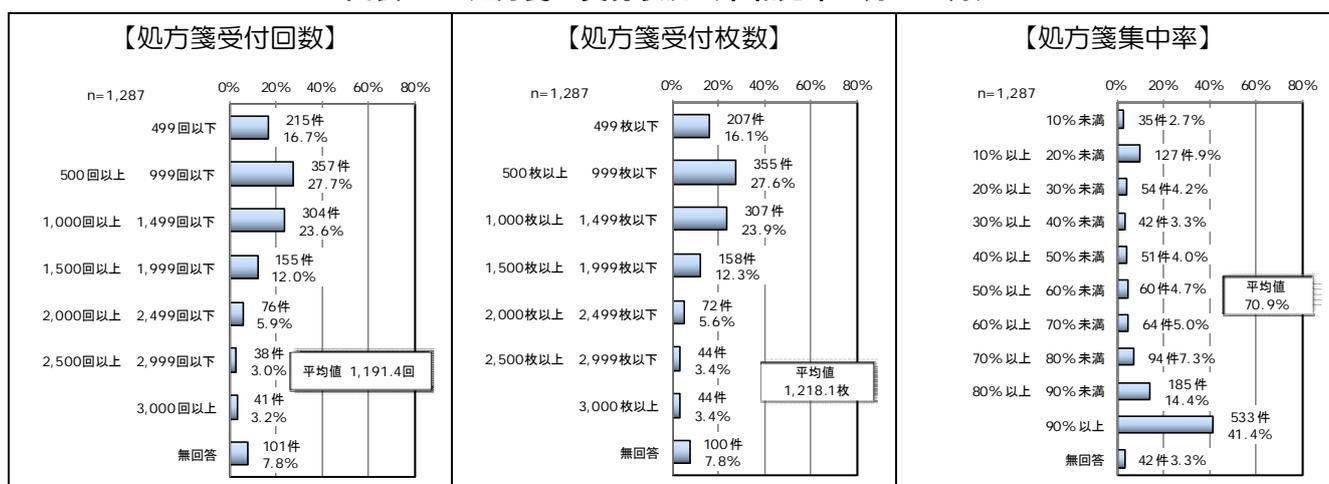
5. 処方箋の状況

令和元年6月1か月間の処方箋受付回数は平均1,191.4回であり、「500回以上999回以下」27.7%が最も多い階級であった。

同期間の処方箋受付枚数は平均1,218.1枚であり、「500枚以上999枚以下」27.6%が最も多い階級であった。

さらに、同期間の処方箋集中度¹は平均70.9%であり、「90%以上」41.4%が最も多い階級であった。同一チェーン等の県内店舗数規模別にみると、店舗数規模が大きいほど処方箋集中度が低くなる傾向がみられた。

図表14 処方箋の受付状況（令和元年6月1か月）



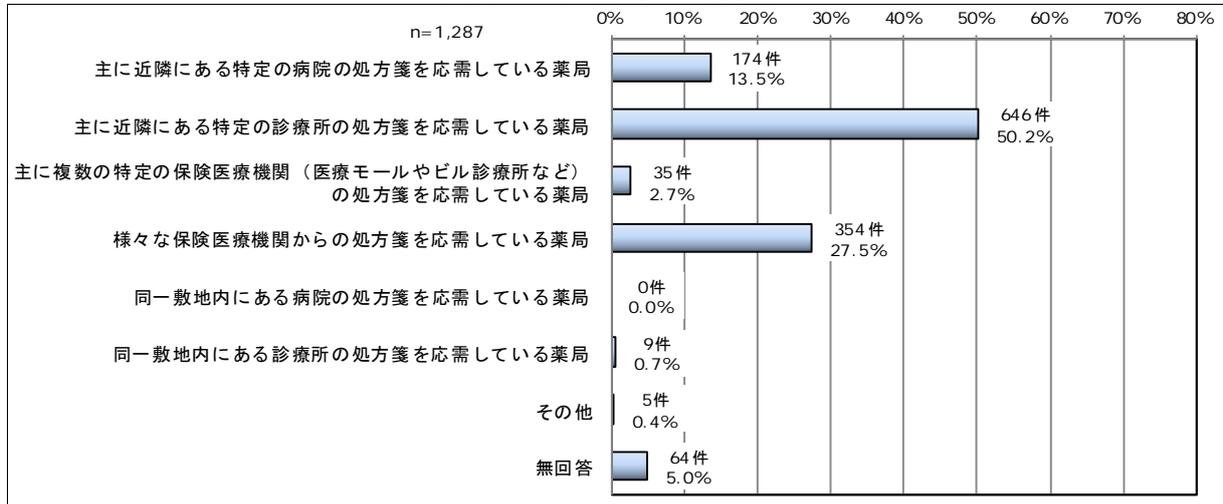
図表15 処方箋の集中度（令和元年6月1か月）；県内店舗数規模別

処方箋集中度区分	1店舗	2店舗以上 4店舗以下	5店舗以上 9店舗以下	10店舗以上 49店舗以下	50店舗以上 99店舗以下	100店舗以上
10%未満	1.9%	0.0%	0.0%	0.8%	11.1%	12.8%
10%以上 20%未満	8.4%	0.8%	1.1%	3.3%	19.2%	50.4%
20%以上 30%未満	6.5%	2.3%	1.1%	0.8%	5.1%	12.8%
30%以上 40%未満	3.8%	3.1%	2.7%	2.1%	3.0%	7.2%
40%以上 50%未満	5.7%	2.3%	4.8%	2.1%	5.1%	4.0%
50%以上 60%未満	5.7%	4.2%	5.3%	3.8%	2.0%	4.0%
60%以上 70%未満	6.1%	6.9%	3.2%	5.4%	4.0%	1.6%
70%以上 80%未満	6.1%	8.0%	8.0%	9.6%	8.1%	2.4%
80%以上 90%未満	13.4%	19.5%	17.6%	15.9%	14.1%	1.6%
90%以上	34.0%	51.1%	55.9%	55.6%	26.3%	2.4%
無回答	8.4%	1.9%	0.5%	0.4%	2.0%	0.8%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
平均	68.1%	82.6%	83.2%	82.2%	56.2%	24.3%

¹ 令和元年6月1か月間に最も多く処方箋を受け付けた医療機関からの受付回数を、全医療機関からの受付回数で除した割合のこと。

処方箋の応需状況についてみると、「主に近隣にある特定の診療所の処方箋を応需している薬局」50.2%が最も多く、次いで「様々な保険医療機関から処方箋を応需している薬局」27.5%が多かった。

図表 16 処方箋の応需状況

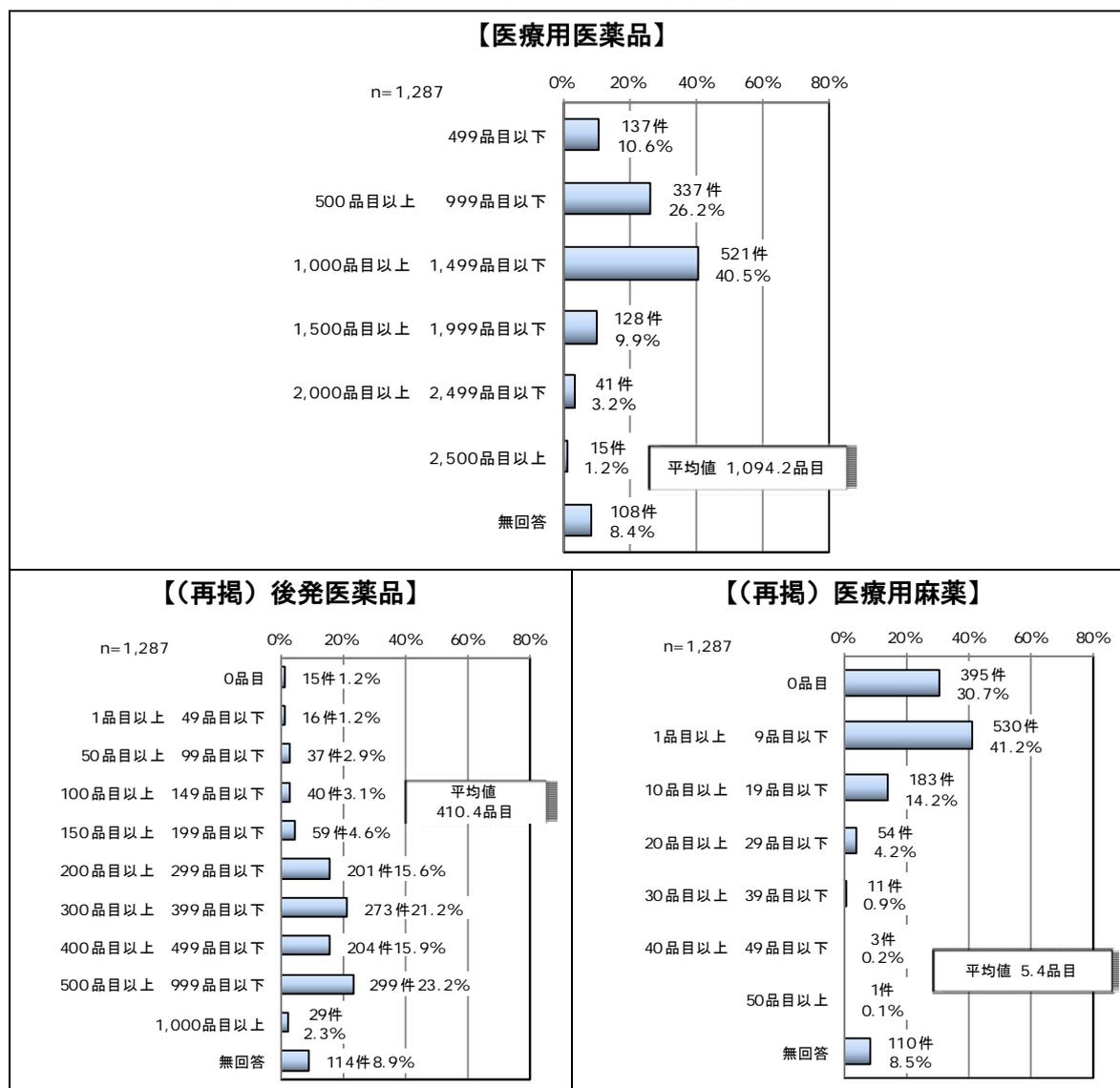


6. 医薬品等の取扱状況

令和元年7月1日時点（調査基準日）の医療用医薬品の取扱品目数²は、平均 1,094.2 品目（中央値 1,186 品目）であった。

そのうち後発医薬品は平均 410.4 品目（同 380 品目）であり、医療用麻薬は平均 5.4 品目（同 3 品目）であった。

図表 17 医療用医薬品の取扱品目数（令和元年7月1日時点）



² 本調査では、販売実績に関わらず、店内で陳列している品目数（アイテム数；同じ製品であっても、包装される錠数のサイズが異なる場合はそれぞれを1品目として計上）を取扱品目数とした。

医療用医薬品の取扱品目数を1店舗当たり薬剤師数規模別にみると、規模の大きい店舗ほど取扱品目数が多くなっていた。

同様に、後発医薬品の取扱品目数についても、規模の大きい店舗ほど取扱品目数が概ね多くなっていた。

また、医療用麻薬についても、規模の大きい店舗ほど取扱品目数が多くなっていた。

図表 18 医療用医薬品の取扱品目数（令和元年7月1日時点）；1店舗当たり薬剤師数規模別

医療用医薬品の取扱品目数区分	1人以上 2人未満	2人以上 3人未満	3人以上 4人未満	4人以上 5人未満	5人以上
499品目以下	19.1%	10.2%	7.8%	5.8%	0.6%
500品目以上 999品目以下	34.1%	29.3%	25.2%	22.3%	8.9%
1,000品目以上 1,499品目以下	34.1%	42.2%	46.6%	43.8%	36.9%
1,500品目以上 1,999品目以下	2.8%	8.4%	9.7%	19.0%	24.2%
2,000品目以上 2,499品目以下	0.6%	1.3%	1.0%	3.3%	15.3%
2,500品目以上	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	7.0%
無回答	8.4%	8.7%	9.7%	5.8%	7.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
平均取扱品目数	878.4	1,039.7	1,073.2	1,199.9	1,605.0

図表 19 後発医薬品の取扱品目数（令和元年7月1日時点）；1店舗当たり薬剤師数規模別

後発医薬品の取扱品目数区分	1人以上 2人未満	2人以上 3人未満	3人以上 4人未満	4人以上 5人未満	5人以上
0品目	2.8%	0.8%	0.5%	0.0%	0.0%
1品目以上 49品目以下	3.1%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%
50品目以上 99品目以下	3.8%	3.1%	2.9%	2.5%	0.6%
100品目以上 149品目以下	5.6%	2.3%	3.9%	1.7%	0.6%
150品目以上 199品目以下	6.6%	3.8%	5.3%	6.6%	0.6%
200品目以上 299品目以下	20.0%	19.1%	15.5%	8.3%	5.7%
300品目以上 399品目以下	18.8%	23.4%	23.8%	23.1%	16.6%
400品目以上 499品目以下	13.8%	12.0%	18.9%	24.0%	19.7%
500品目以上 999品目以下	14.4%	23.2%	18.0%	26.4%	42.7%
1,000品目以上	2.2%	1.8%	1.5%	1.7%	5.7%
無回答	9.1%	9.2%	9.7%	5.8%	7.6%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
平均取扱品目数	354.6	398.3	385.0	431.6	564.8

図表 20 医療用麻薬の取扱品目数（令和元年7月1日時点）；1店舗当たり薬剤師数規模別

医療用麻薬の取扱品目数区分	1人以上 2人未満	2人以上 3人未満	3人以上 4人未満	4人以上 5人未満	5人以上
0品目	44.1%	30.3%	28.6%	26.4%	6.4%
1品目以上 9品目以下	36.3%	47.8%	40.3%	44.6%	38.2%
10品目以上 19品目以下	9.1%	11.5%	18.9%	14.9%	23.6%
20品目以上 29品目以下	1.3%	2.0%	1.5%	6.6%	17.2%
30品目以上 39品目以下	0.0%	0.0%	1.0%	1.7%	4.5%
40品目以上 49品目以下	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%
50品目以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%
無回答	9.4%	8.4%	9.7%	5.8%	7.6%
合計	90.6%	91.6%	90.3%	94.2%	92.4%
平均取扱品目数	3.2	4.2	5.2	6.4	12.4

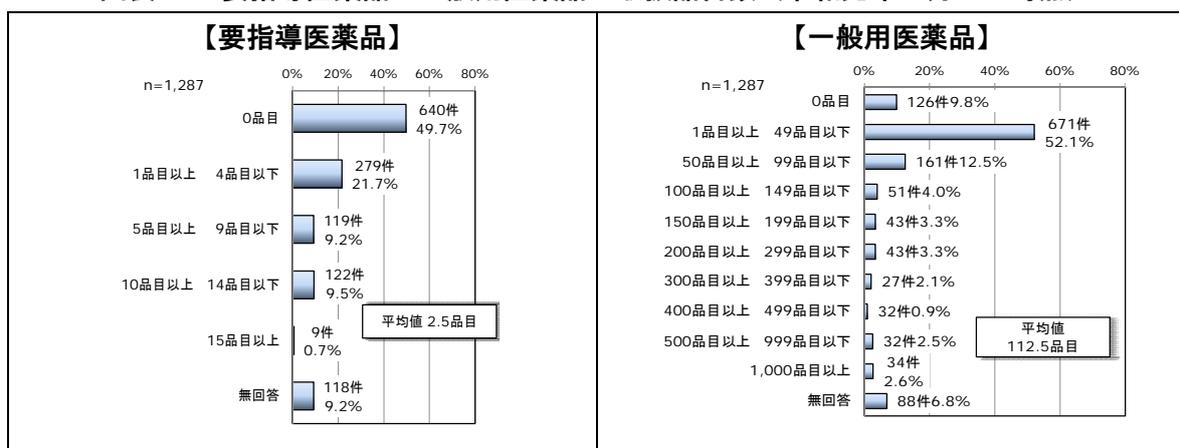
さらに、医療用医薬品の取扱品目数を令和元年6月1か月間の処方箋集中率区分別にみると、処方箋集中率の高い店舗ほど取扱品目数が概ね少なくなっていた。

図表 21 医療用医薬品の取扱品目数（令和元年7月1日時点）；処方箋集中率区分別

医療用医薬品の取扱品目数区分	20%未満	20%以上 40%未満	40%以上 60%未満	60%以上 80%未満	80%以上
499品目以下	4.9%	7.3%	8.1%	3.8%	12.4%
500品目以上 999品目以下	12.3%	12.5%	15.3%	13.3%	37.0%
1,000品目以上 1,499品目以下	35.8%	44.8%	53.2%	53.2%	38.2%
1,500品目以上 1,999品目以下	22.8%	17.7%	15.3%	17.1%	4.2%
2,000品目以上 2,499品目以下	11.1%	6.3%	3.6%	3.2%	0.8%
2,500品目以上	6.2%	3.1%	0.9%	0.6%	0.0%
無回答	6.8%	8.3%	3.6%	8.9%	7.4%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
平均取扱品目数	1,460.5	1,312.0	1,249.3	1,270.3	944.3

要指導医薬品の取扱品目数³は、平均 2.5 品目（中央値 0 品目）であった。また、一般用医薬品の取扱品目数は、平均 112.5 品目（同 23 品目）であった。

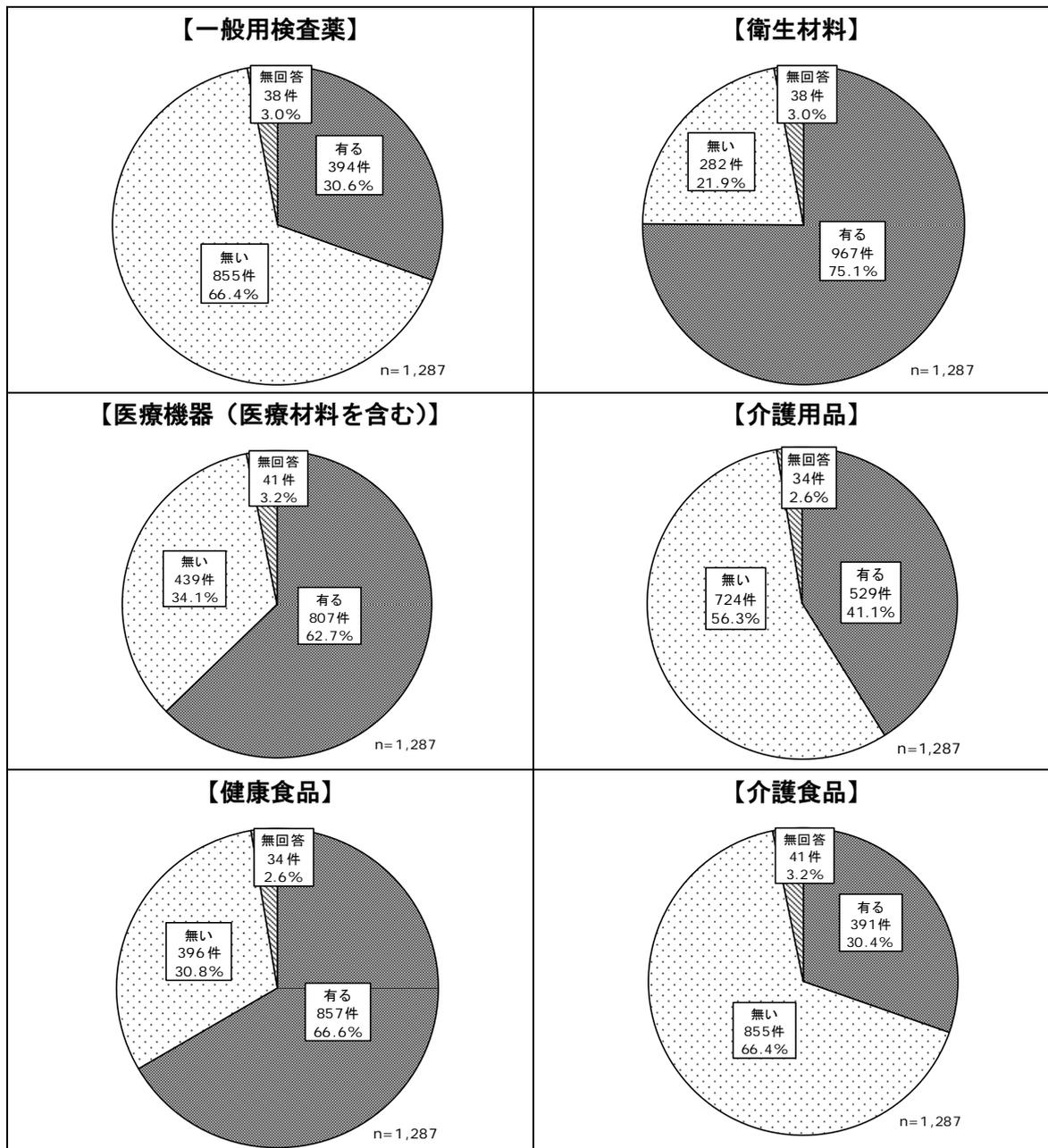
図表 22 要指導医薬品・一般用医薬品の取扱品目数（令和元年7月1日時点）



³ 本調査では、ドラッグストア等店舗販売業を併設又は隣接している場合は、薬局での取扱品目数のみの回答を求めた。

一般用検査薬の取扱がある薬局は30.6%であり、以下同様に、衛生材料は75.1%、医療機器（医療材料を含む）は62.7%、介護用品は41.4%、健康食品は66.6%、介護食品は30.4%の薬局が取り扱っていた。

図表 23 一般用検査薬等の取扱の有無（令和元年7月1日時点）

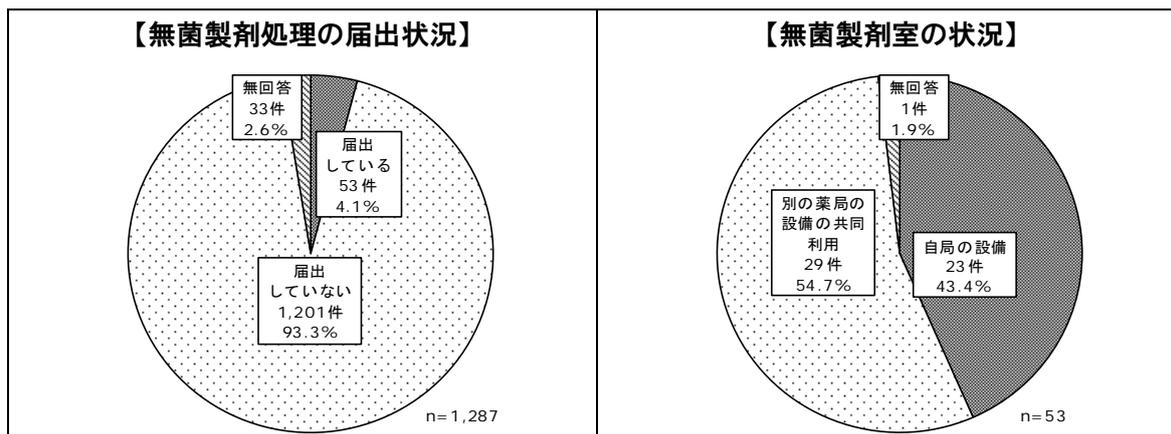


7. 調剤等の状況

(1) 無菌製剤処理の状況

無菌製剤処理に係る届出状況をみると、「届出していない」93.3%、「届出している」4.1%であった。届出している薬局に対して無菌製剤室の状況について尋ねたところ「別の薬局の設備の共同利用」54.7%、「自局の設備」43.4%であった。

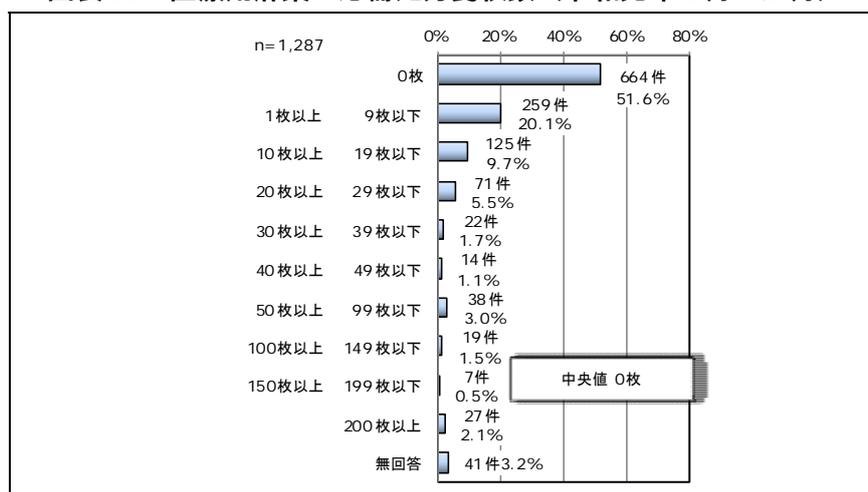
図表 24 無菌製剤処理の状況



(2) 医療用麻薬の状況

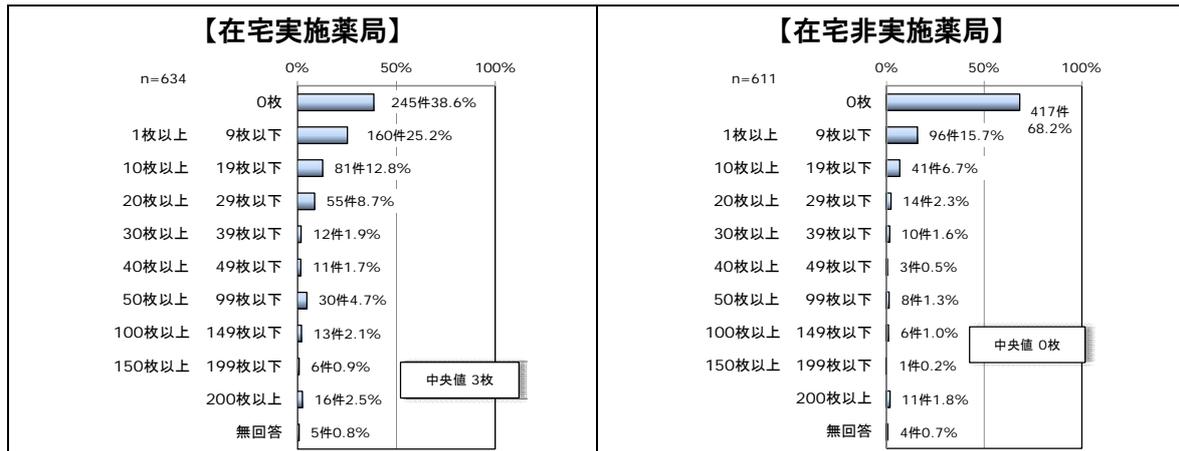
令和元年6月1か月間の医療用麻薬の応需処方箋枚数は「0枚」51.6%（中央値0枚）が最も多い階級であった。

図表 25 医療用麻薬の応需処方箋枚数（令和元年6月1か月）



平成30年1年間の在宅患者訪問薬剤管理指導料又は居宅療養管理指導費の算定回数が「1回以上」であった在宅業務の実施薬局と、「0回」であった非実施薬局の区分で、令和元年6月1か月間の医療用麻薬の応需処方箋枚数をみると、実施薬局では中央値3枚であり、非実施薬局では中央値0枚であった。なお、「1枚以上」の割合は、実施薬局で60.6%であるのに対して、非実施薬局では31.1%であった。

図表 26 医療用麻薬の応需処方箋枚数（令和元年6月1か月）；在宅業務の実施有無別



また、1店舗当たり薬剤師数規模別にみると、規模が大きくなるほど「0枚」の割合が小さくなっていった。

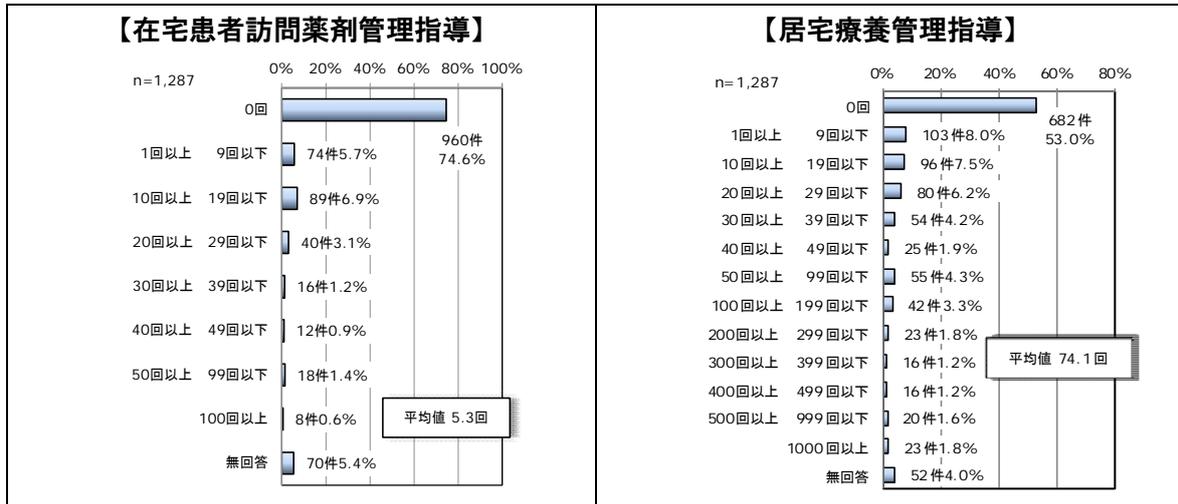
図表 27 医療用麻薬の応需処方箋枚数(令和元年6月1か月)；1店舗当たり薬剤師数規模別

医療用麻薬の応需処方箋枚数区分	1人以上 2人未満	2人以上 3人未満	3人以上 4人未満	4人以上 5人未満	5人以上
0枚	62.5%	55.2%	53.9%	42.1%	22.3%
1枚以上 9枚以下	20.9%	21.9%	18.4%	24.0%	18.5%
10枚以上 19枚以下	5.0%	9.2%	14.1%	7.4%	10.8%
20枚以上 29枚以下	2.8%	5.3%	4.4%	7.4%	12.7%
30枚以上 39枚以下	1.6%	0.8%	1.5%	2.5%	5.1%
40枚以上 49枚以下	0.3%	0.3%	1.9%	4.1%	1.9%
50枚以上 99枚以下	0.9%	2.8%	2.4%	5.0%	5.7%
100枚以上 149枚以下	0.0%	1.0%	0.5%	0.8%	8.3%
150枚以上 199枚以下	0.0%	0.3%	0.0%	0.8%	2.5%
200枚以上	0.9%	0.3%	1.9%	3.3%	8.9%
無回答	5.0%	3.1%	1.0%	2.5%	3.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
平均応需処方箋枚数	56.3	23.4	97.6	22.1	178.4

(3) 在宅業務の状況

平成30年1年間の在宅患者訪問薬剤管理指導の算定回数は平均5.3回であり、「0回」74.6%が最も多い階級であった。また、居宅療養管理指導の算定回数は平均74.1回であり、「0回」53.0%が最も多い階級であった。

図表28 在宅患者訪問薬剤管理指導、居宅療養管理指導の算定回数（平成30年）



また、1店舗当たり薬剤師数規模別に在宅業務の実施状況をみると、規模が大きくなるほど実施薬局の割合が大きくなっていった。

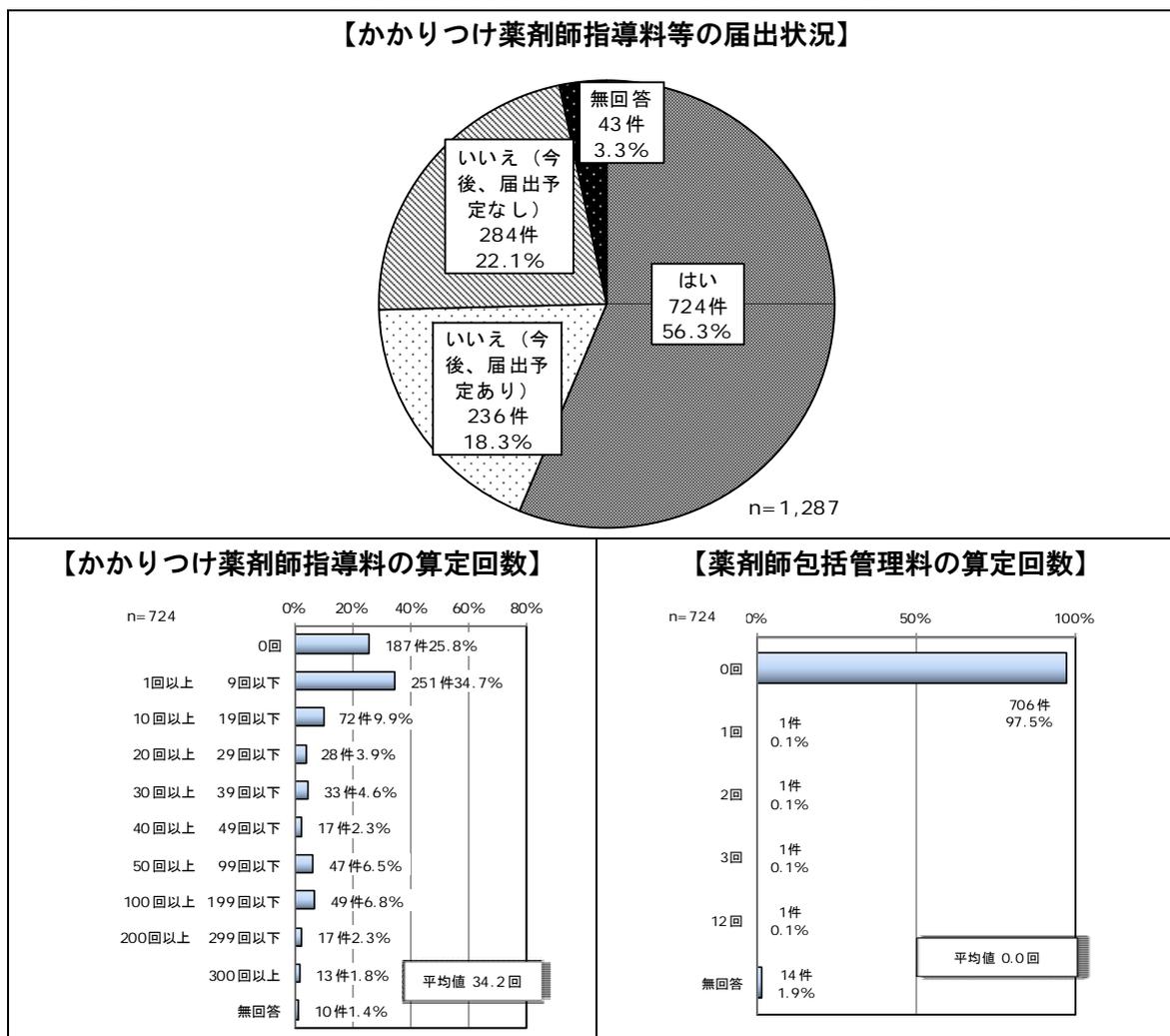
図表29 在宅業務の実施状況（平成30年）；1店舗当たり薬剤師数規模別

在宅業務の実施状況	1人以上 2人未満	2人以上 3人未満	3人以上 4人未満	4人以上 5人未満	5人以上
在宅業務の実施薬局	35.0%	46.8%	53.4%	63.6%	69.4%
在宅業務の非実施薬局	60.0%	48.9%	46.1%	35.5%	27.4%
無回答	5.0%	4.3%	0.5%	0.8%	3.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(4) かかりつけ薬剤師指導料等の状況

かかりつけ薬剤師指導料及びかかりつけ薬剤師包括管理料の届出状況についてみると、届出している薬局は56.3%であり、今後届出予定のある薬局は18.3%であった。届出薬局におけるかかりつけ薬剤師指導料の令和元年6月1か月間の算定回数は平均34.2回であり、「1回以上9回以下」34.7%が最も多い階級であった。また、同期間のかかりつけ薬剤師包括管理料の算定回数は平均0.0回であった。

図表 30 かかりつけ薬剤師指導料等の届出状況、算定回数（令和元年6月1か月）



8. 健康サポート薬局の届出状況

健康サポート薬局の届出状況を1店舗当たり薬剤師数規模別にみると、規模が大きくなるほど届出予定のある薬局の割合が大きくなっていった。

図表 31 健康サポート薬局の届出状況；1店舗当たり薬剤師数規模別

健康サポート薬局の届出の有無	全体	1人以上 2人未満	2人以上 3人未満	3人以上 4人未満	4人以上 5人未満	5人以上
届出している	31	0.9%	1.3%	2.9%	5.0%	4.5%
届出していない（届出予定あり）	483	28.1%	37.4%	40.8%	47.1%	47.1%
届出していない（届出予定なし）	723	65.6%	58.3%	53.4%	45.5%	43.3%
無回答	50	5.3%	3.1%	2.9%	2.5%	5.1%
合 計	1,287	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

また、健康サポート薬局に係る研修を修了した薬剤師の有無別にみると、当該薬剤師のいる薬局では届出予定のある薬局の割合が62.5%と、いない薬局の28.9%を大きく上回っていた。

図表 32 健康サポート薬局の届出状況；健康サポート薬局に係る研修を修了した薬剤師の有無別

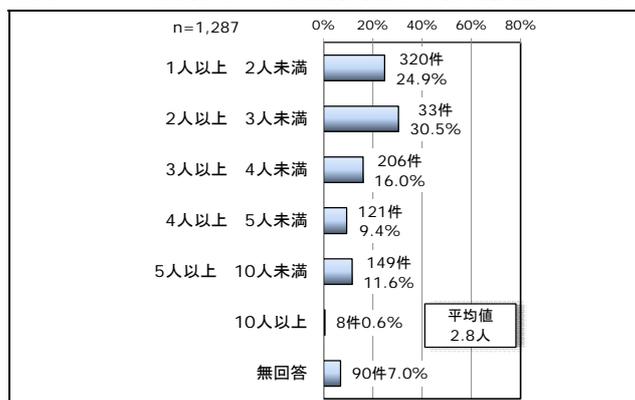
健康サポート薬局の届出の有無	いる	いない
届出している	6.3%	0.8%
届出していない（届出予定あり）	62.5%	28.9%
届出していない（届出予定なし）	30.8%	65.2%
無回答	0.3%	5.1%
合 計	100.0%	100.0%

9. 従事者の状況

(1) かかりつけ薬剤師指導料等の状況

1店舗当たり薬剤師数(常勤換算)は平均2.8人であり、「2人以上3人未満」30.5%が最も多い階級であった。

図表 33 1店舗当たり薬剤師数(常勤換算)の分布



1店舗当たり職員数をみると、薬剤師は常勤が平均2.1人、非常勤(常勤換算)が平均0.7人であった。また、調剤業務を一部補助する薬剤師以外の職員は常勤が平均0.9人、非常勤(常勤換算)が平均0.2人であった。

なお、調剤業務を一部補助する薬剤師以外の職員がいる薬局は652店舗(回答薬局の50.7%)であった。

図表 34 1店舗当たり職員数

職員の区分等	常 勤	非常勤 (常勤換算)
① 薬剤師	2.1人	0.7人
② ①のうち、薬剤師認定制度認証機構(CPC)の認定薬剤師	1.2人	0.2人
③ ①のうち、健康サポート薬局に係る研修を修了した薬剤師	0.3人	0.0人
④ ①のうち、かかりつけ薬剤師の要件を満たしている薬剤師	0.9人	
⑤ ①のうち、かかりつけ薬剤師として届出している薬剤師	0.8人	
⑥ 調剤業務を一部補助する薬剤師以外の職員	0.9人	0.2人
⑦ その他の職員	0.8人	0.2人

有効回答のあった1,197件で集計

1店舗当たりの健康サポート薬局に係る研修を修了した薬剤師数(常勤換算)をみると、届出薬局では1.6人(届出薬局における1店舗当たり薬剤師数4.1人の38.9%)、未届出薬局のうち届出予定のある薬局では0.6人(同3.1人の18.4%)、届出予定のない薬局では0.2人(同2.6人の7.1%)であった。

図表 35 1 店舗当たり薬剤師数（常勤換算）；健康サポート薬局の届出状況別

薬剤師の区分等	届出薬局	未届出薬局	
		予定あり	予定なし
① 薬剤師数	4.1 人	3.1 人	2.6 人
② ①のうち、健康サポート薬局に係る研修を修了した薬剤師数	1.6 人	0.6 人	0.2 人
健康サポート薬局に係る研修を修了した薬剤師数の割合（②/①）	38.9%	18.4%	7.1%

1 店舗当たり薬剤師数（常勤換算）を年齢区分別にみると、男性は「30～39 歳」0.4 人（30.9%）が最も多く、女性は「40～49 歳」0.4 人（25.3%）が最も多かった。

また、1 店舗当たり薬剤師数（常勤換算）の年代別構成を県内店舗数規模別にみると、店舗数規模が大きいほど若年層の割合が多くなっていた。

図表 36 1 店舗当たり薬剤師数（常勤換算）；年齢区分別

年齢区分	人 数		割 合	
	男性	女性	男性	女性
24～29 歳	0.2 人	0.2 人	14.9%	12.6%
30～39 歳	0.4 人	0.3 人	30.9%	22.7%
40～49 歳	0.3 人	0.4 人	21.3%	25.3%
50～59 歳	0.2 人	0.3 人	15.3%	20.7%
60～69 歳	0.2 人	0.2 人	12.6%	14.7%
70 歳以上	0.1 人	0.1 人	5.1%	4.0%
合 計	1.3 人	1.4 人	100.0%	100.0%

有効回答のあった 987 件で集計

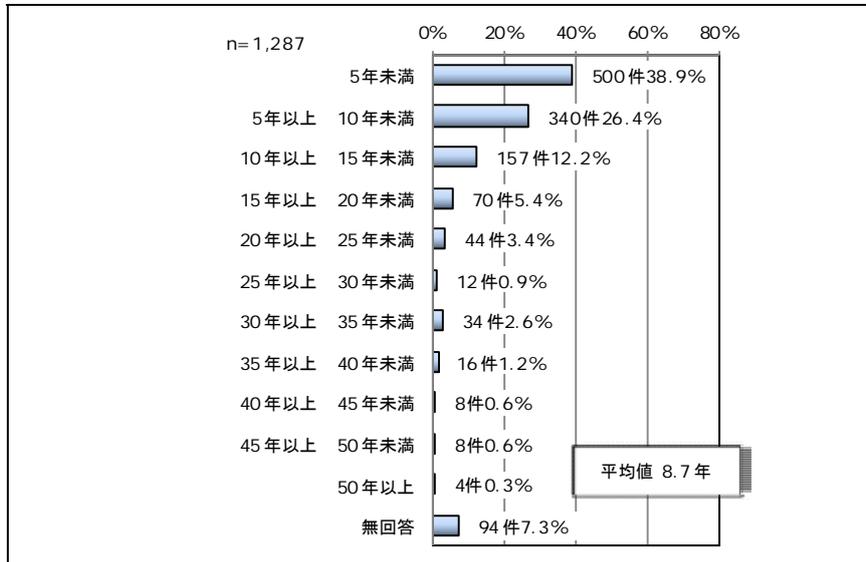
図表 37 1 店舗当たり薬剤師数（常勤換算）の年齢区分別構成；県内店舗数規模別

年齢区分	1店舗	2店舗以上 4店舗以下	5店舗以上 9店舗以下	10店舗以上 49店舗以下	50店舗以上 99店舗以下	100店舗以上
24～29歳	2.3%	3.4%	10.5%	16.3%	32.1%	30.6%
30～39歳	10.3%	19.5%	27.4%	36.0%	40.2%	34.4%
40～49歳	23.0%	29.5%	29.3%	23.3%	17.3%	14.7%
50～59歳	27.4%	23.6%	19.3%	15.4%	6.7%	8.0%
60～69歳	23.3%	20.0%	11.7%	8.0%	3.1%	9.4%
70歳以上	13.8%	4.0%	1.8%	1.0%	0.6%	2.8%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

有効回答のあった 899 件で集計

回答薬局における薬剤師の勤続年数は平均 8.7 年であり、「5 年未満」38.9%が最も多い階級であった。

図表 38 回答薬局における薬剤師の平均勤続年数の分布



1 店舗当たり薬剤師数（実人数）を勤続年数区分別にみると、「1 年～3 年」1.3 人（40.6%）が最も多かった。

図表 39 1 店舗当たり薬剤師数（実人数）；回答薬局での勤続年数区分別

勤続年数区分	人数	割合
1 年～3 年	1.3 人	40.6%
4 年～6 年	0.6 人	18.9%
7 年～10 年	0.4 人	13.2%
11 年～15 年	0.3 人	11.0%
16 年～20 年	0.2 人	6.1%
20 年超	0.3 人	10.1%
合計	3.1 人	100.0%

有効回答のあった 1,057 件で集計

(2) 採用・退職の状況

法人単位（個店含む）での2014年度から2018年度までの薬剤師の採用、退職の状況についてみると、採用者数、退職者数ともに増加傾向にあった。

ただし、二次保健医療圏別に採用者数の推移をみると、「熱海伊東」と「富士」は他の二次保健医療圏に比して横這い状況にあった。

図表 40 静岡県内における薬剤師の採用・退職の状況（2014年度～2018年度）

採用・退職		2014	15'	16'	17'	18'
① 採用	常勤	232人 (108人)	264人 (122人)	297人 (143人)	347人 (173人)	421人 (198人)
	非常勤	89人 (33人)	107人 (55人)	100人 (42人)	117人 (48人)	165人 (45人)
② 退職	常勤	107人 (36人)	114人 (40人)	102人 (39人)	126人 (37人)	125人 (60人)
	非常勤	66人 (35人)	60人 (23人)	65人 (26人)	78人 (31人)	97人 (37人)

有効回答のあった382法人（個店含む）で集計、（ ）内の数値は新卒採用者数を表記

図表 41 静岡県内における薬剤師の採用の状況(2014年度～2018年度);二次保健医療圏別

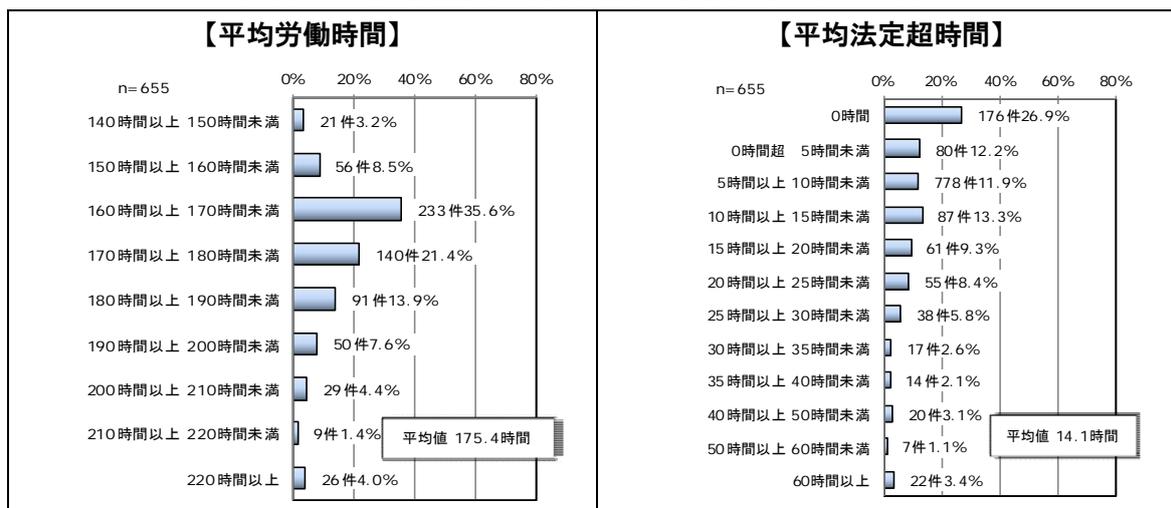
採用区分		賀茂	熱海伊東	駿東田方	富士	静岡	志太榛原	中東遠	西部
2014年度採用	常勤	11	7	35	23	65	32	15	44
	(うち)新卒	10	7	18	15	23	19	6	10
	非常勤	6	1	19	9	21	2	6	25
	(うち)新卒	0	1	6	6	11	0	3	6
2015年度採用	常勤	26	10	27	32	67	38	17	47
	(うち)新卒	18	5	19	11	25	27	7	10
	非常勤	6	2	16	8	20	10	20	25
	(うち)新卒	1	0	11	2	13	6	14	8
2016年度採用	常勤	32	7	36	19	70	49	34	50
	(うち)新卒	21	6	21	13	22	36	20	4
	非常勤	5	4	19	8	19	5	15	25
	(うち)新卒	0	2	9	2	8	5	9	7
2017年度採用	常勤	40	4	48	23	80	61	28	63
	(うち)新卒	29	4	24	16	33	42	13	12
	非常勤	0	2	21	9	18	10	25	32
	(うち)新卒	0	0	9	4	8	4	14	9
2018年度採用	常勤	39	7	92	24	83	71	39	66
	(うち)新卒	25	6	31	20	26	45	29	16
	非常勤	3	3	69	4	30	9	14	33
	(うち)新卒	2	0	13	3	13	4	5	5
5年間の合計	常勤	148	35	238	121	365	251	133	270
	(うち)新卒	103	28	113	75	129	169	75	52
	非常勤	20	12	144	38	108	36	80	140
	(うち)新卒	3	3	48	17	53	19	45	35
	常勤及び非常勤 (うち)新卒	106	31	161	92	182	188	120	87
法人(個店含む)数		7	16	66	29	89	47	52	76

(3) 労働時間

令和元年6月1か月間の常勤薬剤師の労働時間をみると、平均労働時間は175.4時間であり、「160時間以上170時間未満」35.6%が最も多い階級であった。また、同期間の法定超時間は平均14.1時間であり、「0時間」26.9%が最も多い階級であった。

また、平均労働時間を1店舗当たり薬剤師数規模別にみると、薬剤師数規模の小さい店舗ほど労働時間が長い傾向にあった。

図表 42 常勤薬剤師の労働時間（令和元年6月1か月）



有効回答のあった655件で集計

図表 43 常勤薬剤師の平均労働時間（令和元年6月1か月）；1店舗当たり薬剤師数規模別

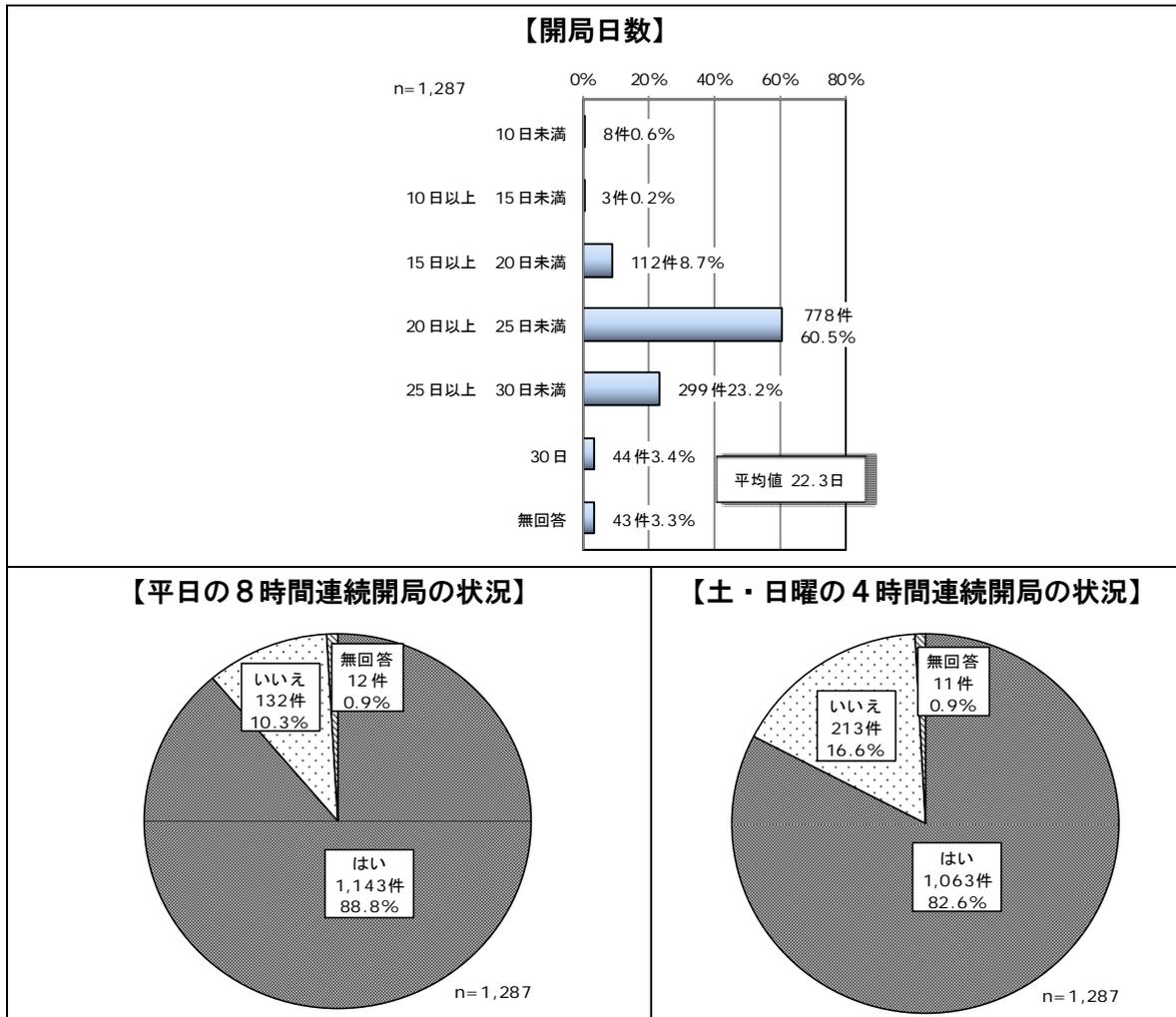
平均労働時間区分	1人以上 2人未満	2人以上 3人未満	3人以上 4人未満	4人以上 5人未満	5人以上
140時間以上 150時間未満	2.9%	4.1%	0.0%	2.9%	6.4%
150時間以上 160時間未満	4.3%	11.9%	8.7%	10.0%	6.4%
160時間以上 170時間未満	26.1%	36.1%	41.7%	35.7%	39.4%
170時間以上 180時間未満	17.4%	21.1%	18.3%	22.9%	30.9%
180時間以上 190時間未満	15.2%	13.9%	16.5%	12.9%	9.6%
190時間以上 200時間未満	13.0%	4.1%	6.1%	14.3%	5.3%
200時間以上 210時間未満	8.0%	4.6%	4.3%	1.4%	1.1%
210時間以上 220時間未満	2.9%	1.0%	2.6%	0.0%	0.0%
220時間以上	10.1%	3.1%	1.7%	0.0%	1.1%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
平均労働時間	185.6	173.0	174.7	171.2	169.9

(4) 開局の状況

令和元年6月1か月間の開局の状況をみると、開局日数は平均22.3日であり、「20日以上25日未満」60.5%が最も多い階級であった。

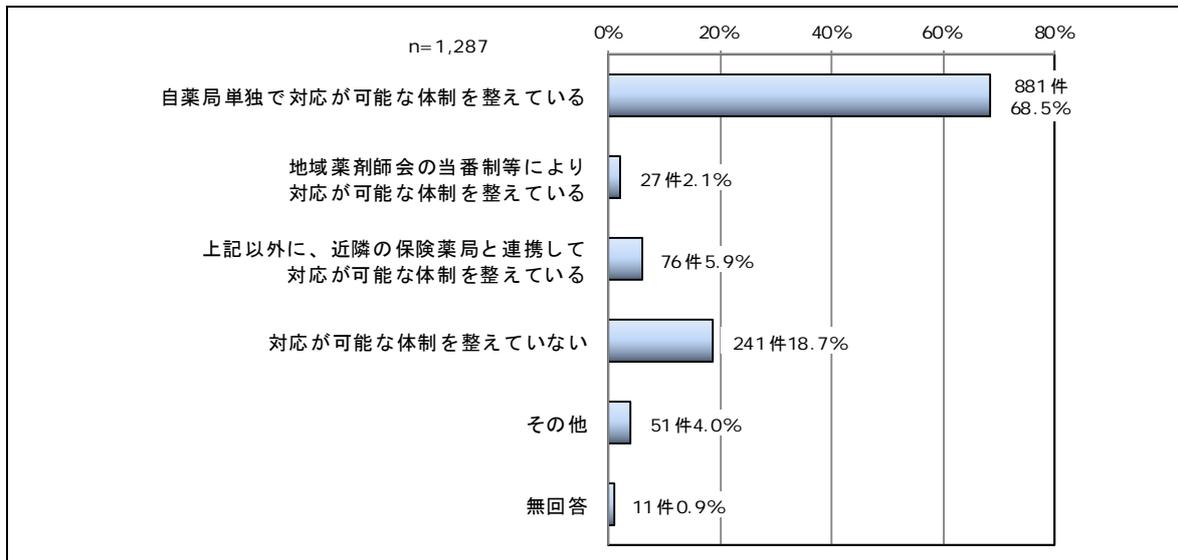
また、平日の8時間連続開局をしている薬局は88.8%、土・日曜に4時間連続開局している薬局は82.6%であった。

図表44 開局の状況（令和元年6月1か月）

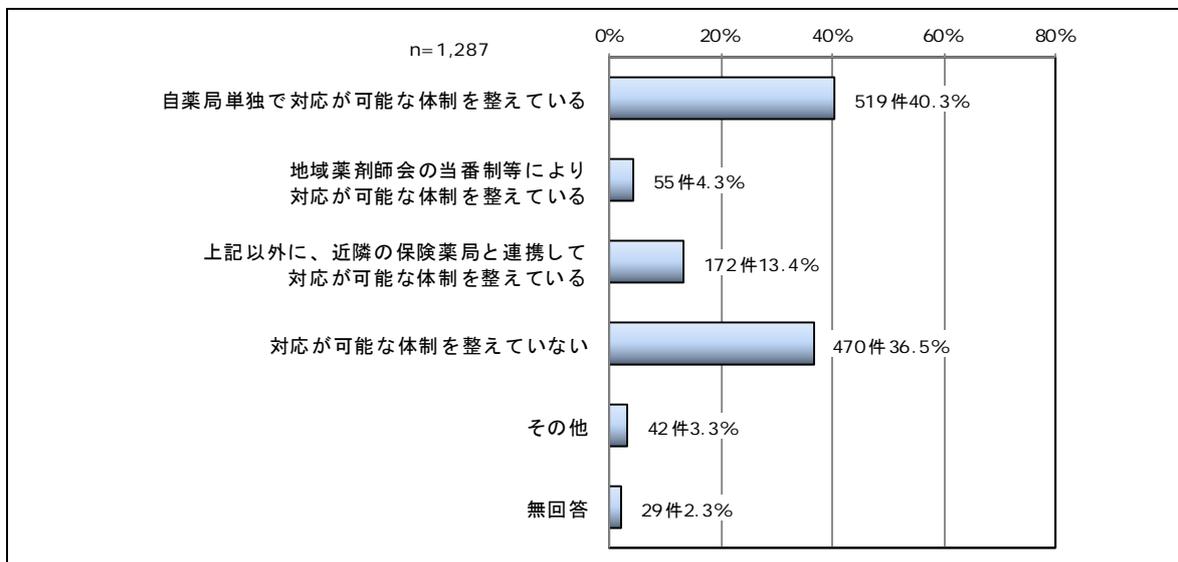


24時間の相談対応の体制については「自薬局単独で対応が可能な体制を整えている」68.5%が最も多く、24時間の調剤対応の体制については「自薬局単独で対応が可能な体制を整えている」40.3%が最も多かった。ただし、後者については「対応が可能な体制を整えていない」が次いで36.5%であった。

図表 45 24時間の相談対応の体制



図表 46 24時間の調剤対応の体制



また、24時間の調剤対応の体制を二次保健医療圏別にみると、「賀茂」において「自薬局単独で対応が可能な体制を整えている」の割合が他の二次保健医療圏に比して高くなっていた。

図表 47 24時間の調剤対応の体制；二次保健医療圏別

24時間の調剤体制の状況	賀茂	熱海伊東	駿東田方	富士	静岡	志太榛原	中東遠	西部
自薬局単独で対応が可能な体制を整えている	60.9%	44.7%	45.8%	38.8%	37.1%	40.3%	41.7%	36.4%
地域薬剤師会の当番制等により対応が可能な体制を整えている	8.7%	0.0%	3.7%	3.9%	3.1%	4.5%	7.3%	4.6%
上記以外に、近隣の保険薬局と連携して対応が可能な体制を整えている	8.7%	18.4%	4.6%	10.1%	10.5%	10.0%	23.2%	22.6%
対応が可能な体制を整えていない	21.7%	31.6%	41.2%	41.9%	43.4%	37.8%	24.5%	30.1%
その他	0.0%	2.6%	2.8%	3.1%	3.1%	5.0%	2.6%	3.3%
無回答	0.0%	2.6%	1.9%	2.3%	2.8%	2.5%	0.7%	2.9%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

10. 今後の方針

(1) 在宅業務、高度薬学管理、地域貢献活動の今後5年後の対応意向

ア 在宅業務

在宅業務の今後5年後の対応意向について、1店舗当たり薬剤師数規模別にみると、規模の大きい店舗ほど「現在より増加させる見込み」との回答割合が概ね多い傾向にあった。

図表 48 在宅業務の今後5年後の対応意向；1店舗当たり薬剤師数規模別

今後の方針	1人以上 2人未満	2人以上 3人未満	3人以上 4人未満	4人以上 5人未満	5人以上
現在は実施していないが、実施する見込み	26.3%	27.7%	25.2%	19.8%	15.3%
現在より増加させる見込み	22.2%	30.0%	38.3%	43.8%	42.7%
現状維持（継続実施）の見込み	15.3%	16.8%	16.0%	16.5%	14.6%
現在より減少させる見込み	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%
予定なし（現在も実施していない）	17.2%	9.2%	7.8%	6.6%	2.5%
わからない	15.6%	14.2%	11.2%	12.4%	21.0%
無回答	3.4%	1.5%	1.5%	0.8%	3.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

イ 高度薬学管理

高度薬学管理の今後5年後の対応意向について、1店舗当たり薬剤師数規模別にみると、薬剤師数規模の大きい店舗ほど「現在は実施していないが対応する見込み」との回答割合が多い傾向にあった。

図表 49 高度薬学管理への今後5年後の対応意向；1店舗当たり薬剤師数規模別

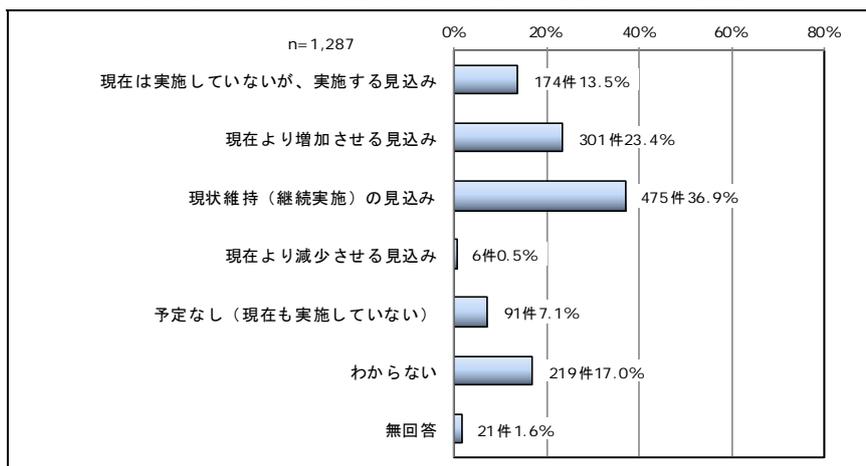
今後の方針	1人以上 2人未満	2人以上 3人未満	3人以上 4人未満	4人以上 5人未満	5人以上
現在は実施していないが、対応する見込み	25.0%	24.9%	28.6%	30.6%	33.1%
現在より対応を強化させる見込み	10.9%	10.4%	16.0%	14.9%	15.3%
現状維持（継続実施）の見込み	7.2%	10.9%	9.2%	9.9%	7.6%
現在より対応を弱体化させる見込み	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%
予定なし（現在も実施していない）	25.9%	22.1%	15.0%	17.4%	7.6%
わからない	27.2%	29.3%	29.6%	24.8%	33.1%
無回答	3.8%	2.0%	1.5%	2.5%	3.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

ウ 地域貢献活動

地域貢献活動の今後5年後の対応意向としては「現状維持の見込み」36.9%が最も多く、次いで「現在より増加させる見込み」23.4%であった。

1店舗当たり薬剤師数規模別にみると、薬剤師数規模が「5人以上」の店舗において「現在より増加させる見込み」との回答割合が他の階級に比べて多い傾向にあった。

図表 50 地域貢献活動の今後5年後の対応意向



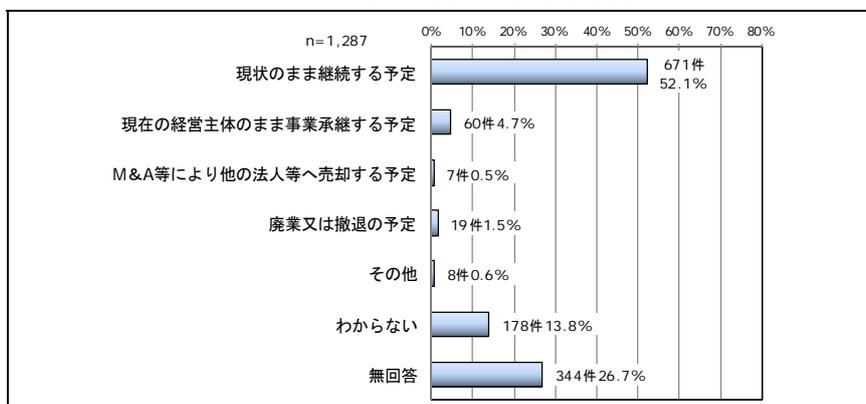
図表 51 地域貢献活動への今後5年後の対応意向；1店舗当たり薬剤師数規模別

今後の方針	1人以上 2人未満	2人以上 3人未満	3人以上 4人未満	4人以上 5人未満	5人以上
現在は実施していないが、実施する見込み	15.0%	13.5%	11.2%	12.4%	14.6%
現在より増加させる見込み	14.1%	25.7%	26.2%	24.8%	30.6%
現状維持（継続実施）の見込み	37.2%	36.9%	42.2%	44.6%	25.5%
現在より減少させる見込み	0.3%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%
予定なし（現在も実施していない）	12.2%	5.6%	6.3%	4.1%	2.5%
その他	19.1%	16.3%	12.6%	13.2%	23.6%
無回答	2.2%	0.8%	1.5%	0.8%	3.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(2) 事業継続の予定

今後5年後の事業継続予定についてみると、「現状のまま継続する予定」52.1%が最も多く、次いで「わからない」13.8%であった。

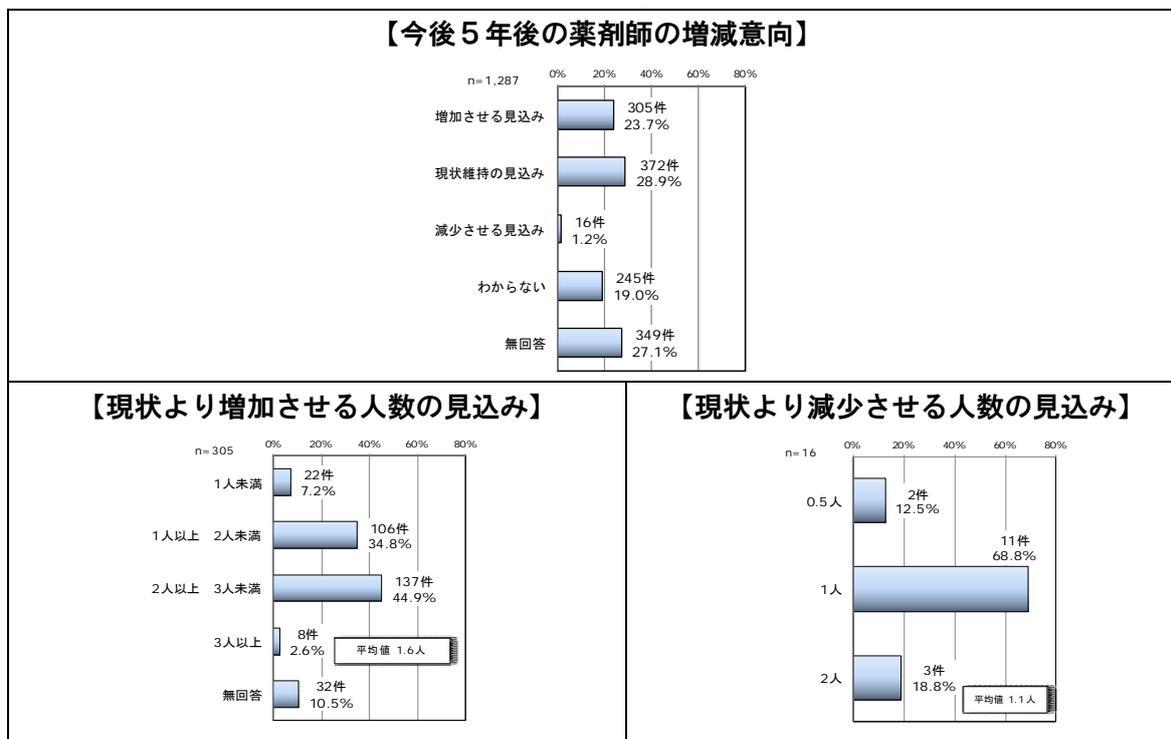
図表 52 今後5年後の事業継続予定



(3) 薬剤師の増減意向

今後5年後の薬剤師の増減意向についてみると、「現状維持の見込み」28.9%が最も多く、次いで「増加させる見込み」23.7%であった。また、増加させる意向の薬局に増加人数の見込みを尋ねたところ、1店舗当たり平均1.6人であり、「2人以上3人未満」44.9%が最も多い階級であった。

図表 53 今後5年後の薬剤師の増減意向



今後5年後の薬剤師の増減意向を県内店舗数規模別にみると、「100店舗以上」の薬局において1店舗当たりの薬剤師数を「増加させる見込み」との回答が84.8%となっており、他の階級よりも高くなっていた。

図表 54 今後5年後の薬剤師の増減意向；県内店舗数規模別

増減意向		1店舗	2店舗以上 4店舗以下	5店舗以上 9店舗以下	10店舗以上 49店舗以下	50店舗以上 99店舗以下	100店舗以上
人 数	増加させる見込み	53	60	31	47	2	106
	現状維持の見込み	112	85	57	71	6	3
	減少させる見込み	6	4	2	2	0	0
	わからない	61	49	30	34	36	5
	無回答	30	64	68	85	55	11
合 計		262	262	188	239	99	125
割 合	増加させる見込み	20.2%	22.9%	16.5%	19.7%	2.0%	84.8%
	現状維持の見込み	42.7%	32.4%	30.3%	29.7%	6.1%	2.4%
	減少させる見込み	2.3%	1.5%	1.1%	0.8%	0.0%	0.0%
	わからない	23.3%	18.7%	16.0%	14.2%	36.4%	4.0%
	無回答	11.5%	24.4%	36.2%	35.6%	55.6%	8.8%
合 計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

ご回答方法

- ・あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。
- ・（ ）内には具体的な数値、用語等をご記入ください。
- ・（ ）内に数値を記入する設問で、該当なしは「0（ゼロ）」を、わからない場合は「-」をご記入ください。
- ・特に断りのない限り、令和元年7月1日現在の状況についてお答えください。
- ・指定された回答期間の実績について回答が難しい場合は、回答可能な直近の期間に置き換えてご記入ください。（平成31年4月、令和元年5月を除く）

I 貴局の概要についてお尋ねします。〈管理薬剤師の方にご記入をお願いします〉

問1 貴局の経営主体をお選びください。（○は1つ）	01 法人	02 個人
---------------------------	-------	-------

問2 同一グループ（財務上又は営業上若しくは事業上、緊密な関係にある範囲の薬局をいう）等*による薬局店舗数（貴局を含む）をご記入ください。	全	店舗
	うち静岡県内	店舗

※ 同一グループは次の基準により判断する（調剤基本料の施設基準における同一グループの考え方と同様）

1. 薬局の事業者の最終親会社
2. 薬局の事業者の最終親会社の子会社
3. 薬局の事業者の最終親会社の関連会社
4. 1から3までに掲げる者と保険薬局の運営に関するフランチャイズ契約を締結している者

問3 同一敷地内に店舗販売業を併設していますか。（○は1つ）	01 併設している
	02 併設していない

〈問4～問8は保険薬局の場合のみご回答ください。〉

問4 現在の調剤基本料の届出状況について、該当するものをお選びください。（○は1つ）
--

01 調剤基本料1	(41点)	02 調剤基本料2	(25点)
03 調剤基本料3イ	(20点)	04 調剤基本料3ロ	(15点)
05 特別調剤基本料	(10点)		

問5 地域支援体制加算の届出をしていますか。（○は1つ）	01 届出している
	02 届出していない

問6 貴局の管理薬剤師の方について、お伺いします。 該当する年数をご記入ください。	① 保険薬剤師としての勤務総年数	年
	② ①のうち、貴法人での勤務年数	年
	③ ②のうち、貴局での勤務年数	年
	④ 年齢	歳

問7 令和元年6月の1カ月間に応需した処方箋の受付回数、枚数、処方箋集中度*をご記入ください。	① 処方箋受付回数	回
	② 処方箋受付枚数	枚
	③ 処方箋集中度*	%

※ 処方箋の集中度には、令和元年6月の1カ月間に受け付けた処方箋受付回数が最も多い医療機関の受付回数について、全医療機関からの受付回数で除した割合（小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位まで）をご記入ください。

問8 貴局の処方箋の応需状況として最も近いものをお選びください。（○は1つ）
--

01 主に近隣にある特定の病院の処方箋を応需している薬局
02 主に近隣にある特定の診療所の処方箋を応需している薬局
03 主に複数の特定の保険医療機関（医療モールやビル診療所など）の処方箋を応需している
04 様々な保険医療機関からの処方箋を応需している薬局
05 同一敷地内にある病院の処方箋を応需している薬局
06 同一敷地内にある診療所の処方箋を応需している薬局
07 その他（具体的に： _____）

Ⅱ 貴局の現在の状況についてお尋ねします。〈管理薬剤師の方にご記入をお願いします〉

問 9 令和元年7月1日現在、貴局で取り扱っている医療用医薬品（うち後発医薬品、医療用麻薬）、要指導医薬品、一般用医薬品の品目数※1 をご記入ください。また、一般用検査薬、衛生材料、医療機器（医療材料を含む）、介護用品、健康食品※2、介護食品※3 の取り扱いの有無をご記入ください。（問3で店舗販売業を併設している旨回答した場合は、薬局で取り扱っている品目数のみご記入ください。）

① 医療用医薬品	品目	⑥ 一般用検査薬	01 有る	02 無い
② うち、後発医薬品	品目	⑦ 衛生材料	01 有る	02 無い
③ うち、医療用麻薬	品目	⑧ 医療機器（医療材料を含む）	01 有る	02 無い
④ 要指導医薬品	品目	⑨ 介護用品	01 有る	02 無い
⑤ 一般用医薬品	品目	⑩ 健康食品	01 有る	02 無い
		⑪ 介護食品	01 有る	02 無い

※1. 販売実績にかかわらず、店内で陳列している品目数（アイテム数；同じ製品であっても、包装される錠数のサイズが異なる場合はそれぞれを1品目として計上してください）をご記入ください。

※2. 特定保健用食品、機能性表示食品、サプリメント等のいわゆる「健康食品」を指します。

※3. 嚥下能力や咀嚼能力が低下した高齢者向けの食品を指します。

〈問 10～問 14 は保険薬局の場合のみご回答ください。〉

問 10 貴局では、無菌製剤処理を行うための施設基準に適合している旨を地方社会保険事務局に届け出ていますか。（〇は1つ）	01 届出している 02 届出していない
--	-------------------------

〈問 10-1 は、問 10 で「01 届出している」の場合のみご回答ください。〉

問 10-1 無菌製剤室は貴局の設備ですか。それとも別の薬局の無菌調剤室の共同利用を行っていますか。（〇は1つ）	01 貴局の設備 02 別の薬局の設備の共同利用
--	-----------------------------

問 11 平成 30 年 1 月から 12 月までの 1 年間における医療用麻薬の調剤回数（応需処方箋枚数）をご記入ください。	枚
---	---

問 12 平成 30 年 1 月から 12 月までの 1 年間における在宅患者訪問薬剤管理指導料（医療保険）、居宅療養管理指導費（介護保険）の算定回数をご記入ください。	① 在宅患者訪問薬剤管理指導料	回
	② 居宅療養管理指導費	回

問 13 貴局はかかりつけ薬剤師指導料及びかかりつけ薬剤師包括管理料の届出をしていますか。（〇は 1 つ）	01 はい 02 いいえ（今後、届出予定あり） 03 いいえ（今後、届出予定なし）
---	---

〈問 13-1 は、問 13 で「01 届出している」の場合のみご回答ください。〉

問 13-1 令和元年 6 月の 1 カ月間におけるかかりつけ薬剤師指導料及びかかりつけ薬剤師包括管理料の算定回数をご記入ください。	① かかりつけ薬剤師指導料	回
	② 薬剤師包括管理料	回

問 14 貴局は健康サポート薬局の届出をしていますか。（〇は 1 つ）	01 はい 02 いいえ（今後、届出予定あり） 03 いいえ（今後、届出予定なし）
-------------------------------------	---

問 15 貴局の職員数^{※1}について就業形態別にご記入ください。非常勤職員については常勤換算^{※2}（小数点以下第 1 位まで）をご記入ください。また、その他職員のうち介護支援専門員の資格等の有資格者がいる場合には、主な資格の内容についてもご記入ください。

	常 勤	非常勤 (常勤換算)
① 薬剤師	人	人
② ①のうち、薬剤師認定制度認証機構（CPC）の認定薬剤師数	人	人
③ ①のうち、健康サポート薬局に係る研修を修了した薬剤師数	人	人
④ ①のうち、かかりつけ薬剤師 ^{※3} の要件を満たしている薬剤師数	人	
⑤ ①のうち、かかりつけ薬剤師として届出している薬剤師数	人	
⑥ 調剤業務を一部補助する薬剤師以外の職員	人	人
⑦ その他の職員	人	人
資格の内容（具体的に：登録販売者_____人、栄養士_____人、_____）		

※1. 複数店舗で勤務している職員の場合は、貴局に主に勤務している職員についてのみ計上してください。また、現在、産前産後休業、育児休業、介護休業等を取得中の職員は含めないでください。

※2. 非常勤職員の常勤換算については、以下の方法で算出してください。常勤換算後の職員数は、小数点以下第 2 位を四捨五入して小数点以下第 1 位までお答えください。

- ・ 1 週間に数回勤務の場合：（非常勤職員の 1 週間の勤務時間）÷（貴局が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間）
- ・ 1 カ月に数回勤務の場合：（非常勤職員の 1 カ月の勤務時間）÷（貴局が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間×4）

※3. かかりつけ薬剤師指導料、かかりつけ薬剤師包括管理料における「かかりつけ薬剤師」のこと。

問 16 貴局の薬剤師数（常勤、非常勤の合計）^{※1}について性別、年齢区分別にご記入ください。薬剤師数については常勤換算^{※2}（小数点以下第 1 位まで）した人数をご記入ください。

	男性	女性
① 24～29 歳	人	人
② 30～39 歳	人	人
③ 40～49 歳	人	人
④ 50～59 歳	人	人
⑤ 60～69 歳	人	人
⑥ 70 歳以上	人	人

※1. 複数店舗で勤務している職員の場合は、貴局に主に勤務している職員についてのみ計上してください。また、現在、産前産後休業、育児休業、介護休業等を取得中の職員は含めないでください。

※2. 薬剤師の常勤換算については、以下の方法で算出してください。常勤換算後の職員数は、小数点以下第 2 位を四捨五入して小数点以下第 1 位までお答えください。

- ・ 1 週間に数回勤務の場合：（薬剤師の 1 週間の勤務時間）÷（貴局が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間）
- ・ 1 カ月に数回勤務の場合：（薬剤師の 1 カ月の勤務時間）÷（貴局が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間×4）

問 17 貴局の薬剤師の貴局における平均勤続年数（小数点以下第一位まで）と貴局における各勤続年数別の人数（実人数）をご記入ください。

平均勤続年数	_____年
貴局における勤続年数別の人数	
① 1 年～3 年	_____人
② 4 年～6 年	_____人
③ 7 年～10 年	_____人
④ 11 年～15 年	_____人
⑤ 16 年～20 年	_____人
⑥ 20 年超	_____人

※ 複数店舗で勤務している職員の場合は、貴局に主に勤務している職員についてのみ計上してください。また、現在、産前産後休業、育児休業、介護休業等を取得中の職員は含めないでください。

問 18 貴局における現在の薬剤師数の充足感として、該当するものをお選びください。(○は1つ)

01 足りている

02 やや足りない

03 全く足りない

《問 18-1 は、問 21 で「02 やや足りない」又は「03 全く足りない」の場合のみご回答ください。》

問 18-1 あと何人ほど薬剤師がいれば「足りる」とお感じになりますか。常勤換算で
ご記入ください。

人

問 19 令和元年6月1カ月間における、貴局の常勤薬剤師の平均勤務時間、うち法定労働時間を超えて勤務した時間をご記入ください。勤務時間は小数点以下第一位までご記入ください。

① 令和元年6月1カ月間の常勤薬剤師の平均勤務時間

時間

② ①のうち、法定労働時間を超えて勤務した平均時間

時間

問 20 平成 31 年 6 月の 1 カ月間における貴局の開局日数をご記入ください。なお、半日
のみ開局した場合は「0.5 日」として計上してください。

日

問 21 貴局における開局時間についてお伺いします。

① 平日の営業日において午前 8 時から午後 7 時までの時間帯に 8 時間
以上連続して開局していますか。(○は 1 つ)

01 はい

02 いいえ

② 土曜日又は日曜日のいずれかの時間帯において 4 時間以上開局して
いますか。(○は 1 つ)

01 はい

02 いいえ

問 22 貴局では、どのように 24 時間の相談対応が可能な体制を整えていますか。(○は 1 つ)

01 自薬局単独で対応が可能な体制を整えている

02 地域薬剤師会の当番制等により対応が可能な体制を整えている

03 02 以外に、近隣の保険薬局と連携して対応が可能な体制を整えている

04 対応が可能な体制を整えていない

05 その他(具体的に：)

問 23 貴局では、どのように 24 時間の調剤対応が可能な体制を整えていますか。(○は 1 つ)

01 自薬局単独で 24 時間対応が可能な体制を整えている

02 地域薬剤師会の当番制等により 24 時間対応が可能な体制を整えている

03 02 以外に、近隣の保険薬局と連携して 24 時間対応が可能な体制を整えている

04 対応が可能な体制を整えていない

05 その他(具体的に：)

Ⅲ 貴局の今後の方針等についてお尋ねします。

＜管理薬剤師の方にご記入をお願いします。ただし、管理薬剤師の方が回答するのが難しい場合は、開設者の方に（法人として）ご記入をお願いします＞

◀問 24～問 25 は保険薬局の場合のみご回答ください。▶

問 24 貴局における 5 年後の在宅業務（在宅患者訪問薬剤管理指導料（医療保険）、居宅療養管理指導費（介護保険）を算定できる業務）の増減意向として該当するものをお選びください。（○は 1 つ）	
01 現在は実施していないが、実施する見込み	02 現在より増加させる見込み
03 現状維持（継続実施）の見込み	04 現在より減少させる見込み
05 予定なし（現在も実施していない）	06 わからない

問 25 貴局における 5 年後の高度薬学管理（学会等が提供する専門薬剤師の認定等を受けた高度な知識・技術と臨床経験を有する薬剤師の配置、専門医療機関との間で新たな治療薬や個別症例などに関する勉強会・研修会を継続的に共催する等）への対応意向として該当するものをお選びください。（○は 1 つ）	
01 現在は実施していないが、対応する見込み	02 現在より対応を強化させる見込み
03 現状維持（継続実施）の見込み	04 現在より対応を弱体化させる見込み
05 予定なし（現在も実施していない）	06 わからない

問 26 貴局における 5 年後の地域貢献活動（学校薬剤師の活動、地域住民への情報提供活動など）の増減意向として該当するものをお選びください。（○は 1 つ）	
01 現在は実施していないが、実施する見込み	02 現在より増加させる見込み
03 現状維持（継続実施）の見込み	04 現在より減少させる見込み
05 予定なし（現在も実施していない）	06 わからない

問 27 貴局において働き方改革として現在取り組んでいるもの、将来的に取り組む予定のものを全てお選びください。（○はいくつでも）	
現在取り組んでいるもの	将来的に取り組む予定のもの
01 常勤薬剤師の増員	01 常勤薬剤師の増員
02 非常勤薬剤師の増員	02 非常勤薬剤師の増員
03 勤務時間管理の徹底	03 勤務時間管理の徹底
04 IT・システムの導入による業務の効率化	04 IT・システムの導入による業務の効率化
05 一部調剤業務の機械化・自動化	05 一部調剤業務の機械化・自動化
06 薬剤師以外の職員による調剤業務の一部補助	06 薬剤師以外の職員による調剤業務の一部補助
07 その他（具体的に： ）	07 その他（具体的に： ）

問 28 貴局において病院薬剤部との連携として現在取り組んでいるもの、将来的に取り組む予定のものを全てお選びください。（○はいくつでも）	
現在取り組んでいるもの	将来的に取り組む予定のもの
01 お薬手帳を活用した情報共有	01 お薬手帳を活用した情報共有
02 薬剤情報提供文書等を介した情報共有	02 薬剤情報提供文書等を介した情報共有
03 入院時カンファレンスへの参加	03 入院時カンファレンスへの参加
04 退院時カンファレンスへの参加	04 退院時カンファレンスへの参加
05 病院薬剤部との勉強会の実施	05 病院薬剤部との勉強会の実施
06 薬局における実務研修の実施	06 病院における実務研修の実施
07 病院薬剤師の受入れ研修の実施	07 病院薬剤師の受入れ研修の実施
08 調剤後のフォローアップ結果の情報提供	08 調剤後のフォローアップ結果の情報提供
09 その他（具体的に： ）	09 その他（具体的に： ）

問 29 薬局薬剤師に求められる役割や業務について、ご意見・ご要望をご自由にご記入ください。

IV 開設者の方に（法人として）ご記入をお願いします

◎ 問30・31については、同一グループ会社においては、いずれか1薬局のみの調査票へご回答ください。

問30 2014年度～2018年度に静岡県で採用した薬剤師数（新卒採用・中途採用の合計*）、退職した薬剤師数（定年・転職の合計）をご記入ください。また、（ ）内に新卒人数をご記入ください。		2014	15'	16'	17'	18'
① 採用	常勤	___（ ）人				
	非常勤	___（ ）人				
② 退職	常勤	___（ ）人				
	非常勤	___（ ）人				

※ 全国区の採用であっても、初任地が静岡県内の薬局に赴任した薬剤師数をご記入ください。

問31 2014年度～2018年度に静岡県で採用した薬剤師の出身地・出身大学について人数*をご記入ください。		
① 静岡県出身で静岡県立大学薬学部を卒業		人
	①のうち、新卒採用者	人
② 静岡県外出身で静岡県立大学薬学部を卒業		人
	②のうち、新卒採用者	人
③ 静岡県出身で県外の大学薬学部を卒業		人
	③のうち、新卒採用者	人
④ 静岡県外出身で県外の大学薬学部を卒業		人
	④のうち、新卒採用者	人

※ 全国区の採用であっても、初任地が静岡県内の薬局に赴任した薬剤師数をご記入ください。

◎ 問32・33については、本調査票の届いた薬局についてご回答ください。

問32 本調査票の届いた薬局の5年後の事業継続の予定として該当するものをお選びください。（○は1つ）	
01 現状のまま継続する予定	02 現在の経営主体のまま事業承継する予定
03 M&A等により他の法人等へ売却する予定	04 廃業又は撤退の予定
05 その他（具体的に： _____）	
06 わからない	

問33 本調査票の届いた薬局における5年後の薬剤師の増減意向をお選びいただき、具体的な増減数をご記入ください。（○は1つ）	
01 増加させる見込み ⇒ 現状より増加させる人数の見込み（ _____ 人）	
02 現状維持の見込み	
03 減少させる見込み ⇒ 現状より減少させる人数の見込み（ _____ 人）	
04 わからない	

ご協力いただきましてありがとうございました。

同封しました返信用封筒にて令和元年8月7日（水）までにご返送ください。

病院アンケート調査

1. 調査内容.....	69
2. 回答病院の概要.....	70
3. 処方箋の状況.....	72
4. 診療報酬の算定状況等.....	73
5. 従事者の状況.....	74
6. 今後の方針.....	83
病院アンケート調査票.....	85

1. 調査内容

図表 55 調査内容【病院】

区分	主な調査項目
(1)病院の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開設者 ・ 承認等の状況、標榜診療科、施設種別 ・ 令和元年6月1か月間の外来患者院外処方箋枚数、外来患者院内処方箋枚数、入院患者処方箋枚数 ・ 令和元年6月1か月間の無菌製剤処理、麻薬調剤の実施回数（処方箋枚数）
(2)病院の現在の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成30年度の入院患者の薬剤管理指導料の算定率 ・ 病棟薬剤業務実施加算の申請の有無 ・ 薬剤関係部門における就業形態別及び職種別職員数、性・年齢階級別薬剤師数、回答店舗における勤続年数別薬剤師数 ・ 2014年度～2018年度に静岡県で採用した薬剤師数、退職した薬剤師数、出身地・出身大学別人数 ・ 現在の薬剤師数の充足感等 ・ 令和元年6月1か月間における常勤薬剤師の平均勤務時間、平均法定超労働時間 ・ 薬剤師の夜間、休日の勤務体制
(3)今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5年後の薬剤師（病棟専任・専従薬剤師）の増減意向 ・ 薬剤師のチーム医療の取組（現在、今後） ・ 薬剤関係部門における現在及び将来の取組（働き方改革、薬局との連携） ・ 病院薬剤師に求められる役割や業務

2. 回答病院の概要

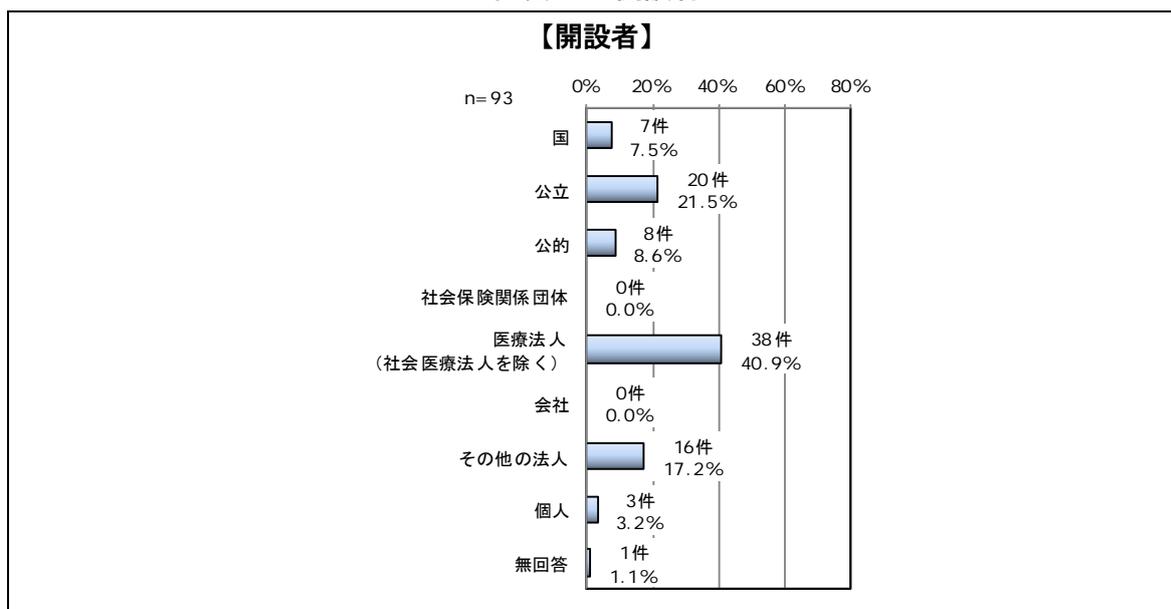
静岡県内の全病院（175 施設）を対象としたアンケート調査を実施し、93 施設（回収率 53.1%）から回答を得た。

図表 56 回収状況【病院】

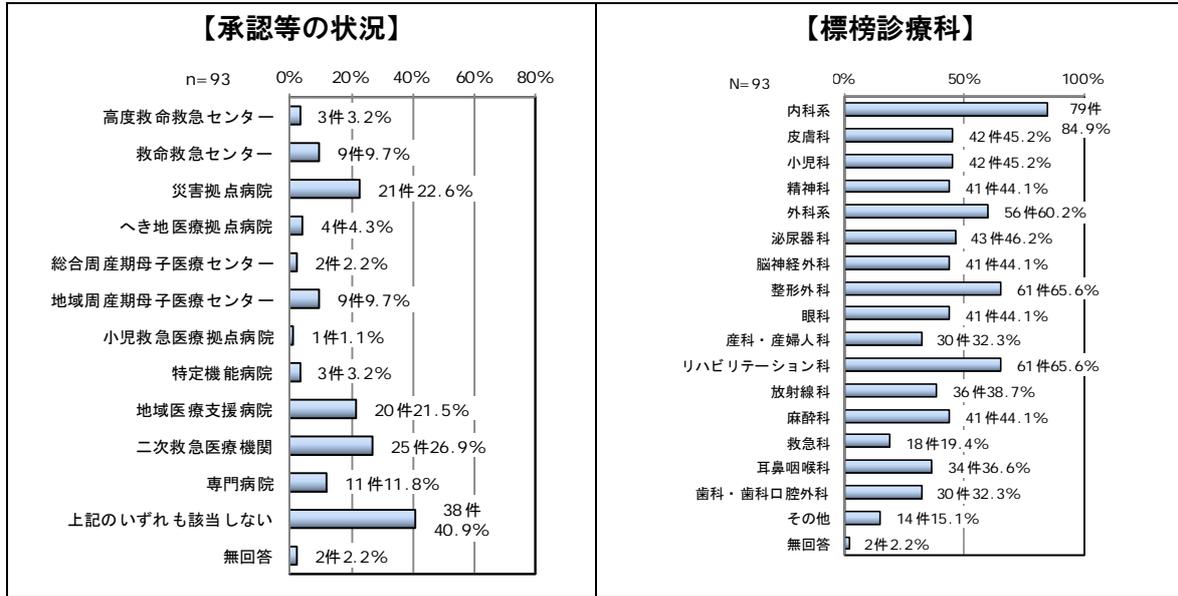
	全体	二次医療圏							
		賀茂	熱海伊東	駿東田方	富士	静岡	志太榛原	中東遠	西部
発送数	175	8	7	47	17	29	13	19	35
回収数	93	2	5	16	9	20	8	10	23
回収率	53.1%	25.0%	71.4%	34.0%	52.9%	69.0%	61.5%	52.6%	65.7%

回答病院の開設者は「医療法人（社会医療法人を除く）」40.9%（38 施設）が最も多く、次いで「公立」21.5%であった。

図表 57 開設者

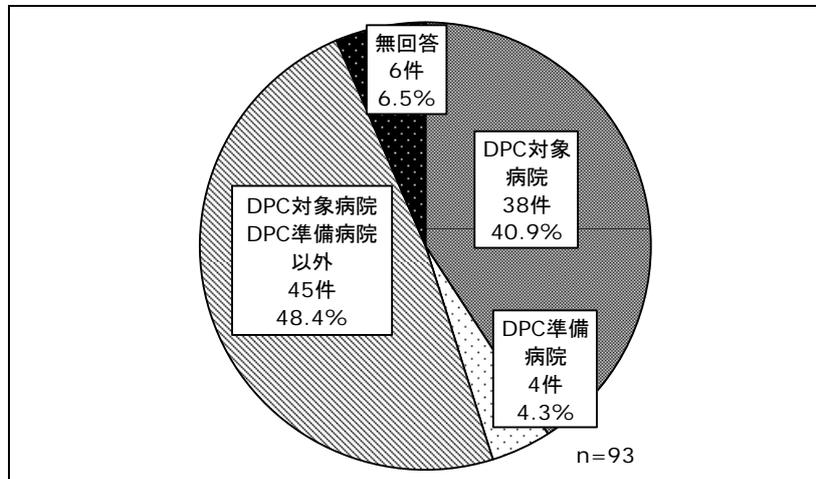


図表 58 承認等の状況、標榜診療科目



施設種別については、「DPC 対象病院」40.9%、「DPC 準備病院」4.3%、「DPC 対象病院・DPC 準備病院以外」48.4%であった。

図表 59 施設種別

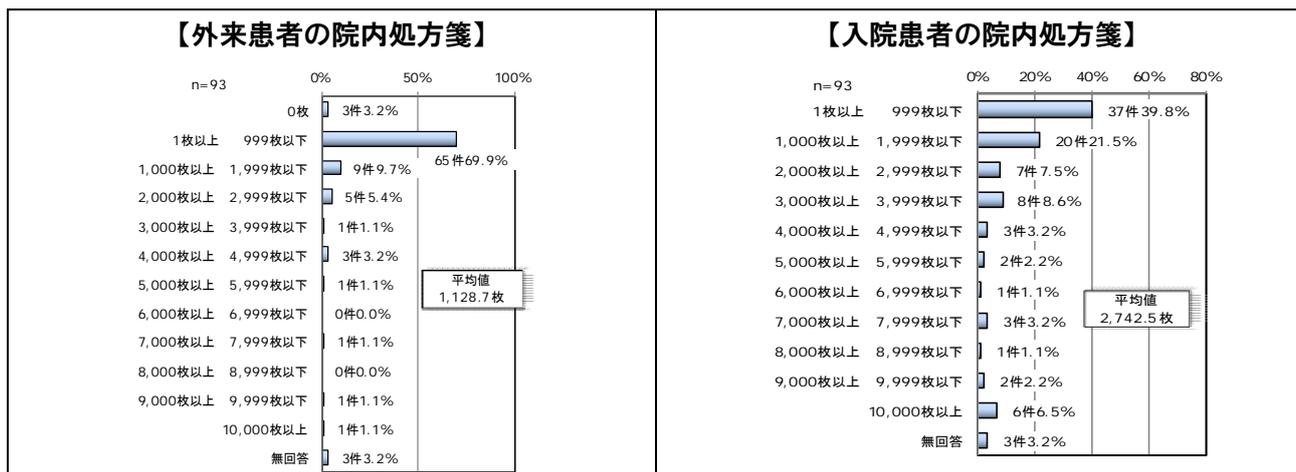


3. 処方箋の状況

令和元年6月1か月間の処方箋の発行状況についてみると、外来患者の院内処方箋は平均1,128.7枚であり、「1枚以上999枚以下」69.9%が最も多い階級であった。

入院患者の院内処方箋については、平均2,742.5枚であり、「1枚以上999枚以下」39.8%が最も多い階級であった。

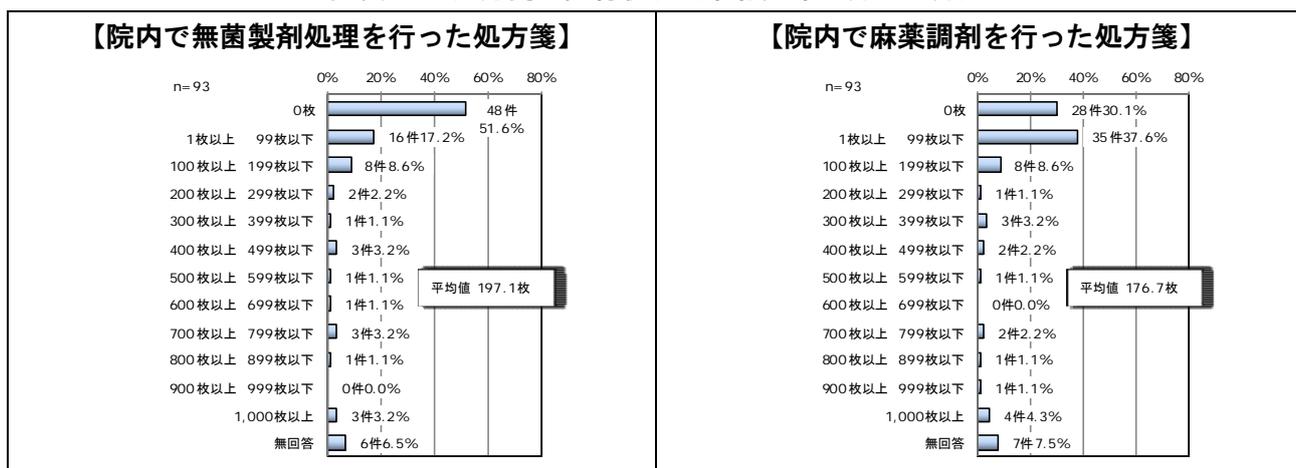
図表 60 処方箋の発行状況（令和元年6月1か月）



令和元年6月1か月間の院内で無菌製剤処理を行った処方箋枚数についてみると、平均197.1枚であり、「0枚」51.6%が最も多い階級であった。

また、令和元年6月1か月間の院内で麻薬調剤を行った処方箋枚数についてみると、平均176.7枚であり、「1枚以上99枚以下」37.6%が最も多い階級であった。

図表 61 処方箋の発行状況（令和元年6月1か月）

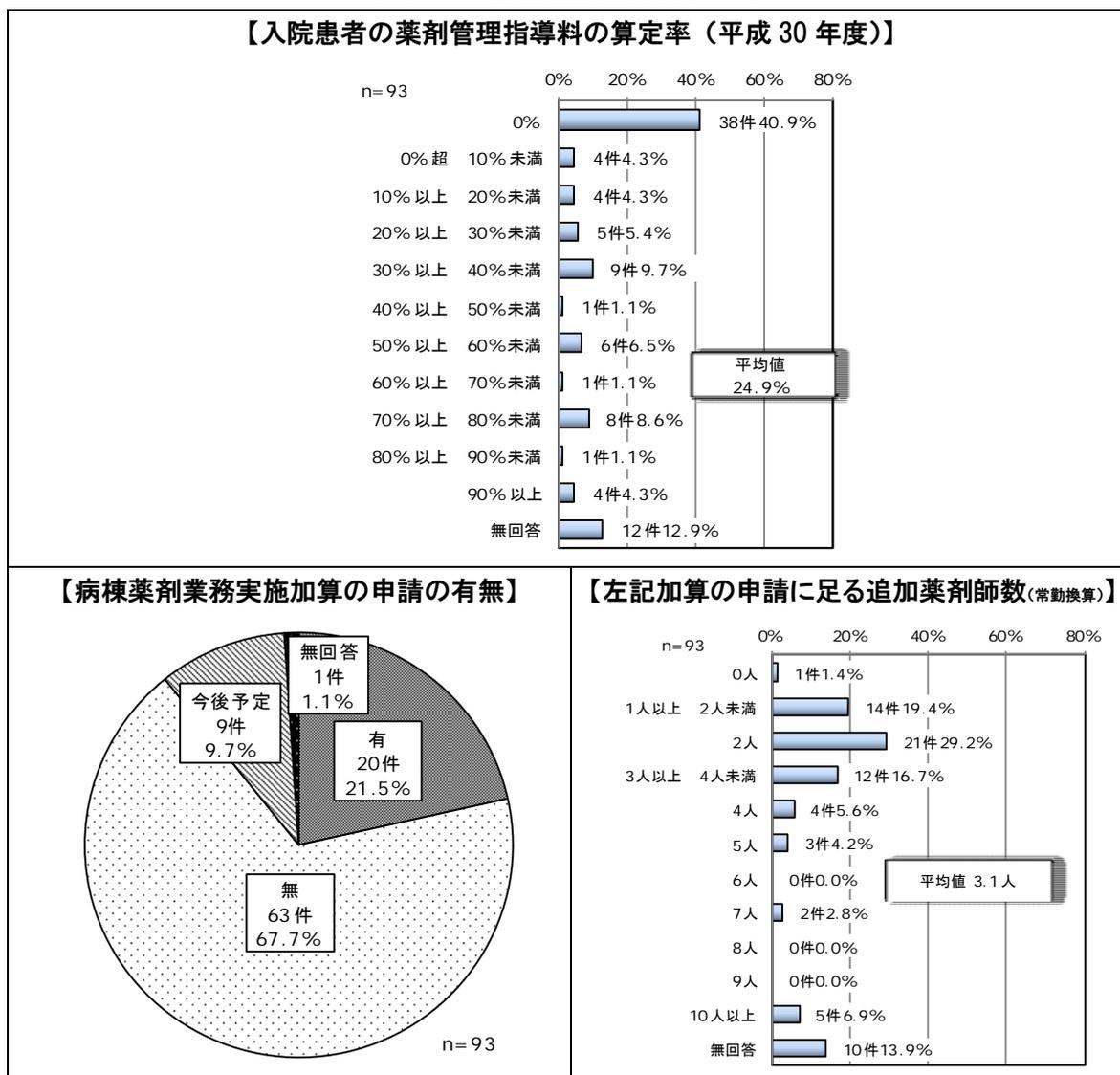


4. 診療報酬の算定状況等

平成 30 年度の入院患者の薬剤管理指導料の算定率は平均 24.9%であり、「0%」40.9%が最も多い階級であった。

また、病棟薬剤業務実施加算の申請をしている病院は 21.5%であった。未申請の病院に申請に足る追加薬剤師数を尋ねたところ、平均 3.1 人で、「2人」29.2%が最も多い階級であった。

図表 62 診療報酬の算定状況等

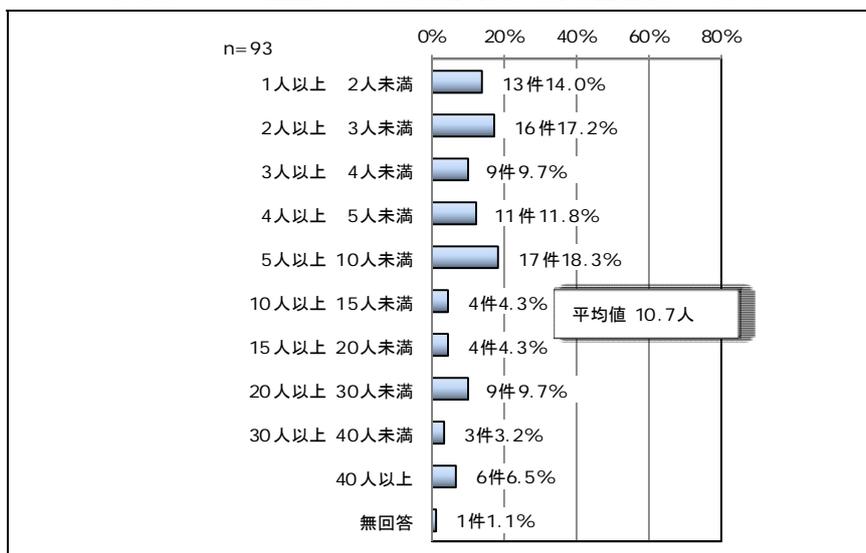


5. 従業者の状況

(1) 職員体制

1施設当たり薬剤師数（常勤換算）は平均 10.7 人であり、「5人以上 10人未満」18.3%が最も多い階級であった。

図表 63 1施設当たり薬剤師数（常勤換算）の分布



薬剤関係部門の1施設当たり職員数をみると、薬剤師は常勤が平均 10.1 人、非常勤（常勤換算）が平均 0.6 人であった。また、調剤業務を一部補助する薬剤師以外の職員は常勤が平均 0.6 人、非常勤（常勤換算）が平均 0.5 人であった。

なお、調剤業務を一部補助する薬剤師以外の職員がいる病院は 44 施設（回答病院の 47.3%）であった。

図表 64 1施設当たり職員数（常勤換算）

職員区分	常勤	非常勤 (常勤換算)
① 薬剤師	10.1 人	0.6 人
② ①のうち、病棟専任の薬剤師	2.3 人	0.0 人
③ ①のうち、病棟専従の薬剤師	0.8 人	0.0 人
④ 調剤業務を一部補助する薬剤師以外の職員	0.6 人	0.5 人
⑤ その他の職員	0.2 人	0.5 人

有効回答のあった 92 件で集計

1施設当たり薬剤師数（常勤換算）を年齢区別にみると、男性は「30～39歳」1.4人（31.4%）が最も多く、女性は「24～29歳」1.9人（36.0%）が最も多かった。

また、1施設当たり薬剤師数（常勤換算）の年齢区別構成を病床数規模別にみると、病床数規模が大きいほど若年層の割合が多くなっていた。

図表 65 1施設当たり薬剤師数（常勤換算）；年齢区別

年齢区分	人数		割合	
	男性	女性	男性	女性
24～29歳	1.0人	1.9人	22.9%	36.0%
30～39歳	1.4人	1.6人	31.4%	29.4%
40～49歳	0.9人	1.0人	21.6%	17.7%
50～59歳	0.8人	0.7人	19.3%	12.7%
60～69歳	0.1人	0.2人	3.4%	3.9%
70歳以上	0.1人	0.0人	1.4%	0.3%
合計	4.3人	5.4人	100.0%	100.0%

有効回答のあった79件で集計

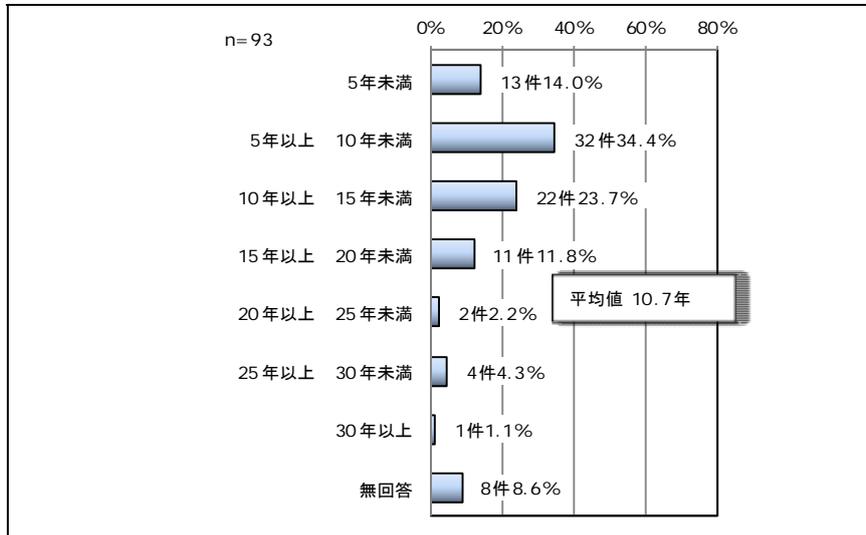
図表 66 1施設当たり薬剤師数（常勤換算）の年齢区別構成；病床数規模別

年齢区分	99床以下	100床以上 199床以下	200床以上 399床以下	400床以上
24～29歳	0.0%	10.8%	21.3%	38.7%
30～39歳	12.4%	19.5%	24.5%	35.3%
40～49歳	43.7%	22.8%	29.9%	14.3%
50～59歳	31.0%	28.9%	19.7%	10.3%
60～69歳	12.9%	13.6%	3.7%	1.5%
70歳以上	0.0%	4.3%	0.8%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

有効回答のあった75件で集計

回答病院における薬剤師の勤続年数は平均 10.7 年であり、「5 年以上 10 年未満」34.4%が最も多い階級であった。

図表 67 回答病院における薬剤師の平均勤続年数の分布



1 店舗当たり薬剤師数（実人数）を勤続年数区分別にみると、「1 年～3 年」3.2 人が最も多かった。

図表 68 1 店舗当たり薬剤師数（実人数）；回答病院での勤続年数区分別

勤続年数区分	人数	割合
1 年～3 年	3.2 人	30.0%
4 年～6 年	2.3 人	21.4%
7 年～10 年	1.8 人	16.5%
11 年～15 年	1.1 人	9.8%
16 年～20 年	0.9 人	8.6%
20 年超	1.5 人	13.7%
合計	10.8 人	100.0%

有効回答のあった 92 件で集計

薬剤師数の充足感について、病棟薬剤業務実施加算の有無別にみると、加算の実施設では「足りている」が 15.0%であるのに対して、非実施施設では 23.6%であった。

図表 69 薬剤師数の充足感；病棟薬剤業務実施加算の有無別

薬剤師数の充足感	有り	無し 又は今後予定
足りている	15.0%	23.6%
やや足りない	45.0%	41.7%
全く足りない	35.0%	33.3%
無回答	5.0%	1.4%
合計	100.0%	100.0%

(2) 採用・退職状況

2014年度から2018年度までの薬剤師の採用、退職状況についてみると、常勤の採用者数、退職者数ともに横這いであった。

ただし、二次医療圏別に採用者数の推移をみると、「西部」では2014年度29人から2018年度は42人と大きく増加していたのに比して、「静岡」では2014年度28人から2018年度は18人に大きく減少していた。

図表 70 静岡県内における薬剤師の採用・退職の状況（2014年度～2018年度）

採用・退職		2014	15'	16'	17'	18'
① 採用	常勤	84人 (57人)	98人 (76人)	100人 (77人)	91人 (65人)	91人 (66人)
	非常勤	7人 (2人)	7人 (2人)	6人 (2人)	15人 (3人)	14人 (3人)
② 退職	常勤	51人 (10人)	54人 (13人)	71人 (14人)	73人 (15人)	69人 (18人)
	非常勤	7人 (3人)	7人 (0人)	4人 (1人)	13人 (4人)	6人 (1人)

有効回答のあった89件で集計、()内の数値は新卒採用者数

図表 71 静岡県内における薬剤師の採用・退職の状況(2014年度～2018年度);二次医療圏別

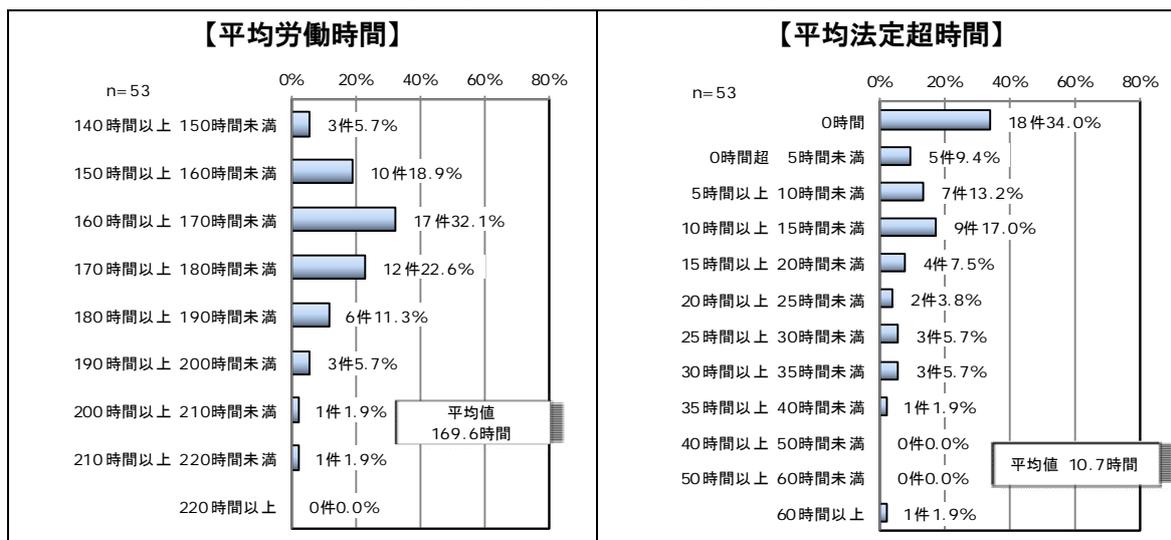
採用区分		賀茂	熱海伊東	駿東田方	富士	静岡	志太榛原	中東遠	西部
2014年度採用	常勤	1	0	12	3	28	5	6	29
	(うち)新卒	1	0	7	2	14	5	5	23
	非常勤	0	0	4	1	1	1	0	0
	(うち)新卒	0	0	0	1	0	1	0	0
2015年度採用	常勤	1	4	14	7	30	3	11	28
	(うち)新卒	0	4	10	4	23	3	10	22
	非常勤	0	0	3	0	3	1	0	0
	(うち)新卒	0	0	1	0	1	0	0	0
2016年度採用	常勤	0	1	14	6	28	10	11	30
	(うち)新卒	0	1	9	6	23	8	7	23
	非常勤	0	1	3	1	0	0	0	1
	(うち)新卒	0	0	0	1	0	0	0	1
2017年度採用	常勤	0	4	13	5	13	5	7	44
	(うち)新卒	0	3	5	4	10	3	5	35
	非常勤	0	0	2	1	7	0	2	3
	(うち)新卒	0	0	0	1	2	0	0	0
2018年度採用	常勤	1	2	11	6	18	7	4	42
	(うち)新卒	0	1	6	5	12	6	3	33
	非常勤	0	0	2	0	7	1	1	3
	(うち)新卒	0	0	0	0	1	0	0	2
5年間の合計	常勤	3	11	64	27	117	30	39	173
	(うち)新卒	1	9	37	21	82	25	30	136
	非常勤	0	1	14	3	18	3	3	7
	(うち)新卒	0	0	1	3	4	1	0	3
常勤及び非常勤		3	12	78	30	135	33	42	180
(うち)新卒		1	9	38	24	86	26	30	139
施設数		2	5	16	9	19	7	10	21

(3) 労働時間

令和元年6月1か月間の常勤薬剤師の労働時間をみると、平均労働時間は169.6時間であり、「160時間以上170時間未満」32.1%が最も多い階級であった。また、同期間の法定超時間は平均10.7時間であり、「0時間」34.0%が最も多い階級であった。

また、平均労働時間を病床数規模別にみると、「400床以上」の病院が他の階級に比して労働時間が長い傾向にあった。

図表 72 常勤薬剤師の労働時間（令和元年6月1か月）



有効回答のあった53件で集計

図表 73 常勤薬剤師の平均労働時間（令和元年6月1か月）；病床数規模別

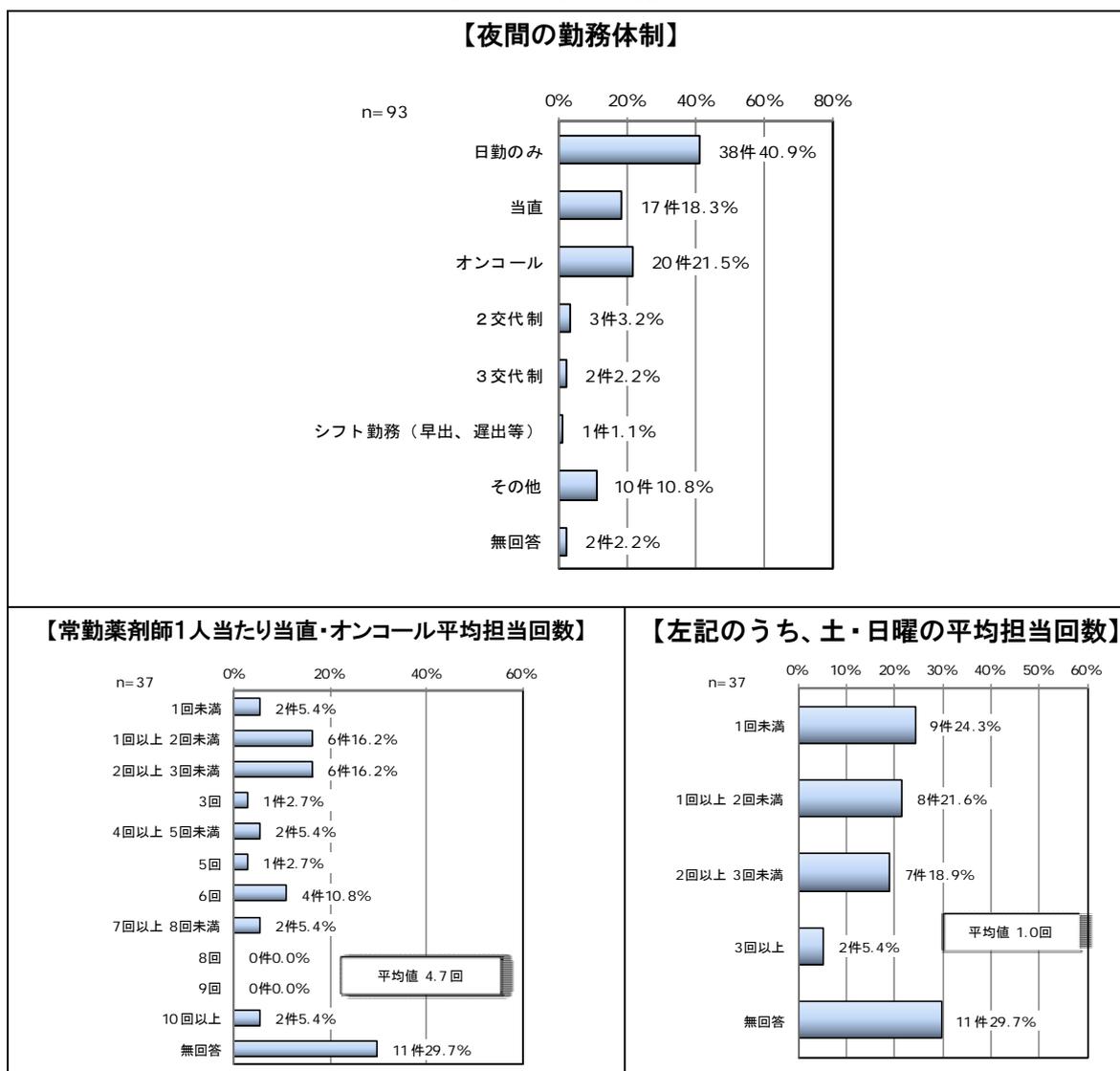
平均労働時間区分	99床以下	100床以上 199床以下	200床以上 399床以下	400床以上
140時間以上 150時間未満	11.1%	5.6%	8.3%	0.0%
150時間以上 160時間未満	44.4%	16.7%	16.7%	7.7%
160時間以上 170時間未満	44.4%	16.7%	50.0%	30.8%
170時間以上 180時間未満	0.0%	27.8%	25.0%	30.8%
180時間以上 190時間未満	0.0%	16.7%	0.0%	15.4%
190時間以上 200時間未満	0.0%	11.1%	0.0%	7.7%
200時間以上 210時間未満	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%
210時間以上 220時間未満	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%
220時間以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
平均労働時間	157.5	173.6	164.9	175.3

(4) 夜間・休日勤務体制

夜間の勤務体制についてみると、「日勤のみ」40.9%が最も多く、次いで「オンコール」21.5%であった。

令和元年6月1か月間の常勤薬剤師1人当たりの当直・オンコールの担当回数は平均4.7回であり、そのうち土曜日・日曜日の平均担当回数は1.0回であった。

図表 74 夜間の勤務体制



「その他」の内容は、回答選択肢の組合せ（例：当直＋2交代制 等）であった。

夜間の勤務体制を病床規模別にみると、病床規模の大きい施設ほど「当直」の割合が多く、400床以上の施設では45.5%であった。また、400床以上の施設では「2交代制」13.6%、「3交代制」9.1%で夜間勤務を実施していた。

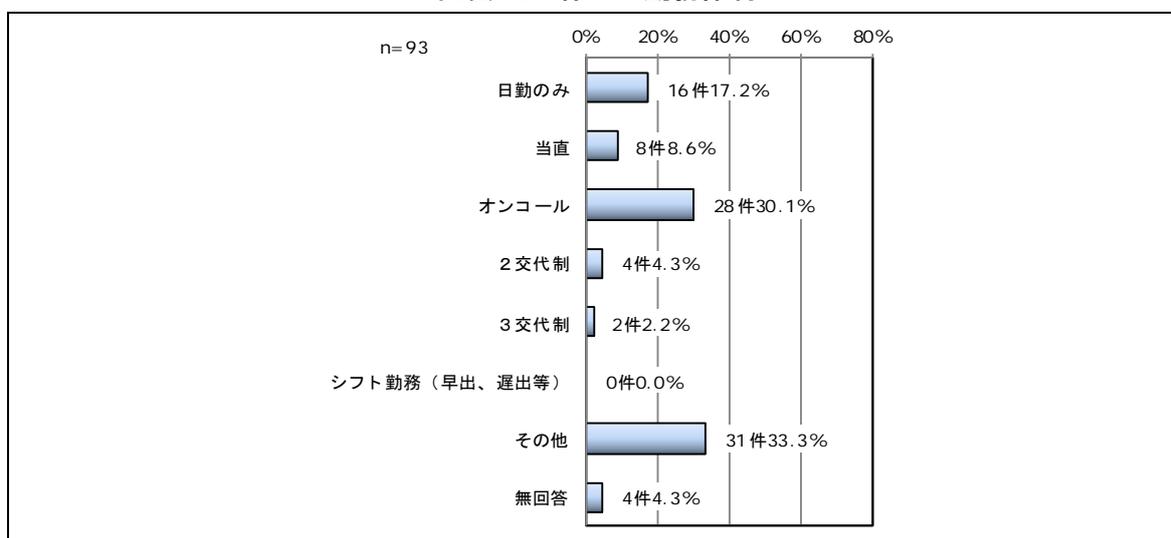
図表 75 夜間の勤務体制；病床数規模別

夜間の勤務体制	99床以下	100床以上 199床以下	200床以上 399床以下	400床以上
日勤のみ	62.5%	53.1%	52.9%	0.0%
当直	0.0%	0.0%	29.4%	45.5%
オンコール	18.8%	37.5%	0.0%	18.2%
2交代制	0.0%	0.0%	0.0%	13.6%
3交代制	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%
シフト勤務（早出、遅出等）	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%
その他	12.5%	6.3%	11.8%	13.6%
無回答	6.3%	3.1%	0.0%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

「その他」の内容は、回答選択肢の組合せ（例：当直＋2交代制 等）であった。

休日の勤務体制についてみると、「オンコール」30.1%が最も多く、次いで「日勤のみ」17.2%であった。

図表 76 休日の勤務体制



「その他」の内容は、回答選択肢の組合せ（例：当直＋2交代制 等）であった。

休日の勤務体制を病床規模別にみると、病床規模の大きい施設ほど「オンコール」の割合が少なくなり、「当直」の割合が多くなっていた。また、400床以上の施設では「2交代制」13.6%、「3交代制」9.1%で休日勤務を実施している施設もあった。

図表 77 休日の勤務体制；病床数規模別

休日の勤務体制	99床以下	100床以上 199床以下	200床以上 399床以下	400床以上
日勤のみ	12.5%	25.0%	5.9%	4.5%
当直	0.0%	0.0%	11.8%	22.7%
オンコール	43.8%	40.6%	29.4%	13.6%
2交代制	0.0%	0.0%	5.9%	13.6%
3交代制	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%
シフト勤務（早出、遅出等）	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	25.0%	34.4%	47.1%	31.8%
無回答	18.8%	0.0%	0.0%	4.5%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

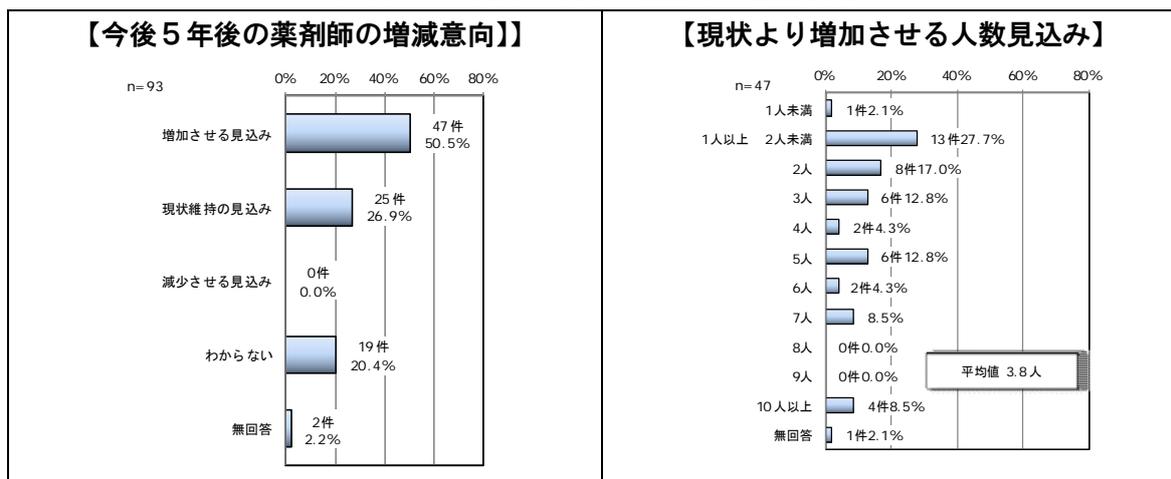
「その他」の内容は、回答選択肢の組合せ（例：当直＋2交代制 等）であった。

6. 今後の方針

(1) 薬剤師の増減意向

今後5年後の薬剤師の増減意向についてみると、「増加させる見込み」50.5%が最も多く、次いで「現状維持の見込み」26.9%であった。また、増加させる意向の病院に増加人数の見込みを尋ねたところ、平均3.8人であり、「1人以上2人未満」27.7%が最も多い階級であった。

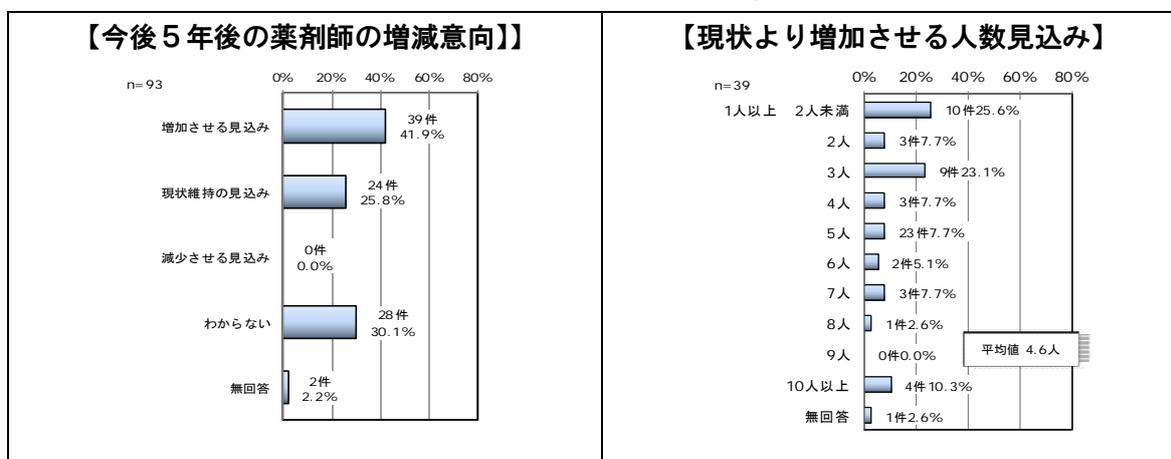
図表 78 今後5年後の薬剤師の増減意向



今後5年後の病棟専任・専従薬剤師の増減意向についてみると、「増加させる見込み」41.9%が最も多く、次いで「わからない」30.1%であった。また、増加させる意向の病院に増加人数の見込みを尋ねたところ、平均4.6人であり、「1人以上2人未満」25.6%が最も多い階級であった。

また、病床数規模別にみると、病床数規模の大きい病院ほど「現在より増加させる見込み」との回答割合が多い傾向にあった。

図表 79 今後5年後の病棟専任・専従の薬剤師の増減意向



図表 80 今後5年後の病棟専任・専従の薬剤師の増減意向；病床数規模別

病棟専任・専従薬剤師の増減意向		99床以下	100床以上 199床以下	200床以上 399床以下	400床以上
施設数	増加させる見込み	1	9	6	18
	現状維持の見込み	6	10	5	2
	減少させる見込み	0	0	0	0
	わからない	8	12	6	2
	無回答	1	1	0	0
	合計	16	32	17	22
割合	増加させる見込み	6.3%	28.1%	35.3%	81.8%
	現状維持の見込み	37.5%	31.3%	29.4%	9.1%
	減少させる見込み	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	わからない	50.0%	37.5%	35.3%	9.1%
	無回答	6.3%	3.1%	0.0%	0.0%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

薬剤師需給予測のための実態調査【病院票】

大変お手数をおかけいたしますが、令和元年8月7日（水）までに
同封の返信用封筒（切手不要）にてご返送ください。

ご回答者様のお名前とご連絡先をご記入ください。

お 名 前		部 署 ・ 役 職	
電 話 番 号		E - m a i l	
病 院 名	（上記の送付先ラベルと異なる場合のみご記入ください。）		
住 所	〒（上記の送付先ラベルと異なる場合のみご記入ください。）		

アンケート結果は本調査の目的外には使用しません。また、アンケート集計結果等の公表にあたっては、回答機関、回答者個人の特定につながる情報は公表しません。

ご回答方法

- ・あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。
- ・（ ）内には具体的な数値、用語等をご記入ください。
- ・（ ）内に数値を記入する設問で、該当なしは「0（ゼロ）」を、わからない場合は「-」をご記入ください。
- ・特に断りのない限り、令和元年7月1日現在の状況についてお答えください。
- ・指定された回答期間の実績について回答が難しい場合は、回答可能な直近の期間に置き換えてご記入ください。（平成31年4月、令和元年5月を除く）

I 貴院の概要についてお尋ねします。

問1 貴院の開設者*として該当するものをお選びください。（○は1つ）

- | | | |
|-------------|--------------------|-------|
| 01 国 | 02 公立 | 03 公的 |
| 04 社会保険関係団体 | 05 医療法人（社会医療法人を除く） | 06 会社 |
| 07 その他の法人 | 08 個人 | |

※国：厚生労働省、独立行政法人国立病院機構、国立大学法人、独立行政法人労働者健康安全機構、国立高度専門医療研究センター、独立行政法人地域医療機能推進機構、その他（国）

公立：都道府県、市町村、地方独立行政法人

公的：日赤、済生会、北海道社会事業協会、厚生連、国民健康保険団体連合会

社会保険関係団体：健康保険組合及びその連合会、共済組合及びその連合会、国民健康保険組合

会社：株式会社等

その他の法人：社会医療法人、公益法人、医療生協、その他の法人

問2 貴院の承認等の状況として該当するものを全てお選びください。（○はいくつでも）

- | | |
|------------------|---------------------|
| 01 高度救命救急センター | 02 救命救急センター |
| 03 災害拠点病院 | 04 へき地医療拠点病院 |
| 05 総合周産期母子医療センター | 06 地域周産期母子医療センター |
| 07 小児救急医療拠点病院 | 08 特定機能病院 |
| 09 地域医療支援病院 | 10 二次救急医療機関 |
| 11 専門病院 | 12 01～11 のいずれも該当しない |

問3 貴院の標榜診療科として該当するものを全てお選びください。（○はいくつでも）

- | | | | |
|--------------|------------|---------------|--------------|
| 01 内科系 | 02 皮膚科 | 03 小児科 | 04 精神科 |
| 05 外科系 | 06 泌尿器科 | 07 脳神経外科 | 08 整形外科 |
| 09 眼科 | 10 産科・産婦人科 | 11 リハビリテーション科 | 12 放射線科 |
| 13 麻酔科 | 14 救急科 | 15 耳鼻咽喉科 | 16 歯科・歯科口腔外科 |
| 17 その他（具体的に： | | | ） |

問4 貴院の施設種別として該当するものを全てお選びください。（○はいくつでも）

- | | | |
|-------------|-------------|--------------------|
| 01 DPC 対象病院 | 02 DPC 準備病院 | 03 DPC 対象病院・準備病院以外 |
|-------------|-------------|--------------------|

問5 令和元年6月の1カ月間の外来患者院外処方箋、外来患者院内処方箋、入院患者処方箋のそれぞれの枚数をご記入ください。

① 外来患者の院外処方箋	枚
② 外来患者の院内処方箋	枚
③ 入院患者の院内処方箋	枚

問6 令和元年6月の1カ月間の無菌製剤処理、麻薬調剤の院内での実施回数（処方箋枚数）をご記入ください。

① 無菌製剤処理	枚
② 麻薬調剤	枚

Ⅱ 貴院の薬剤関係部門の現状についてお尋ねします。

問7 貴院における以下の診療報酬の算定状況についてご記入ください。

① 平成30年度の入院患者の薬剤管理指導料の算定率※	%
② 病棟薬剤業務実施加算の申請の有無（いずれかに○）	有 ・ 無 ・ 今後予定

※ 算定率は、入院中1回以上薬剤管理指導料を算定した患者数÷退院患者数×100として計算してください。

《問7②で「無」又は「今後予定」と回答された場合のみご回答ください》

問7-1 今後、病棟薬剤業務実施加算を申請するにはあと何人ほど薬剤師がいれば「足りる」とお感じになりますか。常勤換算でご記入ください。	人
---	---

問8 貴院の薬剤関係部門の職員数について職種別、就業形態別にご記入ください。非常勤職員については常勤換算（小数点以下第1位まで）をご記入ください。

	常 勤	非常勤 (常勤換算)
① 薬剤師	人	人
② ①のうち、病棟専任の薬剤師	人	人
③ ①のうち、病棟専従の薬剤師	人	人
④ 調剤業務を一部補助する薬剤師以外の職員	人	人
⑤ その他の職員	人	人

※ 薬剤関係部門には、病棟、治験管理等、薬剤師が勤務する部門を含めてお答えください。

※ 現在、産前産後休業、育児休業、介護休業等を取得中の職員は含めないでください。

※ 非常勤職員の常勤換算については、以下の方法で算出してください。常勤換算後の職員数は、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位までお答えください。

・ 1週間に数回勤務の場合：（非常勤職員の1週間の勤務時間）÷（貴院が定めている常勤職員の1週間の勤務時間）

・ 1カ月に数回勤務の場合：（非常勤職員の1カ月の勤務時間）÷（貴院が定めている常勤職員の1週間の勤務時間×4）

※ 病棟で勤務する薬剤師が、「8割以上」当該業務に従事している場合は「専従」、「5割以上」当該業務に従事している場合は、「専任」としてカウントしてください。

問9 貴院の薬剤師数（常勤、非常勤の合計）について性別、年齢区分別にご記入ください。薬剤師数については常勤換算（小数点以下第1位まで）した人数をご記入ください。

	男性	女性
① 24～29歳	人	人
② 30～39歳	人	人
③ 40～49歳	人	人
④ 50～59歳	人	人
⑤ 60～69歳	人	人
⑥ 70歳以上	人	人

※ 現在、産前産後休業、育児休業、介護休業等を取得中の職員は含めないでください。

※ 薬剤師の常勤換算については、以下の方法で算出してください。常勤換算後の職員数は、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位までお答えください。

・ 1週間に数回勤務の場合：（薬剤師の1週間の勤務時間）÷（貴院が定めている常勤職員の1週間の勤務時間）

・ 1カ月に数回勤務の場合：（薬剤師の1カ月の勤務時間）÷（貴院が定めている常勤職員の1週間の勤務時間×4）

問 10 貴院の薬剤師の貴院における平均勤続年数（小数点以下第一位まで）と貴院における各勤続年数別の人数（実人数）をご記入ください。	
平均勤続年数	年
貴院における勤続年数別の人数	
① 1年～3年	人
② 4年～6年	人
③ 7年～10年	人
④ 11年～15年	人
⑤ 16年～20年	人
⑥ 20年超	人

※ 現在、産前産後休業、育児休業、介護休業等を取得中の職員は含めないでください。

問 11 貴院において2014年度～2018年度に採用した薬剤師数（新卒採用・中途採用の合計）、退職した薬剤師数（定年・転職の合計）をご記入ください。また、（ ）内に新卒人数をご記入ください。						
		2014	15'	16'	17'	18'
① 採用	常勤	___（ ）人				
	非常勤	___（ ）人				
② 退職	常勤	___（ ）人				
	非常勤	___（ ）人				

問 12 貴院において2014年度～2018年度に採用した薬剤師の出身地・出身大学について人数をご記入ください。	
① 静岡県出身で静岡県立大学薬学部を卒業	人
①のうち、新卒採用者	人
② 静岡県外出身で静岡県立大学薬学部を卒業	人
②のうち、新卒採用者	人
③ 静岡県出身で県外の大学薬学部を卒業	人
③のうち、新卒採用者	人
④ 静岡県外出身で県外の大学薬学部を卒業	人
④のうち、新卒採用者	人

問 13 貴院における現在の薬剤師数の充足感として、該当するものをお選びください。（○は1つ）		
01 足りている	02 やや足りない	03 全く足りない

《問 13-1 は、問 13 で「02 やや足りない」又は「03 全く足りない」の場合のみご回答ください。》

問 13-1 常勤換算であと何人ほど薬剤師がいれば「足りる」とお感じになりますか。	人
---	---

問 14 令和元年6月1カ月間における、貴院の常勤薬剤師の平均勤務時間、うち法定労働時間を超えて勤務した時間をご記入ください。勤務時間は小数点以下第一位までご記入ください。	
① 令和元年6月1カ月間の常勤薬剤師の平均勤務時間	時間
② ①のうち、法定労働時間を超えて勤務した平均時間	時間

問 15 貴院の薬剤師の夜間の勤務体制として該当するものをお選びください。(〇は1つ)

- 01 日勤のみ 02 当直 03 オンコール 04 2交代制
 05 3交代制 06 シフト勤務(早出、遅出等)
 07 その他(具体的に: _____)

「問 15-1 は、問 15 で「02 オンコール」又は「当直」の場合のみご回答ください。」

問 15-1 令和元年6月の1カ月間の当直・オンコール担当平均回数、うち土曜・日曜日の担当平均回数をご記入ください。

①令和元年6月1カ月の常勤薬剤師1人当たりの当直・オンコールの平均担当回数	回
②①のうち、土曜日・日曜日の当直・オンコールの平均担当回数	回

問 16 貴院の薬剤師の休日の勤務体制として該当するものをお選びください。(〇は1つ)

- 01 日直のみ 02 当直 03 オンコール 04 2交代制
 05 3交代制 06 シフト勤務(早出、遅出等)
 07 その他(具体的に: _____)

問 17 貴院における薬剤師のチーム医療の取組として、現在実施しているものを全てお選びください。(〇はいくつでも)

- 01 患者からの情報収集(投薬歴、持参薬等) 02 処方評価、医師への処方や服薬計画等の提案
 03 患者・患者家族に対する処方薬の説明 04 医薬品の副作用・効果等の確認
 05 他職種への医薬品の副作用等に係る情報提供 06 退院時の薬剤情報管理指導
 07 回診への参加 08 退院時カンファレンスへの参加
 09 在宅医療への参加 10 薬剤療法プロトコルの作成・実施
 11 処方オーダーの代行入力 12 薬剤師外来の実施
 13 外来化学療法の実施
 14 その他(具体的に: _____)

Ⅲ 貴院の薬剤関係部門の今後の方針についてお尋ねします。

問 18 貴院の薬剤関係部門における5年後の薬剤師の増減意向をお選びいただき、具体的な増減数をご記入ください。(〇は1つ)

- 01 増加させる ⇒ 増加人数(人)
 02 現状維持
 03 減少させる ⇒ 減少人数(人)
 04 わからない

問 19 貴院の5年後の病棟専任・専従薬剤師の増減意向をお選びいただき、具体的な増減数をご記入ください。(〇は1つ)

- 01 増加させる ⇒ 増加人数(人)
 02 現状維持
 03 減少させる ⇒ 減少人数(人)
 04 わからない

問 20 貴院における薬剤師のチーム医療の取組として、今後新たに実施を予定しているものを全てお選びください。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 01 患者からの情報収集（投薬歴、持参薬等） | 02 処方評価、医師への処方や服薬計画等の提案 |
| 03 患者・患者家族に対する処方薬の説明 | 04 医薬品の副作用・効果等の確認 |
| 05 他職種への医薬品の副作用等に係る情報提供 | 06 退院時の薬剤情報管理指導 |
| 07 回診への参加 | 08 退院時カンファレンスへの参加 |
| 09 在宅医療への参加 | 10 薬剤療法プロトコルの作成・実施 |
| 11 処方オーダーの代行入力 | 12 薬剤師外来の実施 |
| 13 外来化学療法の実施 | |
| 14 その他（具体的に： _____） | |

問 21 貴院の薬剤関係部門において働き方改革として現在取り組んでいるもの、将来的に取り組む予定のものを全てお選びください。(〇はいくつでも)

現在取り組んでいるもの	将来的に取り組む予定のもの
01 常勤薬剤師の増員	01 常勤薬剤師の増員
02 非常勤薬剤師の増員	02 非常勤薬剤師の増員
03 勤務時間管理の徹底	03 勤務時間管理の徹底
04 IT・システムの導入による業務の効率化	04 IT・システムの導入による業務の効率化
05 一部調剤業務の機械化・自動化	05 一部調剤業務の機械化・自動化
06 薬剤師以外の職員による調剤業務の一部補助	06 薬剤師以外の職員による調剤業務の一部補助
07 SPDの導入による薬剤師の業務軽減	07 SPDの導入による薬剤師の業務軽減
08 外来患者の院外処方箋の発行	08 外来患者の院外処方箋の発行
09 その他（具体的に： _____）	09 その他（具体的に： _____）

問 22 貴院の薬剤関係部門において取り組んでいる薬局との連携として該当するものを全てお選びください。(〇はいくつでも)

現在取り組んでいるもの	将来的に取り組む予定のもの
01 お薬手帳を活用した情報共有	01 お薬手帳を活用した情報共有
02 薬剤情報提供文書等を介した情報共有	02 薬剤情報提供文書等を介した情報共有
03 他病院薬剤師との勉強会の実施	03 他病院薬剤師との勉強会の実施
04 薬局との勉強会の実施	04 薬局との勉強会の実施
05 病院における実務研修の実施	05 病院における実務研修の実施
06 薬局薬剤師の受入れ研修の実施	06 薬局薬剤師の受入れ研修の実施
07 その他（具体的に： _____）	07 その他（具体的に： _____）

問 23 最後に、病院薬剤師に求められる役割や業務について、ご意見・ご要望をご自由にご記入ください。

ご協力いただきましてありがとうございました。
同封しました返信用封筒にて令和元年8月7日(水)までにご返送ください。

薬剤師需給予測

1. 推計方法.....	95
2. 結果.....	100

1. 推計方法

下記により、2019年度から2043年度までの薬剤師需給予測を実施した。

(1) 供給予測

供給予測は、以下の指数を用い、 $(①+②-③) \times ④$ により算出した。

■ 2018年度における県内の総薬剤師数の推計(①)

1963年度の静岡県の合格者数^{*1}に、同年に公表された23歳時^{*2}の死亡率^{*3}から算出した平均値を1から減じた値を乗じることにより、同年度の生存者数を算出した。これを1964年度から2018年度まで繰り返す^{*4}ことで、1963年度の合格者の2018年度時点の生存者数を算出した。

この算出を、1964年度から2018までの各年度における合格者について行い、2018年度時点の年齢別生存者の累積数を算出した。

※1 各年度における全国の合格者数に厚生労働省「平成30年医師・歯科医師・薬剤師調査」の従事先としての都道府県別薬剤師数のデータを使用して按分することで、静岡県分の合格者数を推計した。

また、二次保健医療圏別の推計にあたっては、同様に、厚生労働省「平成30年医師・歯科医師・薬剤師調査」における従事先の二次保健医療圏別薬剤師数のデータを使用して按分することで、静岡県内の二次保健医療圏別の合格者数を推計した。

※2 6年制の卒業生が多くを占める2012年度以降については25歳を適用した。

※3 国立社会保障・人口問題研究所「日本版死亡データベースの死亡率」を使用。

※4 2017年度以降の死亡率は同データベースに存在しないため、2018年度の合格者数の推計にあたっては2016年度の死亡率を使用した。

■ 2019年度以降の増加要因【薬剤師国家試験合格者】(②)

2019年度以降の推計は、今後の人口減少社会を考慮して、2019年度の入学者が6年後に受験する薬剤師国家試験までの期間(2024年度までの推計)は、2016年度～2018年度の国家試験合格者数の平均人数(9,752人)が毎年合格するものと仮定し、2025年度以降は、大学進学予定者数の将来推計をもとに、同程度の割合^{*5}で減少すると仮定して推計した。

また、2019年度以降、2016年度から2018年度の国家試験合格者数の平均人数(9,752人)が推計期間を通じて毎年合格すると仮定した場合の推計も行った。

なお、二次保健医療圏別の推計にあたっては、同様に、厚生労働省「平成30年医師・歯科医師・薬剤師調査」の従事先としての二次保健医療圏別薬剤師数のデータを使用して按分することで、静岡県内の二次保健医療圏別の合格者数を推計した。

※5 文部科学省ホームページ「大学進学者数の将来推計について」では、2017年の63万人から2040年には50.6万人（約80%の規模）に減少するとされていることから、2025年度以降は2043年度までに2割減少すると仮定して、減少数は毎年按分して試算した。

■ 2019年度以降の減少要因（③）

2019年度以降の減少要因としては、2018年度厚生労働科学研究班による推計方法に準拠し、70歳を超える薬剤師数は離職・退職・死亡したものと設定した。また、70歳以下の薬剤師数は国立社会保障・人口問題研究所「日本版 死亡データベース」の死亡率^{*4}により補正した。

■ 補正係数の設定（④）

上記の①+②-③による2018年度の推計薬剤師数を、厚生労働省「平成30年医師・歯科医師・薬剤師調査」の結果と比較し設定した。

(2) 需要予測

需要予測は、下記アからキのとおり就業場所別に推計し、積み上げて算出した。

ア 薬局の従事者

薬局の従事者は、以下により推計された処方箋枚数を、薬剤師1人当たり処方箋枚数で除して推計した(③÷④)。

■ 投薬対象数の推計(①)

2018年度の投薬対象数(日)^{※6}に、静岡県の65歳以上人口^{※7}の推計年度における2018年度比を乗じて各年度の投薬対象数(日)を求めた。

同様に、二次保健医療圏別の推計にあたっては、各二次保健医療圏の65歳以上人口^{※8}の推計年度における2018年度比を乗じて投薬対象数(日)を求めた。

※6 日本薬剤師会「処方箋受取率の推計『全保険(社保+国保+老人)』」
医科医療(入院外)及び歯科診療の診療実日数に各投薬率を乗じた合計

※7 国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口(平成30年推計)」

※8 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(2018年推計)」

■ 処方箋受取率の推計(②)

処方箋受取率(枚/日)^{※9}について、2013年度から2018年度までの5か年度の伸び率を算出し、その平均値を平均伸び率として、2019年度以降は平均伸び率で増加していくものとした。

二次保健医療圏別の推計にあたっては、二次保健医療圏別の処方箋受取率^{※10}の2017年度から2018年度の伸び率を算出し、2019年度以降はその伸び率で増加していくものとした。

なお、いずれにおいても、2018年度に全国で最も高い処方箋受取率であった青森県(84.9%)と同程度(85%)まで上昇し、その後は横ばいとなるものとした。

※9 日本薬剤師会「処方箋受取率の推計『全保険(社保+国保+老人)』」における静岡県の処方箋受取率は、2013年度70.3%、2018年度76.6%

※10 処方箋受取率(二次保健医療圏別)

県薬事課調査

	賀茂	熱海伊東	駿東田方	富士	静岡	志太榛原	中東遠	西部
2017年度	79.0	72.4	77.7	69.1	75.4	88.0	83.8	67.1
2018年度	79.5	73.8	77.9	70.3	76.7	88.3	84.9	68.1

■ 処方箋枚数の推計（③）

投薬対象数（日）に処方箋受取率（枚／日）を乗じて（①×②）処方箋枚数（枚）を推計した。

■ 薬局薬剤師 1 人当たり処方箋枚数の推計（④）

③において推計された静岡県及び二次保健医療圏毎の 2019 年度の処方箋枚数を（1）で算出した 2019 年度の静岡県及び二次保健医療圏毎の薬剤師数で除して 2019 年度の薬剤師 1 人当たり処方箋枚数^{※11}を推計し、2019 年度以降はそのまま推移するものとした。

さらに、薬局に対して実施したアンケートで 7 割を超える薬局が在宅業務に取り組む意向であることや第 8 次静岡県保健医療計画（平成 30 年 3 月策定）における在宅医療等の訪問診療分の供給量推計に基づき、在宅業務の伸展による薬剤師の業務量増により 2025 年までに 1 人当たり処方箋枚数が一定数減少^{※11}し、2026 年以降は 2025 年の水準を維持するものとした場合について推計した。

※11 薬剤師 1 人当たり処方箋枚数 (枚/人)

	静岡県	賀茂	熱海伊東	駿東田方	富士	静岡	志太榛原	中東遠	西部
2019 年度	4,816	9,976	6,851	4,667	4,548	4,253	5,325	6,010	4,242
2025 年度	4,174	8,757	5,905	4,002	3,917	3,603	4,818	5,505	3,553

イ 病院・診療所の従事者

病院・診療所の薬局の従事者は、病床数を薬剤師 1 人当たり病床数で除して推計した（①÷②）。

■ 病床数の推計（①）

地域包括ケアシステムの進展に向けて、一般病床、療養病床については、地域医療構想の策定や病床機能報告制度の実施が進められるなど、全国で病床規模の適正化が進められている。これを踏まえ 2018 年時点での病床数^{※12}と 2025 年における病床の必要量（いずれも一般病床、療養病床）^{※13}をもとに、2018 年から 2025 年までの病床数を按分して推計し、2026 年以降は 2025 年の水準を維持するものとした。

また、精神病床、感染症病床、結核病床については、厚生労働省「平成 30 年医療施設（動態）調査」における静岡県の病床数の合計値が維持されるものとした。

※12 厚生労働省「平成 30 年医療施設（動態）調査」

※13 静岡県地域医療構想（平成 28 年 3 月）

■ 薬剤師 1 人当たり病床数の推計 (②)

2018 年度における静岡県及び二次保健医療圏の病床数（一般病床、療養病床、精神病床、感染症病床、結核病床）を、同年度の静岡県及び二次保健医療圏の医療機関に勤務する薬剤師数^{※14}で除して、医療機関に勤務する薬剤師 1 人当たり病床数を推計し、2019 年度以降はそのまま推移するものとした。

さらに、本調査における病院を対象としたアンケート結果において、病院の薬剤関係部門において今後の薬剤師の増員意向が高い病院が一定数あることを踏まえ、2018 年度から 2025 年度までに、2016 年度において最も高い水準である東京都（20.2 床/人）と同程度の 20.0 床/人まで配置水準が一律上昇^{※15}し、2026 年度以降は 2025 年度の水準を維持する場合について推計した。

※14 厚生労働省「平成 30 年医師・歯科医師・薬剤師調査」

※15 薬剤師 1 人当たり病床数

	静岡県	賀茂	熱海伊東	駿東田方	富士	静岡	志太榛原	中東遠	西部
2018 年度	26.2	60.0	26.7	26.7	25.4	26.9	32.8	33.8	24.7
2019 年度	25.3	54.3	25.7	25.7	24.6	25.9	31.0	31.8	24.0
2025 年度	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0

ウ 大学の従事者

大学の従事者は、厚生労働省「平成 30 年医師・歯科医師・薬剤師調査」の人数で一定であると仮定し、推計した。

エ 医薬品関係企業の従事者

医薬品関係企業の従事者は、厚生労働省「平成 30 年医師・歯科医師・薬剤師調査」の人数で一定であると仮定し、推計した。

オ 衛生行政機関又は保健衛生施設の従事者

衛生行政機関又は保健衛生施設の従事者は、厚生労働省「平成 30 年医師・歯科医師・薬剤師調査」の人数で一定であると仮定し、推計した。

カ その他の業務の従事者

その他の業務の従事者については、厚生労働省「平成 30 年医師・歯科医師・薬剤師調査」の人数で一定であると仮定し、推計した。

キ 無職・不詳の者

無職・不詳の者については、厚生労働省「平成 30 年医師・歯科医師・薬剤師調査」の人数で一定であると仮定し、推計した。

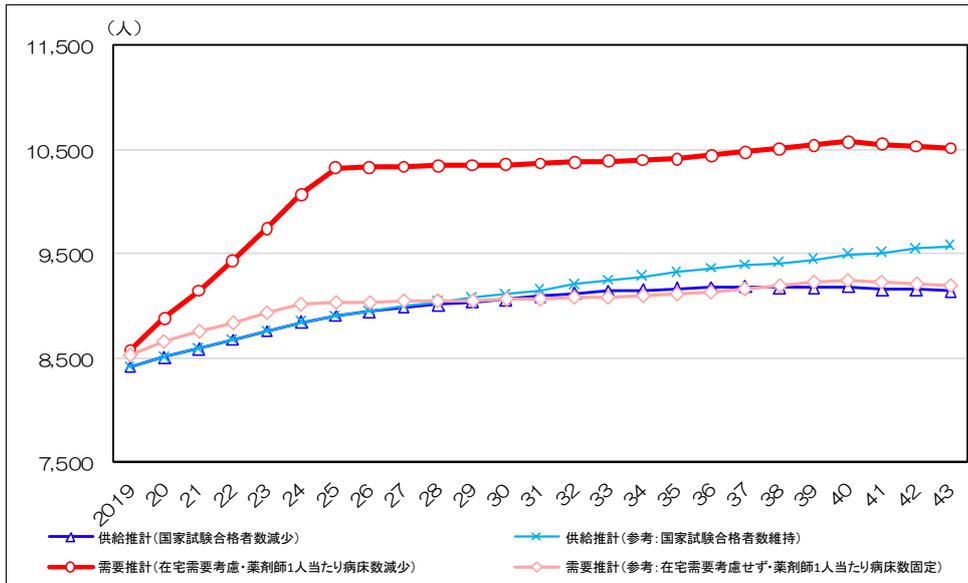
2. 結果

薬剤師需給予測の結果は以下の通りである。

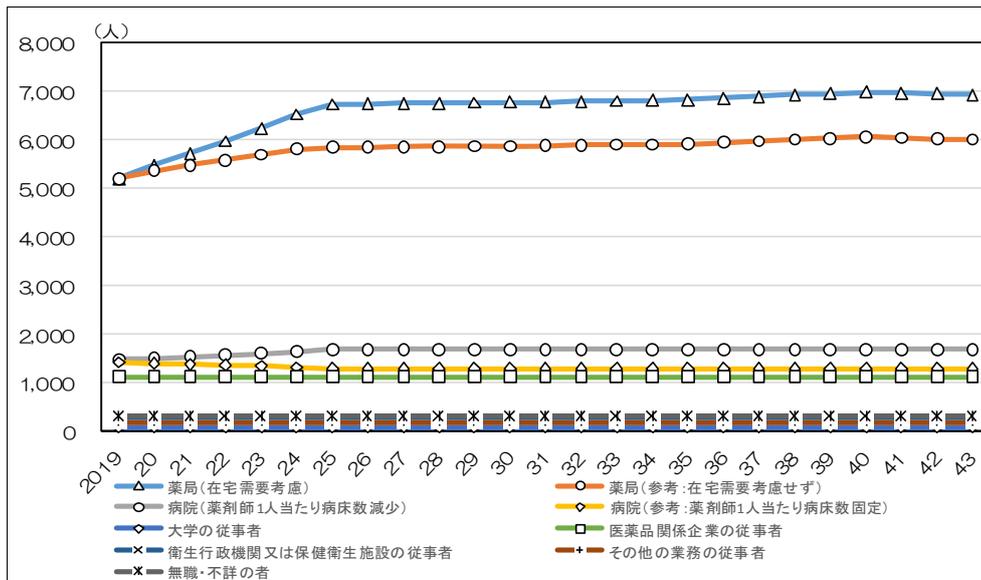
(1) 静岡県全体

県全体では、推計期間を通じて、在宅需要の伸びや薬剤師1人当たり対応する病床数の減少を考慮した薬剤師の需要（○）が供給（△×）を上回った。

図表 81 薬剤師需給予測結果【全県】



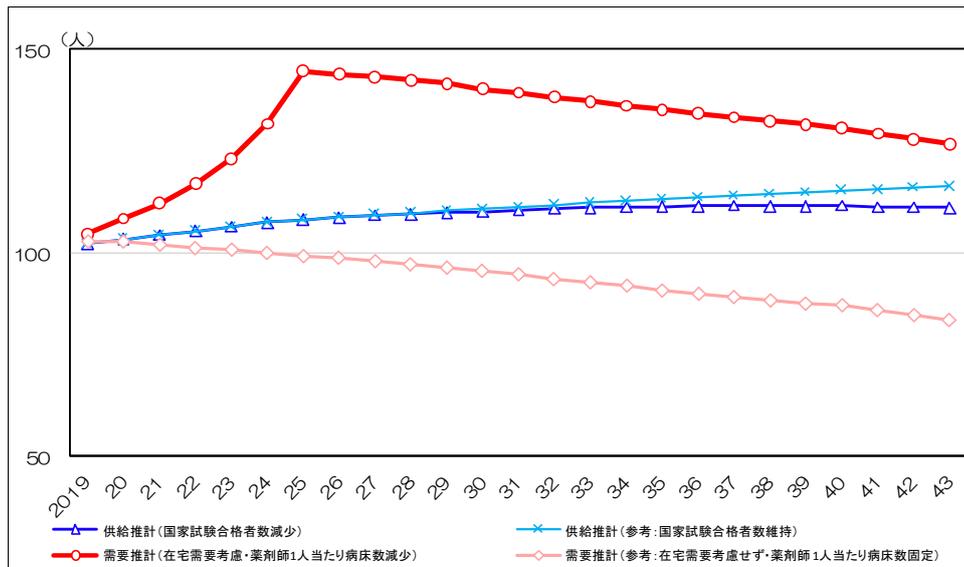
図表 82 薬剤師需要予測結果；就業場所別【全県】



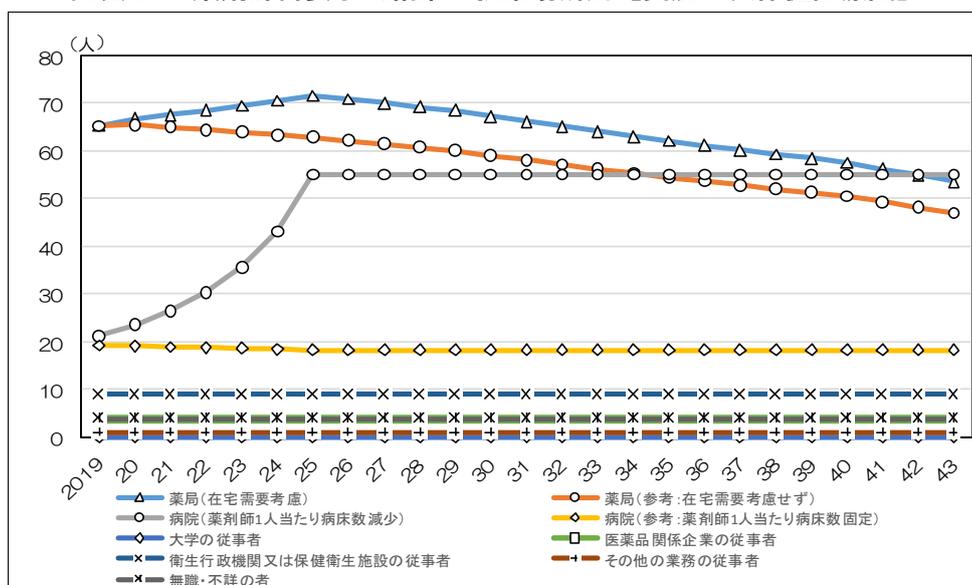
(2) 賀茂二次保健医療圏

賀茂二次保健医療圏（下田市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町）では、推計期間を通じて需要（○）が供給（△×）を上回っているが、急速な65歳以上人口の減少に伴い、2025年以降は需要（○）も減少傾向となる。

図表 83 薬剤師需給予測結果【賀茂二次保健医療圏】



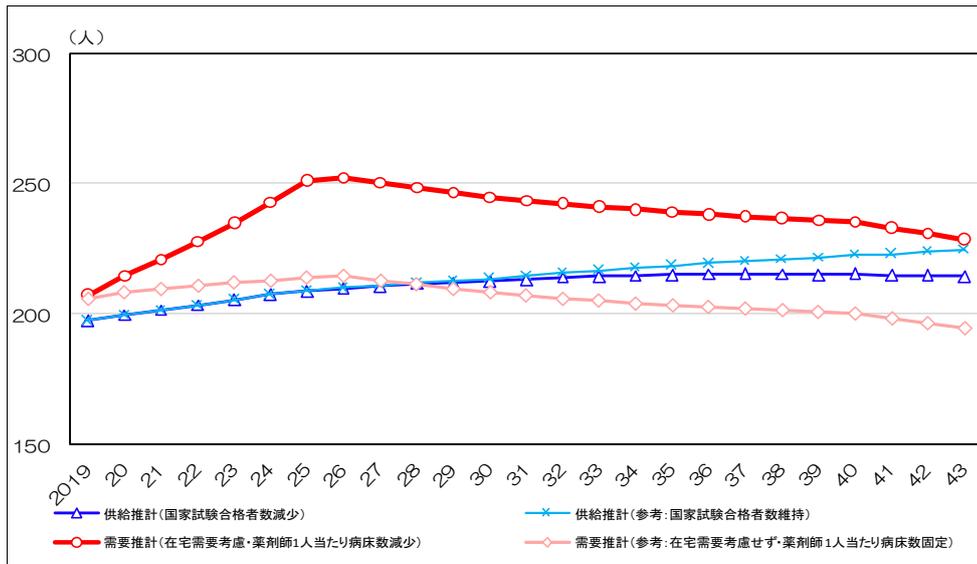
図表 84 薬剤師需要予測結果；就業場所別【賀茂二次保健医療圏】



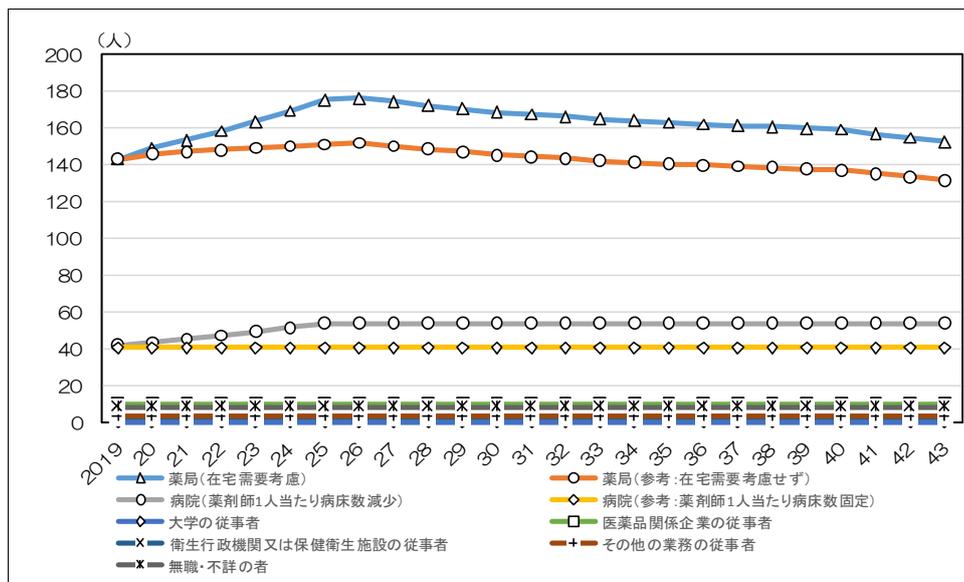
(3) 熱海伊東二次保健医療圏

熱海伊東二次保健医療圏（熱海市、伊東市）では、推計期間を通じて需要（○）が供給（△×）を上回っているが、65歳以上人口の減少に伴い、2026年以降は需要（○）も減少傾向となる。

図表 85 薬剤師需給予測結果【熱海伊東二次保健医療圏】



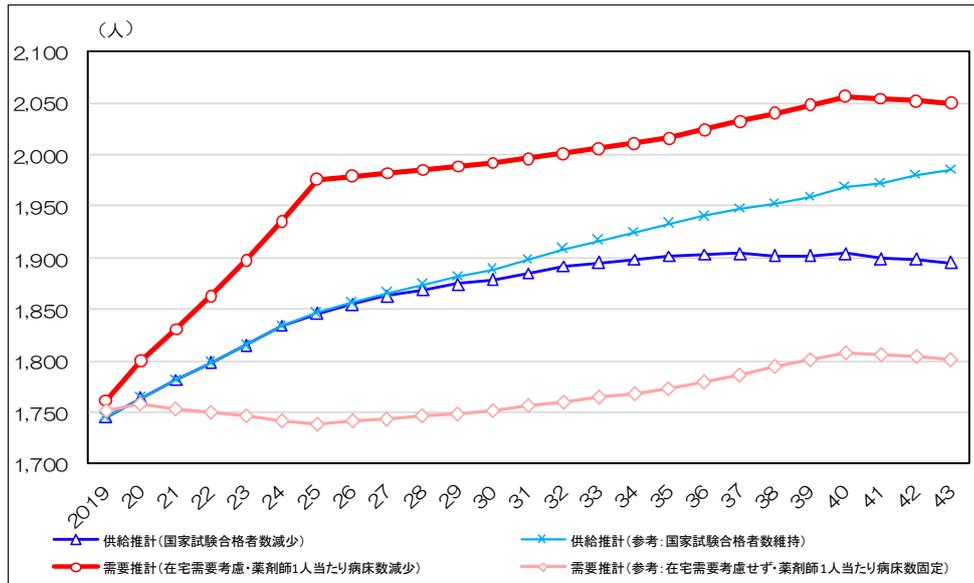
図表 86 薬剤師需要予測結果；就業場所別【熱海伊東二次保健医療圏】



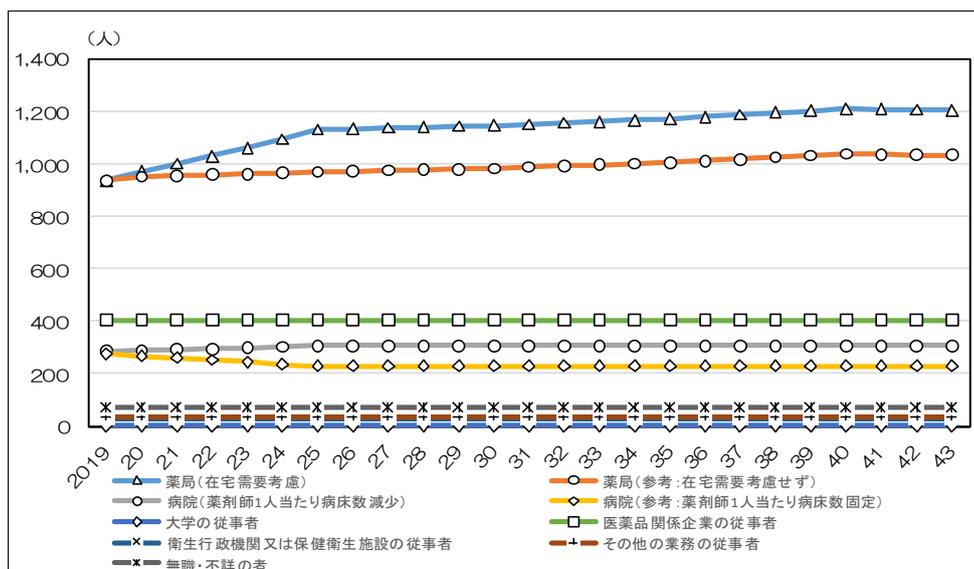
(4) 駿東田方二次保健医療圏

駿東田方二次保健医療圏（沼津市、三島市、御殿場市、裾野市、伊豆市、伊豆の国市、函南町、清水町、長泉町、小山町）では、推計期間を通じて需要（○）が供給（△×）を上回っており、65歳以上人口の増加に伴い、2040年度まで需要は増加傾向にある。

図表 87 薬剤師需給予測結果【駿東田方二次保健医療圏】



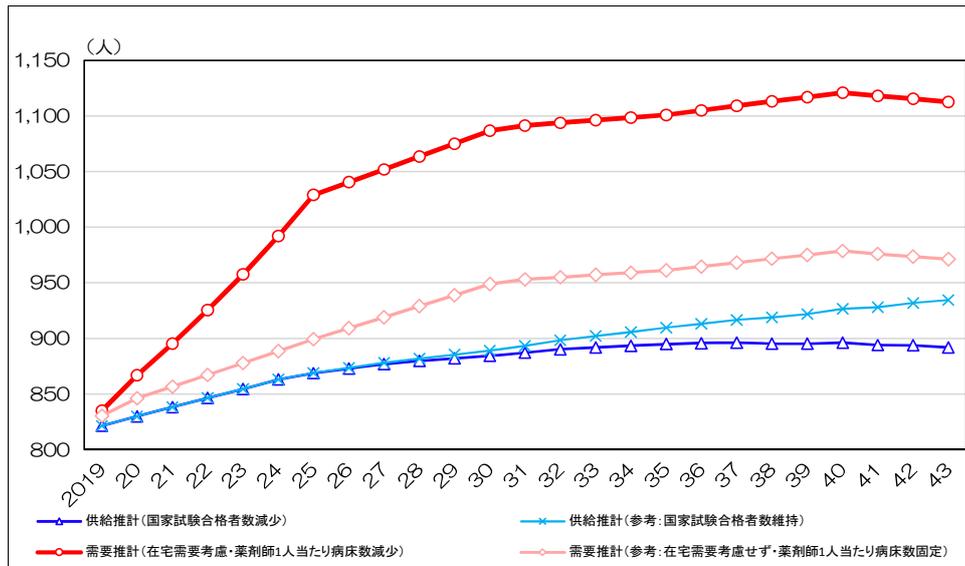
図表 88 薬剤師需要予測結果；就業場所別【駿東田方二次保健医療圏】



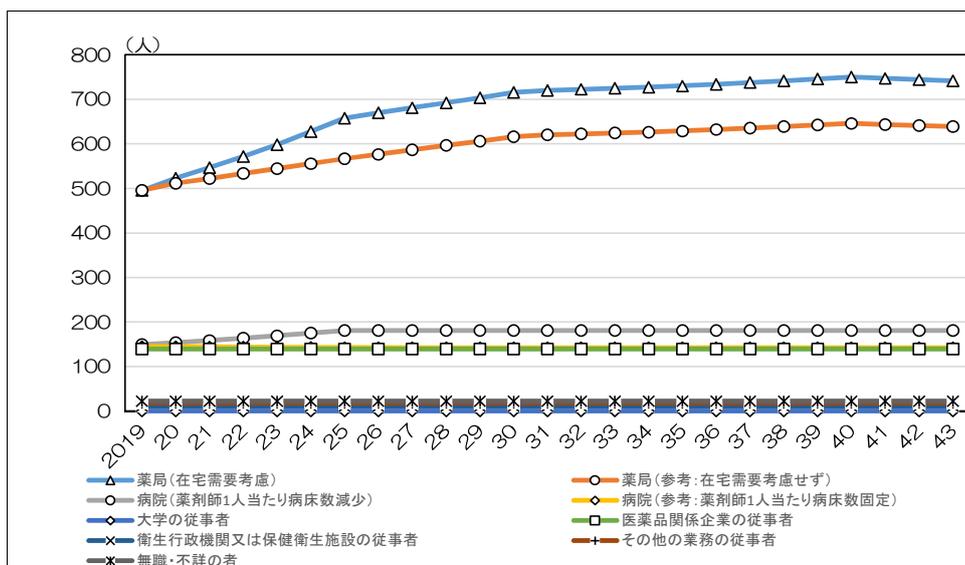
(5) 富士二次保健医療圏

富士二次保健医療圏（富士宮市、富士市）では、推計期間を通じて需要（○◇）が供給（△×）を上回っている。65歳以上人口の増加に伴い、2040年度まで需要は増加傾向にある。

図表 89 薬剤師需給予測結果【富士二次保健医療圏】



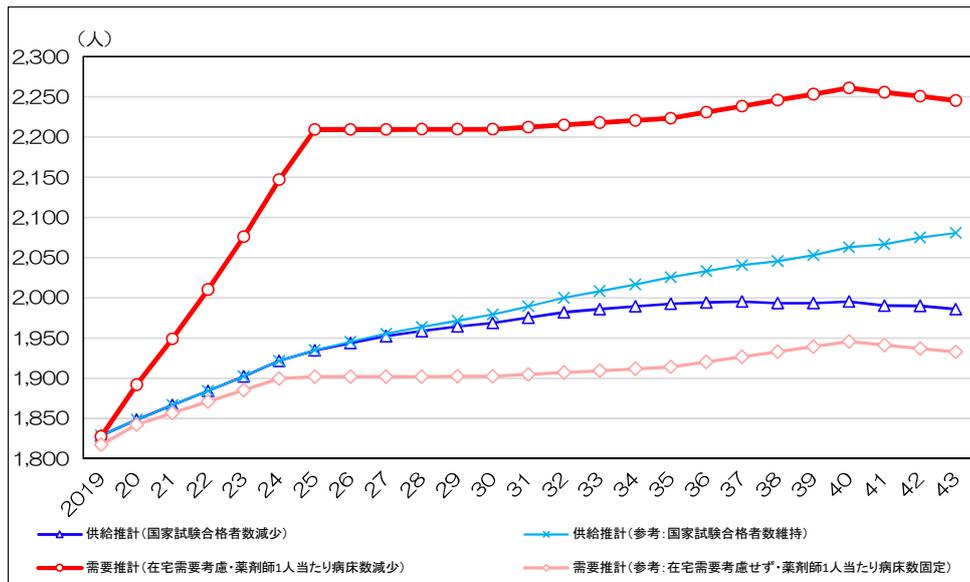
図表 90 薬剤師需要予測結果；就業場所別【富士二次保健医療圏】



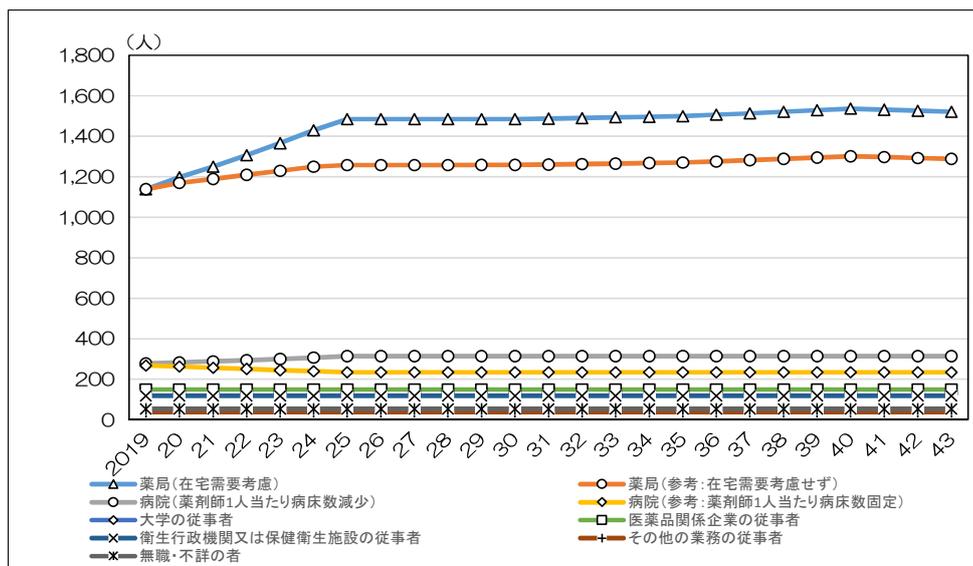
(6) 静岡二次保健医療圏

静岡二次保健医療圏（静岡市）では、2020年以降、需要（○）が供給（△×）を上回っている。また、65歳以上人口の増加に伴い、2040年度まで需要は増加傾向にある。

図表 91 薬剤師需給予測結果【静岡二次保健医療圏】



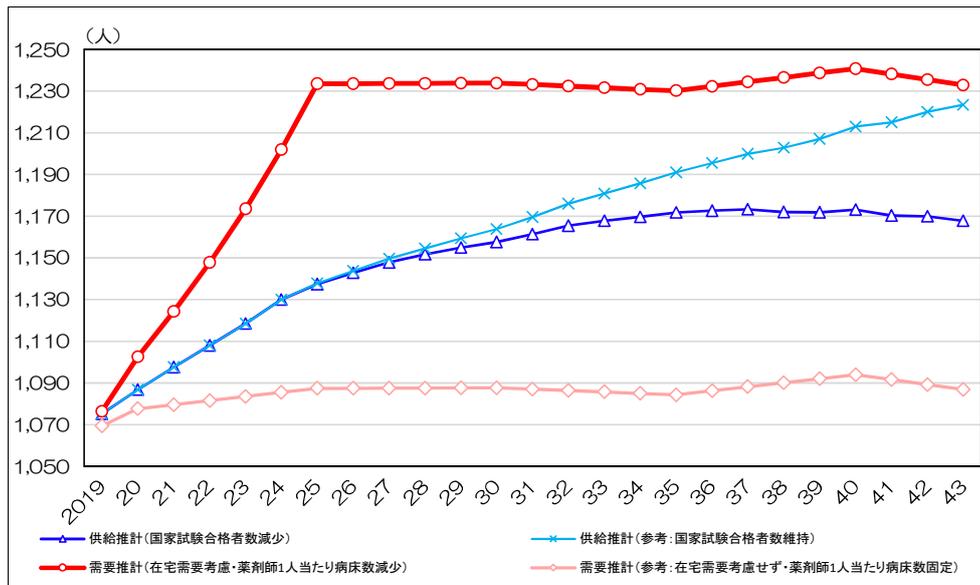
図表 92 薬剤師需要予測結果；就業場所別【静岡二次保健医療圏】



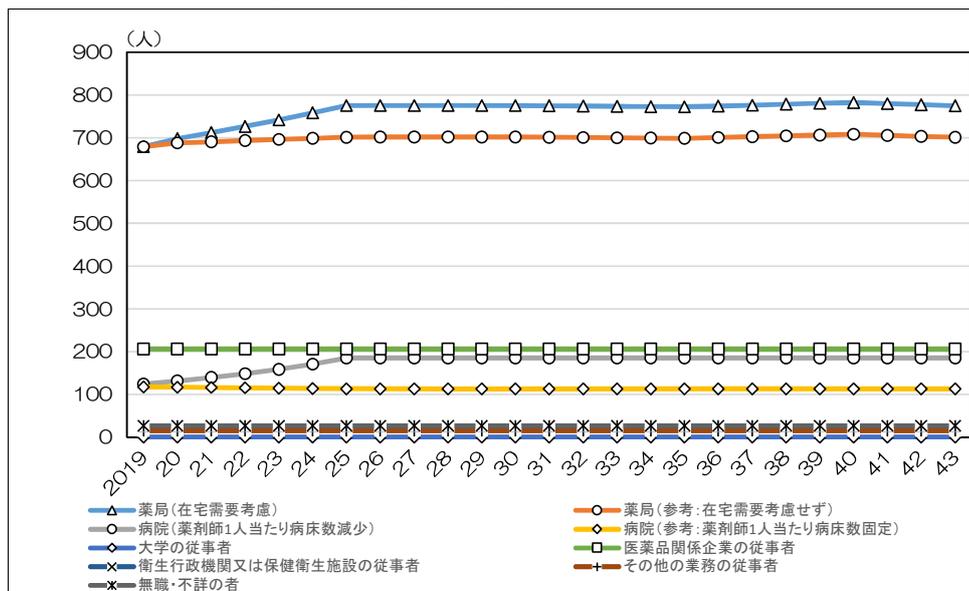
(7) 志太榛原二次保健医療圏

志太榛原二次保健医療圏（島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市、吉田町、川根本町）では、推計期間を通して需要（○）が供給（△×）を上回っている。

図表 93 薬剤師需給予測結果【志太榛原二次保健医療圏】



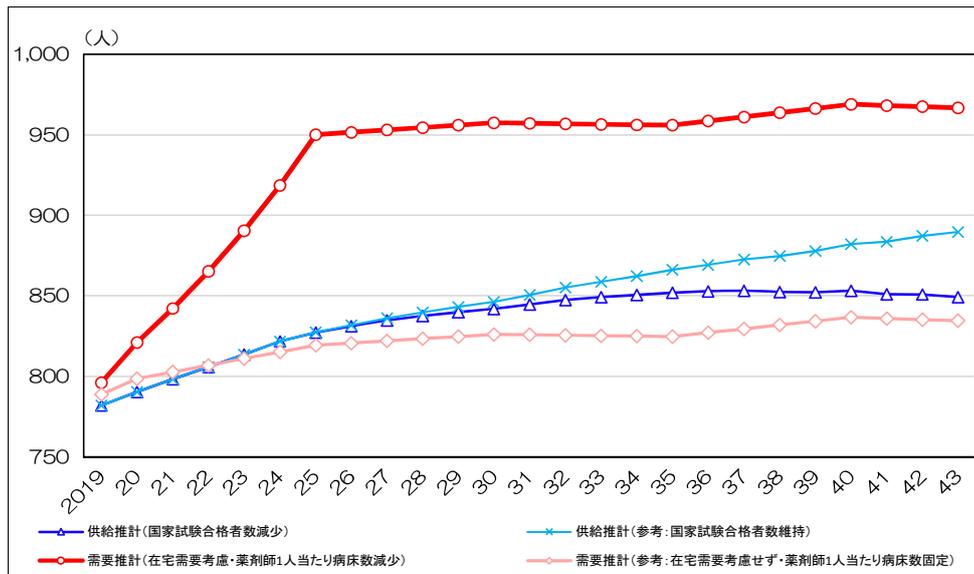
図表 94 薬剤師需要予測結果；就業場所別【志太榛原二次保健医療圏】



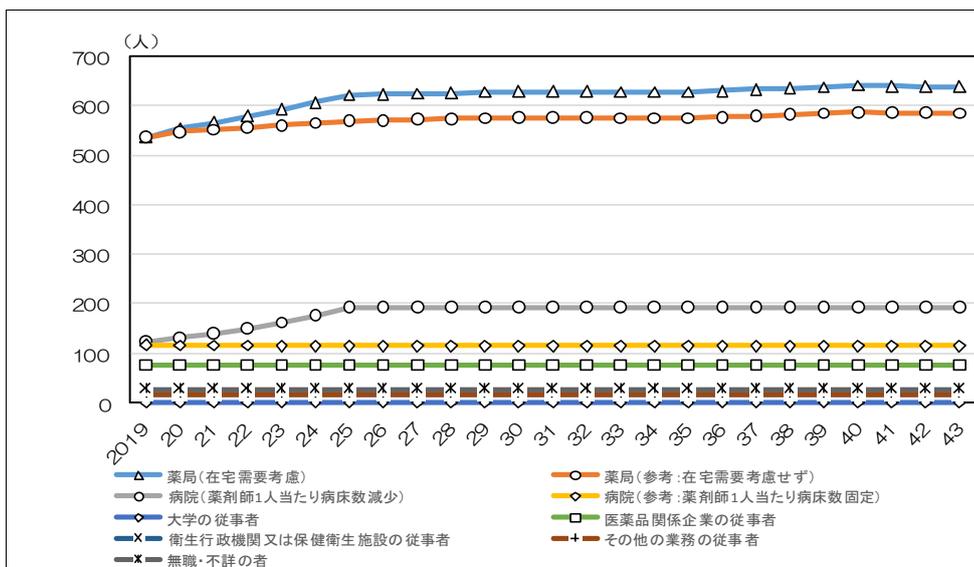
(8) 中東遠二次保健医療圏

中東遠二次保健医療圏（磐田市、掛川市、袋井市、御前崎市、菊川市、森町）では、推計期間を通して、需要（○）が供給（△×）を上回っている。65歳以上人口の増加に伴い、2040年度まで需要は増加傾向にある。

図表 95 薬剤師需給予測結果【中東遠二次保健医療圏】



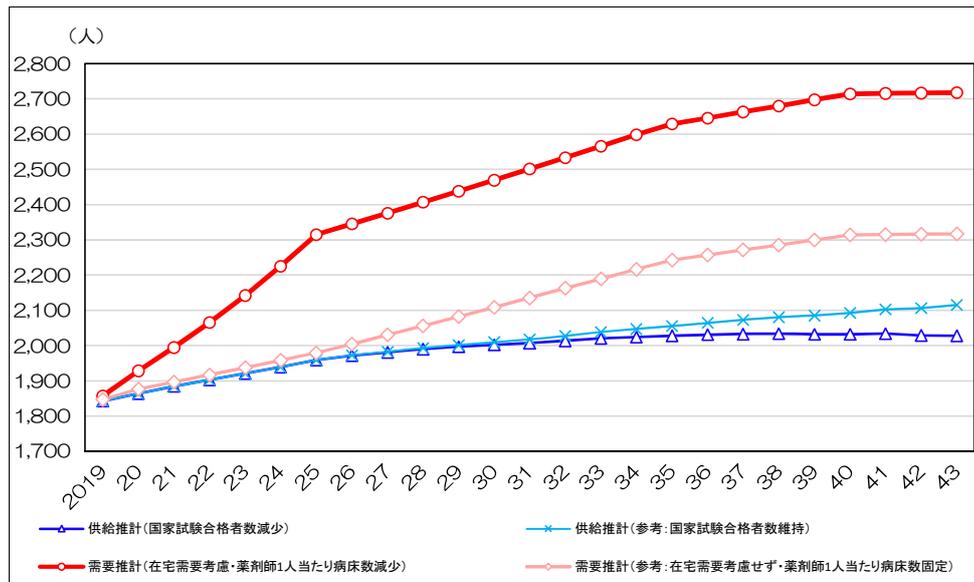
図表 96 薬剤師需要予測結果；就業場所別【中東遠二次保健医療圏】



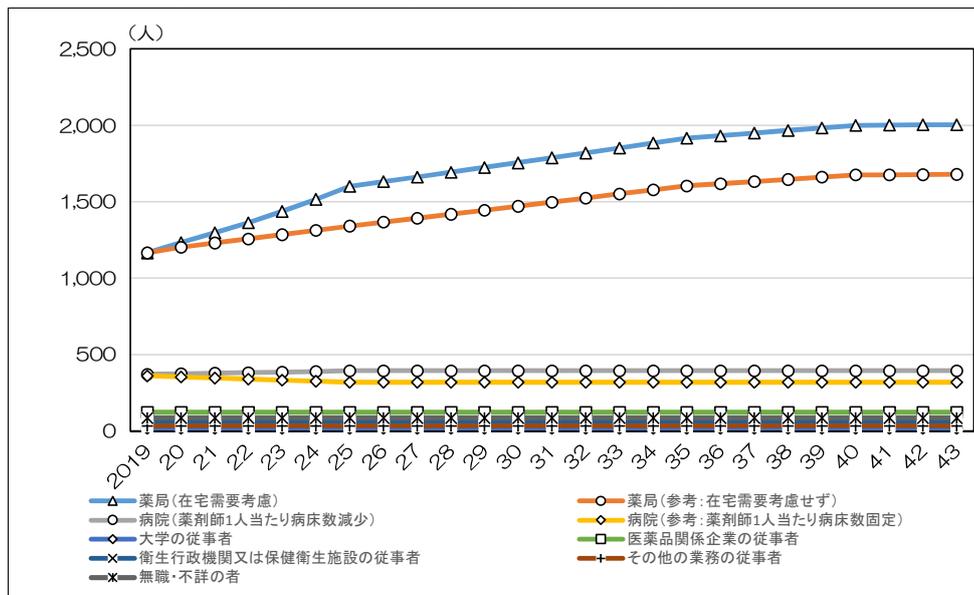
(9) 西部二次保健医療圏

西部二次保健医療圏（浜松市、湖西市）では、推計期間を通して需要（○◇）が供給（△×）を上回っている。65歳以上人口の増加に伴い、推計期間を通じて需要は増加傾向にある。

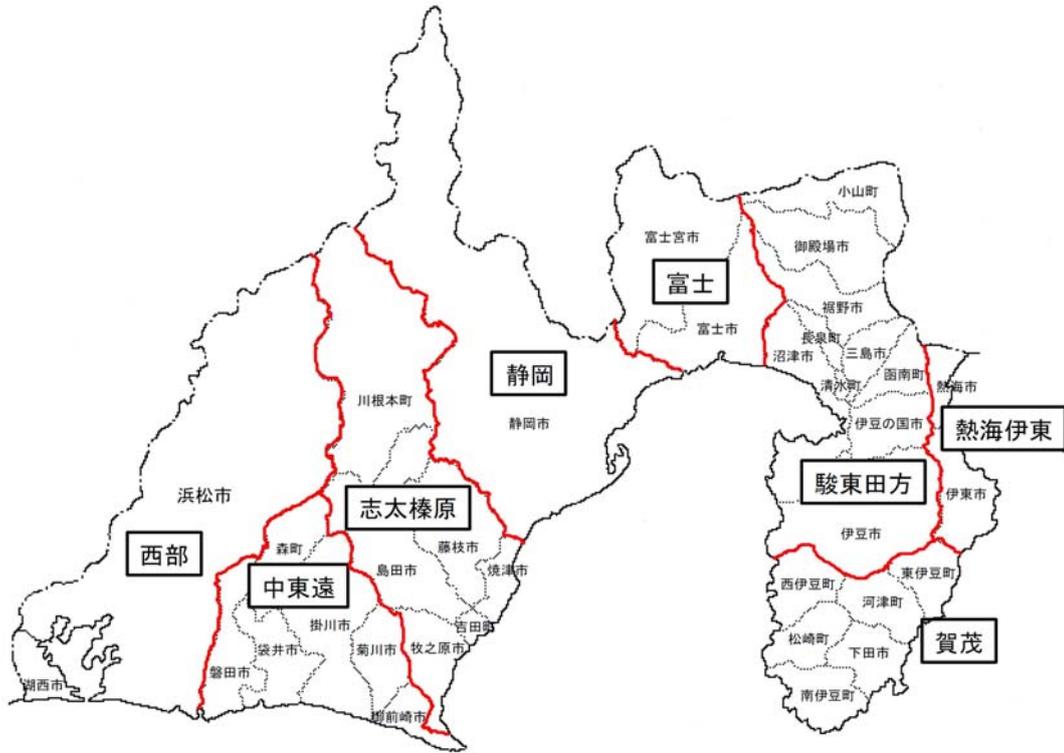
図表 97 薬剤師需給予測結果【西部二次保健医療圏】



図表 98 薬剤師需要予測結果；就業場所別【西部二次保健医療圏】



参考 静岡県二次保健医療圏域図



圏域名	構成市町名
賀茂	下田市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町
熱海伊東	熱海市、伊東市
駿東田方	沼津市、三島市、御殿場市、裾野市、伊豆市、伊豆の国市、函南町、清水町、長泉町、小山町
富士	富士宮市、富士市
静岡	静岡市
志太榛原	島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市、吉田町、川根本町
中東遠	磐田市、掛川市、袋井市、御前崎市、菊川市、森町
西部	浜松市、湖西市

令和元年度地域における薬剤師・薬局の
機能強化及び調査・検討事業費
(衛生関係指導者養成等委託費)

かかりつけ薬剤師・薬局及び
薬薬連携推進に向けた
薬剤師の需給動向等調査報告書

令和2年3月発行

静岡県健康福祉部
生活衛生局薬事課

〒420-8601

静岡市葵区追手町9番6号

電話番号 054-221-2411

